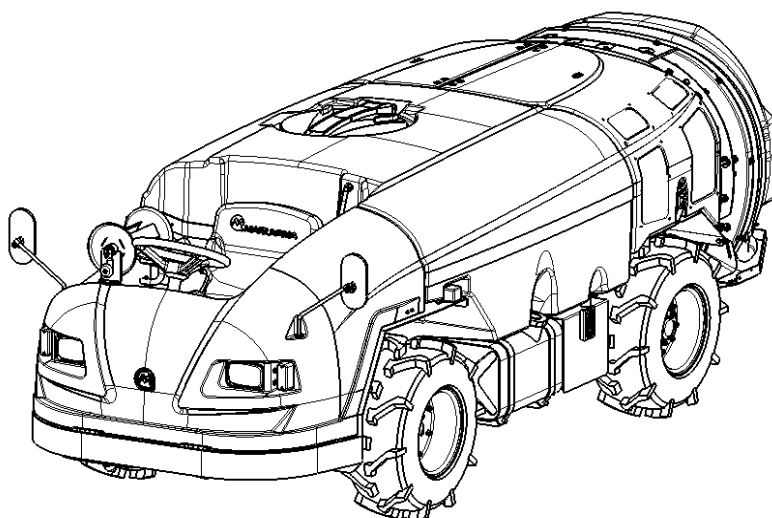


取扱説明書

ステレオスプレーヤ

SSA-E1002α



この度は、当社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

- この取扱説明書には、事故を防ぐ重要な注意事項と本製品の取扱方法が指示されています。
- 本製品を使用する前に、本取扱説明書を熟読し、十分理解された上で、ご使用ください。
- 本取扱説明書は必要な時にすぐに参照できるよう、大切に保管してください。
- 本取扱説明書が損傷や紛失により読めなくなった場合は、ご購入の販売店からお買い上げください。

お知らせ

- 本製品は日本国内専用です。日本国内のみでご使用ください。
- 製品出荷時は、燃料を少量しか入れておりません。給油してからご使用ください。

はじめに

- 本製品は果樹園における防除作業を目的とした製品です。
- 目的以外の作業への使用や改造を行った場合は、保証の対象外となります。上記に示した以外での作業や改造が原因での事故に関して、一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 製品の仕様変更などにより、ご購入の製品と本書の内容が一致しない場合がございます。
- 本取扱説明書は一般使用者および業務で本製品を使用される方、現場責任者を対象としています。
- 関係法令（道路運送車両法、道路交通法、農薬取締法、消防法、廃棄物処理法）を遵守してください。
- 万一来備え、労災保険に加入しましょう。
特定農作業従事者、指定農業機械作業従事者は加入できます。詳しくは農協（JA）または都道府県労働局にお尋ねください。

⚠ 安全に作業するために

■ 使用目的

本製品は健康な 16 歳以上の人々が、果樹園における防除作業を目的とした製品です。けがや本製品の破損のおそれがあるため、目的以外の作業へ使用しないでください。

■ 警告表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取り扱い上の注意事項について次のように表示しています。

⚠ 危険 … もし警告に従わなかった場合、死亡または重傷に至るもの。

⚠ 警告 … その警告に従わなかった場合、死亡または重傷に至るおそれがあるもの。

⚠ 注意 … その警告に従わなかった場合、けがに至るおそれがあるもの。および本製品や周辺の物的損害が発生するおそれがあるもの。

■ その他の表示について

お知らせ … 製品および付属品の取り扱いなどに関する重要な注意事項。

お願い …… 必ず実施していただきたい推奨事項。

■ シンボルマークについて

本製品および取扱説明書に下記のシンボルマークを掲載しています。このシンボルマークの意味をご理解の上で、ご使用ください。



製品の取り扱いにおいて、その行為を禁止する表示マーク。



製品の取り扱いにおいて、発火、破裂、高温などに関する注意事項であることを示す表示マーク。



製品の取り扱いにおいて、指示に基づく行為を強制する表示マーク。

	ご使用前に、取扱説明書をよく読んで理解し、使用すること。	火気厳禁 	ガソリンは引火性が高いので、給油の際は必ずエンジンを停止すること。また、こぼれた燃料は必ず拭き取ること。
	排気ガスは人体に有害です。室内などの換気の悪い場所では運転しないこと。		バッテリーが破裂（爆発）するおそれがあること。
	指または手を切傷するのでファンに触れないこと。		指または手を切傷するのでベルトに触れないこと。
高温注意 	やけど防止のため、運転中およびエンジン停止後しばらくは、シリンダやマフラーなどの高温部に触らないこと。		

本製品は農薬を散布する機械です。取扱方法を誤ると事故を招きます。下記の注意事項を必ず守ってください。

⚠ 危 険	
	下記の項目を必ず守ってください。 守らないと火災や事故に至ります。 ■ 強酸性の薬品、強アルカリ性の薬品、塗料、シンナー、ガソリン、灯油、ベンジン、アルコールなどを噴霧しないでください。 ■ 引火性の高い薬剤は使用しないでください。
	下記の項目を必ず守ってください。 守らないと火災や事故に至ります。 ■ 燃料の給油時や本製品を点検、整備するときは、本製品の近くで喫煙など火を使わないでください。 ■ 燃料を給油するときは、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。 ■ 作業中に燃料が漏れている場合は、火災に至るおそれがあり大変危険です。直ちにエンジンを停止して、ご購入の販売店に修理を依頼してください。 ■ 静電気による発火のおそれがあるため、燃料の保管・運搬には樹脂製の容器を使用しないでください。 ■ 燃料の運搬には金属製燃料缶を使用してください。
	下記の項目を必ず守ってください。 守らないと火災や事故に至ります。 ■ 作業を中断するときは、エンジンを停止してください。 ■ エンジンは停止直後も高温ですので、可燃物を近付けないでください。 ■ 排気ガスは高温のため、排気ガスが放出される方向にある枯れ枝・枯葉などの可燃物を取り除いてから作業してください。

⚠ 警 告	
	使用目的以外の使用禁止 ■ 本製品は農薬の散布を目的とした製品です。目的以外の作業には使用しないでください。 目的以外に使用すると、安全性を損なうおそれがあります。また、本製品が破損するおそれもあります。
	改造禁止 ■ 本製品の改造は行わないでください。 安全性を損ない事故や重傷に至るおそれがあります。
	部品取り禁止 ■ 本製品から組立部品や部品単体を取り外して、他の製品で使用しないでください。 他の製品に使用すると本来の性能が発揮できないだけでなく、使用した製品の破損、事故や重傷に至るおそれがあります。

警告

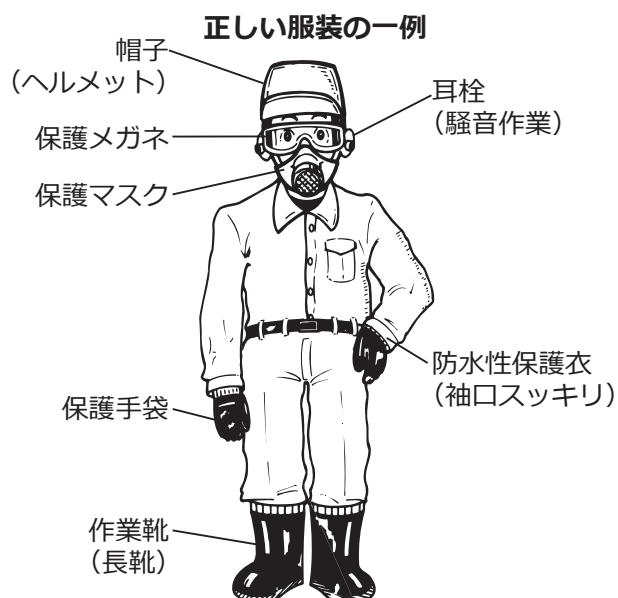
使用者に関する注意事項

- 体調の悪いとき、酒類を飲んだときは作業しないでください。
正しい使い方ができず事故や重傷に至るおそれがあります。
- 16 歳未満の人、妊娠している人は作業しないでください。
正しい使い方ができず事故や重傷に至るおそれがあります。
- 生理中や産後 1 年を経過していない女性、負傷中などの人は作業しないでください。
薬剤による影響を受け、薬害に至るおそれがあります。

使用環境に関する注意事項

- 降雨時や落雷のおそれがあるとき、夜間など見通しが悪いときは作業しないでください。
感電、被雷、転倒、転落など事故や重傷に至るおそれがあります。
- 足元が滑りやすい場所、急傾斜地では作業しないでください。
転倒してけがに至るおそれがあります。
- 本製品を室内などの換気の悪い場所では運転しないでください。
一酸化炭素中毒に至るおそれがあります。

作業着、保護具について



- 身体を露出しないように、防水性保護衣、帽子（走行時はヘルメットも着用）、耳栓、保護メガネ、保護マスク、保護手袋、作業靴（長靴）などの保護具を必ず装着してください。
保護具が不適切な場合、薬剤が身体に付着し、薬害に至るおそれがあります。

本製品を他人に貸すとき

- 本製品を他人に貸す場合は取扱方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
正しい使い方ができず事故や重傷に至るおそれがあります。
- 薬剤の取り扱いに注意してください。万一目や口に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い流し、医師の診察を受けてください。
そのまま放置すると、失明や重傷に至るおそれがあります。

注意

始業点検の重要性

- 作業の前に始業点検を行ってください。
作業前に点検を行い、処置することにより故障や事故を未然に防ぐことができます。詳細は 29 ページの「5. 始業点検（作業前点検）」を参照してください。
また、いつもと違う音・臭い・振動がするときは、故障しているおそれがありますのでご購入の販売店に点検を依頼してください。

警告ラベルの取り扱い

⚠ 注 意



下記の項目を守ってください。

本製品の正しい使い方を確認できず、けがに至るおそれがあります。

- 警告ラベル表面の汚れや泥をとり、いつも表示内容がはっきりと見えるようにしてください。
- 警告ラベルが損傷したときは、新しいラベルを同じ位置に貼り替えてください。
※ 新しいラベルについては、ご購入の販売店に部品番号で注文してください。
- 警告ラベルが貼ってある部品を交換したときは、その部品にも必ず新しい警告ラベルを同じ場所に貼ってください。

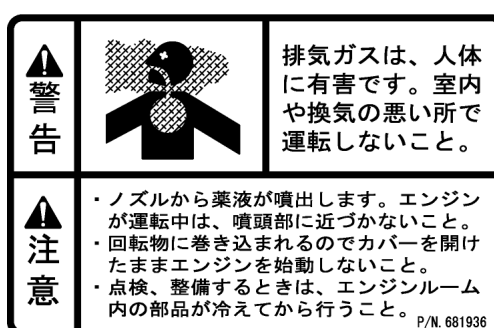
※ 本製品には、下の図に示す位置に下記の警告ラベルが貼ってあります。

本製品のご使用前に 1 ページの「■ シンボルマークについて」を参照し、その意味を理解した上で、下記ラベルの表示内容を守って作業してください。また型式名、製造番号は、アフターサービスを受けるときに必要です。ご確認の上、最後のページ「サービスと保証について」の欄にメモしてください。

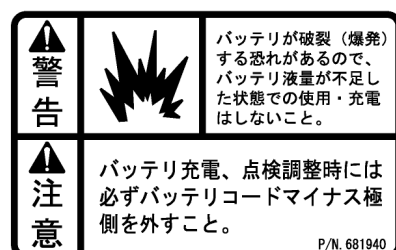
① 危険ラベル(部品番号 :695926)



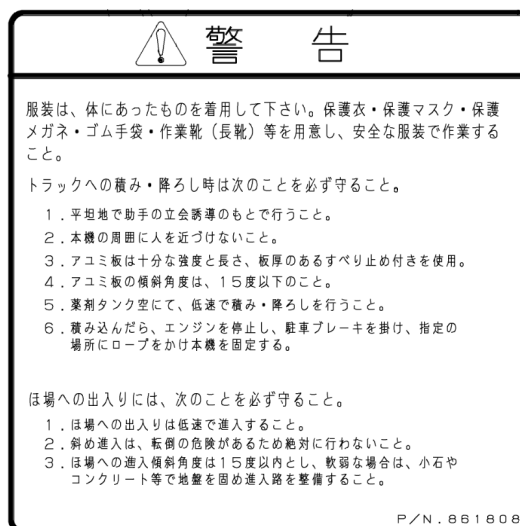
② 警告・注意ラベル(部品番号 :681936)



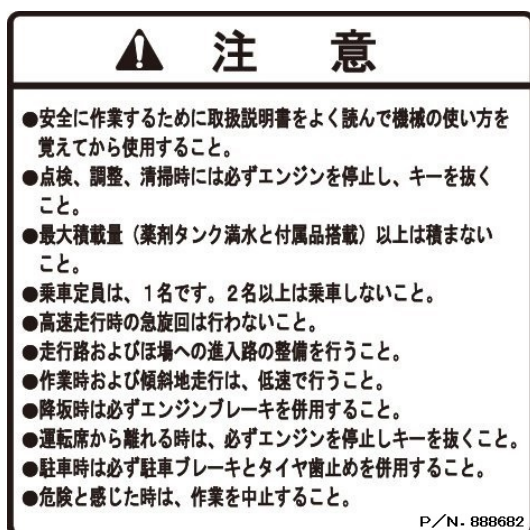
③ 警告・注意ラベル(部品番号 :681940)



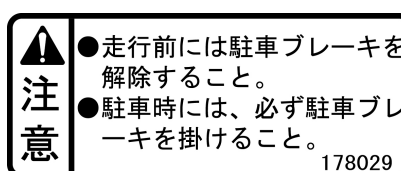
④ 警告ラベル(部品番号 :861808)



⑤ 注意ラベル(部品番号 :888682)



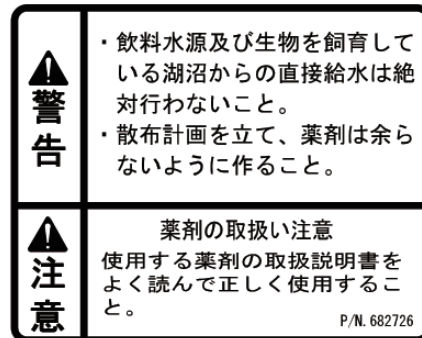
⑥ 注意ラベル(部品番号 :178029)



⑦ 注意ラベル(部品番号 :296260)



⑧ 警告・注意ラベル(部品番号 :682726)



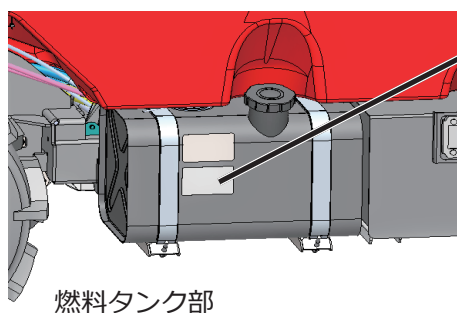
⑨ 注意ラベル(部品番号 :178055)



⑩ 注意ラベル(部品番号 :178056)

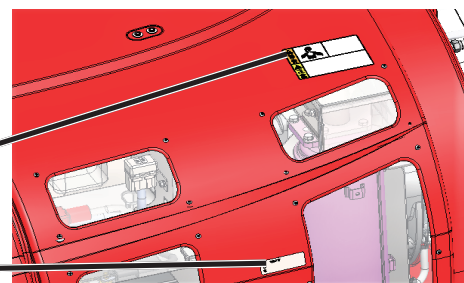


⑪ 製造プレート(部品番号 :600241)



燃料タンク部

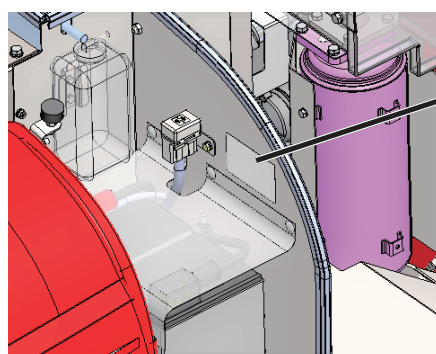
① 危険ラベル



② 警告・注意ラベル

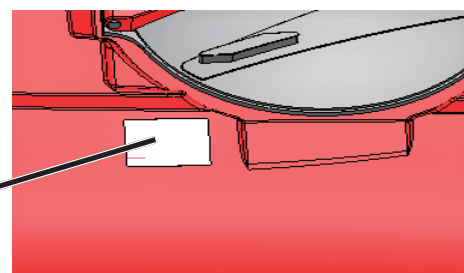
⑦ 注意ラベル

左ボンネット後部



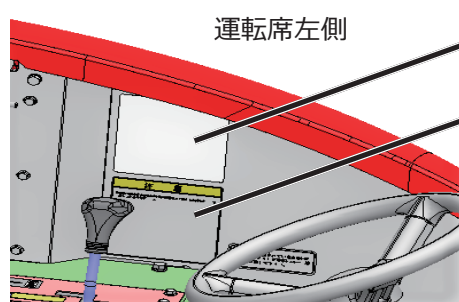
左ボンネット内部

③ 警告・注意ラベル



⑧ 警告・注意ラベル

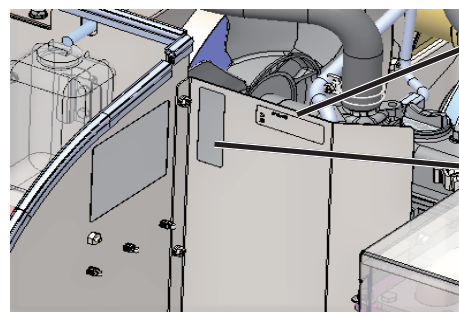
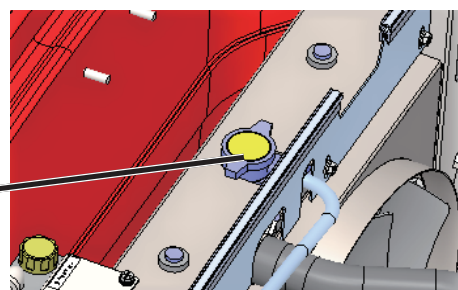
薬剤タンクフタ右側



④ 警告ラベル

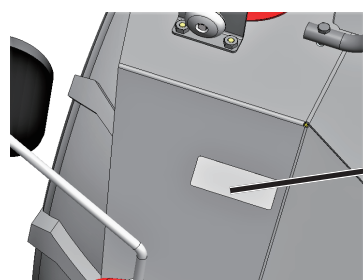
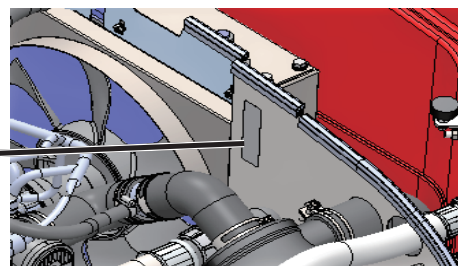
⑤ 注意ラベル

⑨ 注意ラベル



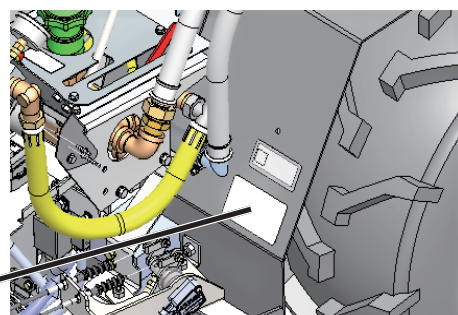
⑦ 注意ラベル

⑩ 注意ラベル



⑥ 注意ラベル

⑪ 製造プレート



目次

 安全に作業するために …………… 1	9. 点検・整備 …………… 52
警告ラベルの取り扱い …………… 4	(1) 冷却系統の点検…………… 54
1. 梱包品と各部のなまえ …………… 8	(2) エアクリーナエレメントの点検…………… 54
(1) 梱包品の確認…………… 8	(3) エンジンオイルの点検…………… 55
(2) 各部のなまえ…………… 8	(4) オイルフィルタカートリッジの交換…………… 55
(3) 各部の働き…………… 10	(5) ファンベルトの点検…………… 56
2. 運転前の準備 …………… 20	(6) スクリーンの清掃…………… 56
(1) 初めてお使いになる場合…………… 20	(7) 燃料系統の点検…………… 56
(2) 給油…………… 20	(8) 油圧作動油の点検…………… 57
(3) ガソリンの廃棄…………… 21	(9) デフオイルの交換…………… 58
3. エンジンの始動と停止 …………… 22	(10) サブミッションオイルの交換…………… 58
(1) エンジンの始動…………… 22	(11) Vベルトの点検…………… 59
(2) エンジンの停止…………… 23	(12) グリスアップ…………… 60
(3) 慣らし運転…………… 23	(13) 送風機減速機オイルの交換…………… 60
4. 運搬の仕方 …………… 24	(14) 噴霧用ポンプの点検…………… 61
(1) 走行運転の仕方…………… 24	(15) バッテリーの点検…………… 61
(2) トラックへの積み込み方…………… 26	(16) タイヤの点検…………… 62
(3) トラックからの降ろし方…………… 28	(17) ブレーキペダルの点検…………… 63
5. 始業点検(作業前点検) …………… 29	(18) ハンドルの点検…………… 64
6. 作業の準備 …………… 31	(19) 駐車ブレーキの点検…………… 64
(1) 作業者の服装と保護具の装着…………… 31	(20) 薬剤タンク保護シールの点検…………… 64
(2) 給水…………… 31	(21) ボンネット排水口の点検…………… 64
(3) ノズルの選定…………… 32	10. 長期保管 …………… 65
(4) 噴霧確認…………… 38	11. 故障と対策 …………… 67
(5) 作業現場の整備…………… 38	12. 転売・譲渡・廃棄 …………… 69
(6) 作業計画…………… 39	13. 主要諸元 …………… 70
(7) 薬剤の準備…………… 40	14. オプション(純正品一覧) …………… 71
7. 散布作業 …………… 41	15. 配管系統図 …………… 72
(1) 散布作業…………… 41	16. 電装品 …………… 73
(2) 散布作業後…………… 43	
8. 保守点検(点検整備方式) …………… 46	

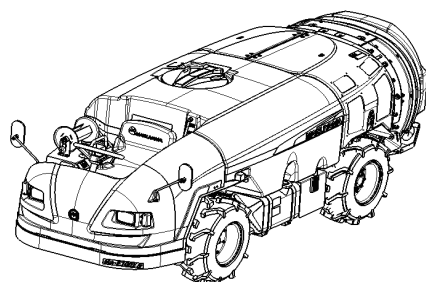
1. 梱包品と各部のなまえ

(1) 梱包品の確認

開梱時に下図を参照して部品が揃っているか、破損や変形はないかを確認してください。問題がある場合は、ご購入の販売店にご連絡ください。

【SSA-E1002 a】

()内は部品番号です。



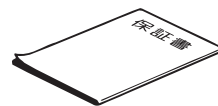
本体



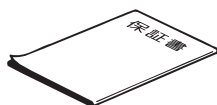
取扱説明書 / 1 冊
(601475)



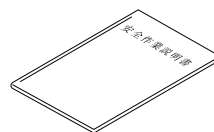
配線図 / 1 冊
(601476)



保証書 / 1 冊



特別保証書※ / 1 冊
※ 動力噴霧機 2 年

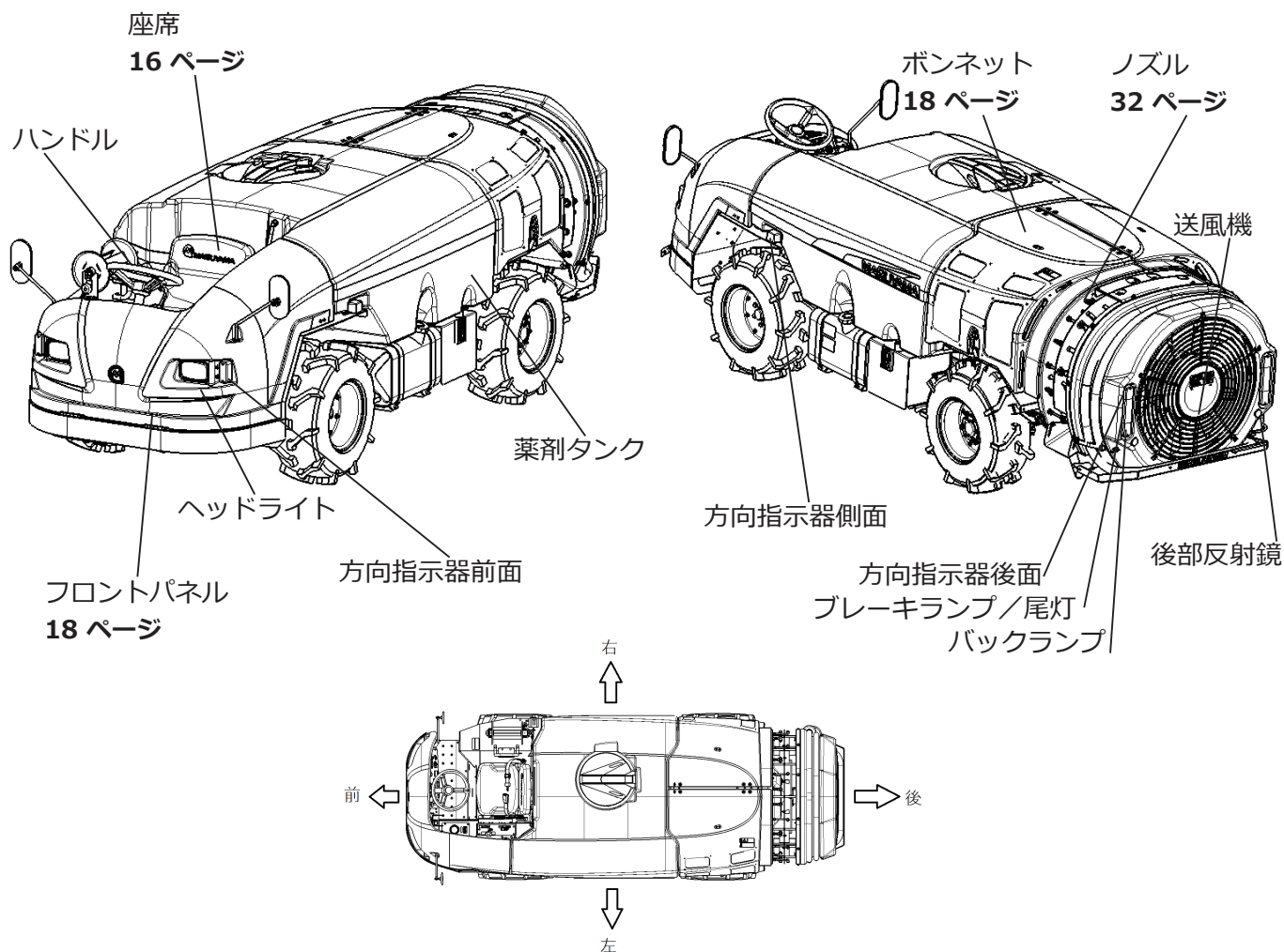


安全作業説明書 / 1 冊
(177230)

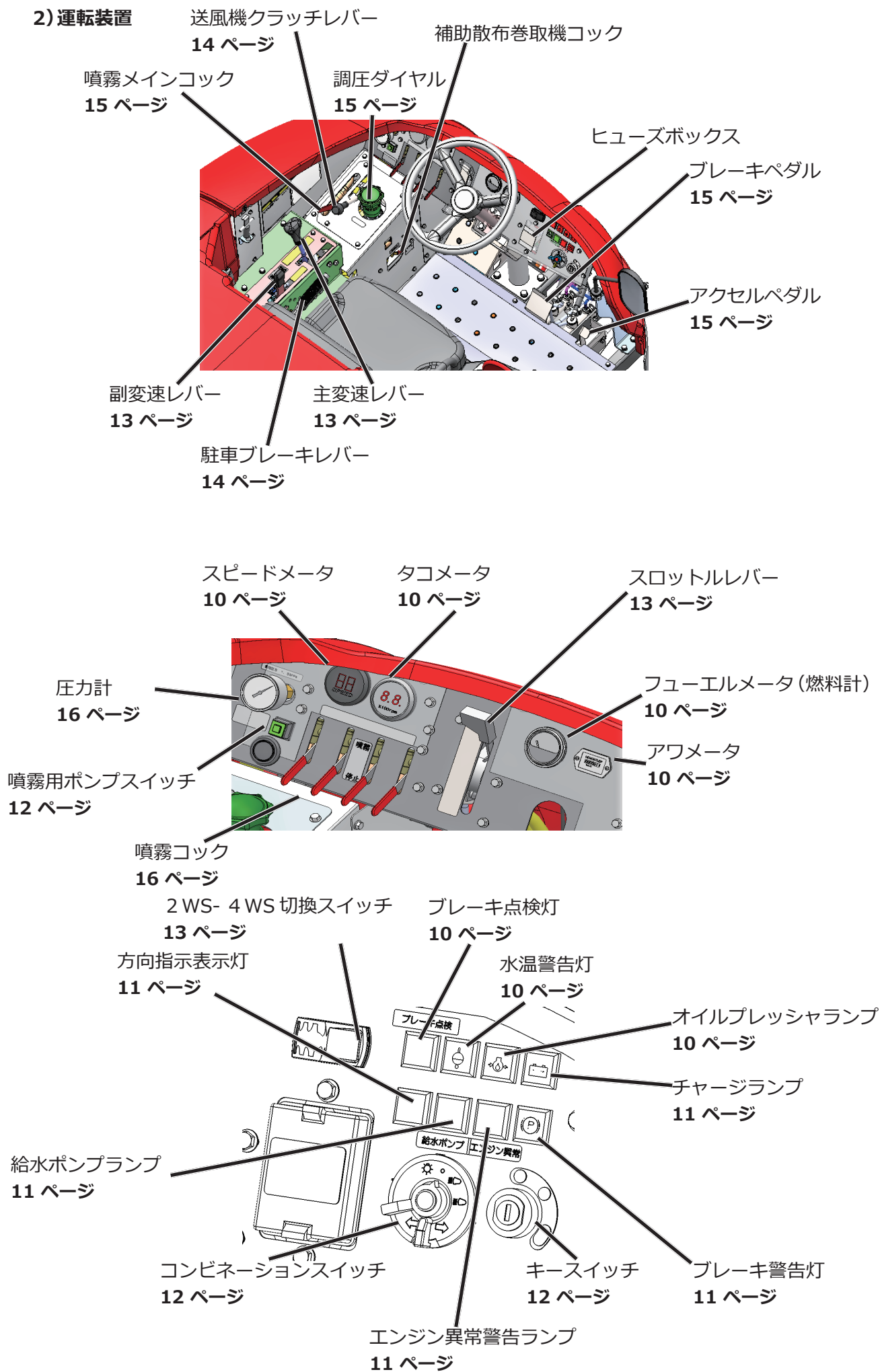
(2) 各部のなまえ

図中の数字は、当該部品が関連する本取扱説明書のページ番号を示しています。

1) 外観



2) 運転装置



(3) 各部の働き

1) メータ

① タコメータ

1 分間あたりのエンジン回転数を示します。表示された数値に 100 をかけた値がエンジンの回転速度です。

② スピードメータ

走行速度 (km / h) を表示します。

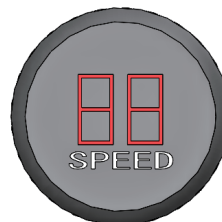
0 ~ 9.9 km / h までは 0.1 km / h 毎に表示します。

10 km / h からは、1 km / h 毎に表示します。

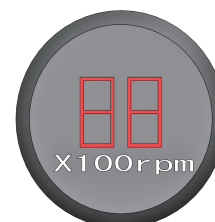
③ フューエルメータ (燃料計)

キースイッチを「入」にすると指針が作動します。

※ 坂路では指針が振れることがありますので、平地で見てください。



スピードメータ



タコメータ



フューエルメータ
(燃料計)



アワメータ

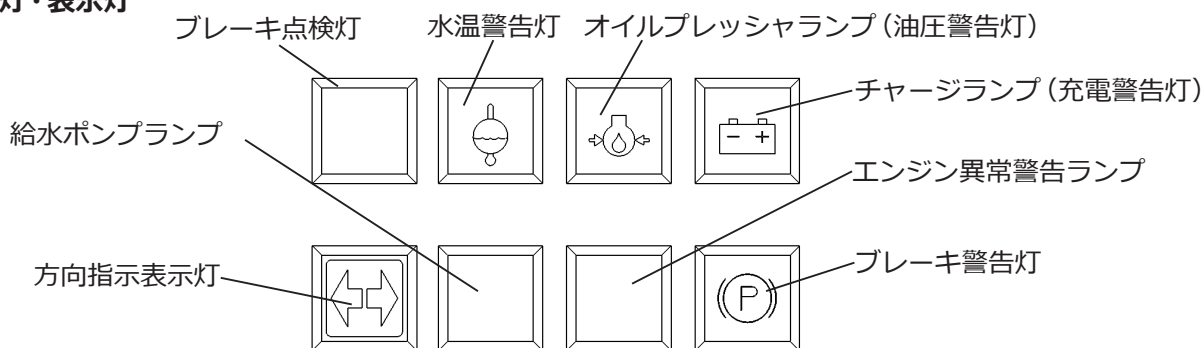
お願い

- 指針が「E」に近づいたら、無鉛レギュラーガソリンを早めに給油してください。

④ アワメータ

機械の稼働時間を示しており、キースイッチを「入」にすると作動します。初めの 5 桁は時間、最後の 2 桁は 1/100 時間 (0.6 倍すると“分”単位) を示します。

2) 警告灯・表示灯



① ブレーキ点検灯

ブレーキディスクが摩耗し、交換時期に近づくと点灯します。

⚠ 注意



- 点灯した場合は、ご購入の販売店に点検を依頼してください。
そのまま使用すると、事故に至るおそれがあります。

② 水温警告灯

エンジンが過熱状態になると点灯し、警告します。

⚠ 注意



- 水温警告灯が点灯した場合、風通しの良い所へ本製品を移動させ、エンジンをアイドリング状態にしてください。水温警告灯が消灯したらエンジンを停止し、エンジンオイル、冷却水の不足、ファンベルトの張り、ラジエータのスクリーンの詰まり、エアクリーナの詰まりなどを点検してください。度々点灯する場合は、ご購入の販売店に点検を依頼してください。
エンジンが破損しているおそれがあり、そのまま使用すると事故に至るおそれがあります。

③ オイルプレッシャランプ (油圧警告灯)

エンジン運転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯し、警告します。

⚠ 注 意	
	■ オイルプレッシャランプ（油圧警告灯）が、点灯した状態で運転しないでください。 エンジンが破損し、事故に至るおそれがあります。
	■ 運転中にオイルプレッシャランプ（油圧警告灯）が点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、ご購入の販売店へ連絡してください。 そのまま放置すると事故に至るおそれがあります。

お知らせ

- 油圧警告灯はオイル量の不足を示すものではありません。

④ チャージランプ（充電警告灯）

エンジン運転中、充電系統に異常があると点灯し、警告します。

⚠ 注 意	
	■ チャージランプ（充電警告灯）が点灯した場合は、エンジンを停止して 56 ページの「(5) ファンベルトの点検」を参照し、ファンベルトの点検をしてください。ファンベルトに異常がない場合は、ご購入の販売店に点検を依頼してください。 バッテリーが破損しているおそれがあり、そのまま放置すると事故に至るおそれがあります。

⑤ エンジン異常警告ランプ

エンジンに異常があると点灯し、警告します。

※ 燃料不足の時に点灯する場合があります。この場合は 21 ページの「2) 燃料不足時の対応」を参照してください。

⚠ 注 意	
	■ 点灯した場合は、本製品を安全な場所に停車させ、ご購入の販売店に点検を依頼してください。 そのまま使用すると、事故に至るおそれがあります。

⑥ 方向指示器スイッチ

方向指示器スイッチを操作すると、点滅します。

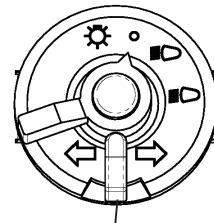
⑦ 給水ポンプランプ

給水ポンプスイッチが「入」の状態の時、点灯します。

⑧ ブレーキ警告灯

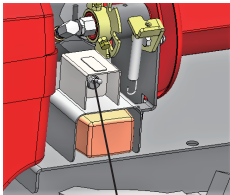
駐車ブレーキレバーを引くと点灯し、引いたままの状態であることを警告します。

※ 駐車ブレーキレバーを戻すと消灯します。



方向指示器スイッチ

右前輪上部



給水ポンプスイッチ

⚠ 注 意	
	■ ブレーキ警告灯が点灯した状態で走行しないでください。 駐車ブレーキが破損し、故障に至るおそれがあります。

3) キースイッチ

「切」 キーを抜き差しする位置です。

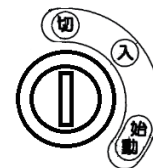
※ エンジンが停止し、電流が流れなくなります。

「入」 各電装品に電流が流れます。また、エンジン運転中の位置です。

※ エンジンが停止している場合、「エンジン異常警告ランプ」と「チャージランプ」が点灯します。

「始動」 セルモータが回転し、エンジンが始動します。手を放すとキーは自動的に「入」に戻ります。

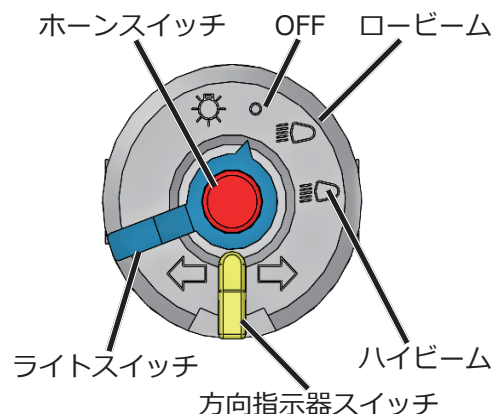
※ エンジンの始動の仕方については、22 ページの「(1) エンジンの始動」を参照してください。



4) コンビネーションスイッチ

① ライトスイッチ

「OFF」 から右へ回すと点灯します。1 段目がロービーム（下向き）、2 段目がハイビーム（上向き）で点灯します。



お願い

- エンジン停止時に、ヘッドライトなどを長時間点灯させないでください。バッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

② 方向指示器スイッチ

方向指示器スイッチを右・左に操作すると、本製品の前後・側面にある方向指示器と方向指示表示灯が点滅します。

③ ホーンスイッチ

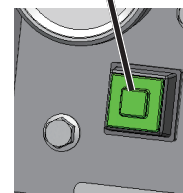
ラッパマークの部分を押すとホーンが鳴ります。

5) 噴霧用ポンプスイッチ

噴霧用ポンプスイッチを押すと噴霧用ポンプが作動し、ランプが点灯します。

もう一度押すとランプが消灯し、噴霧用ポンプが停止します。

噴霧用ポンプスイッチ



お願い

- エンジンを始動する時は、噴霧ポンプスイッチを「OFF」にしてください。

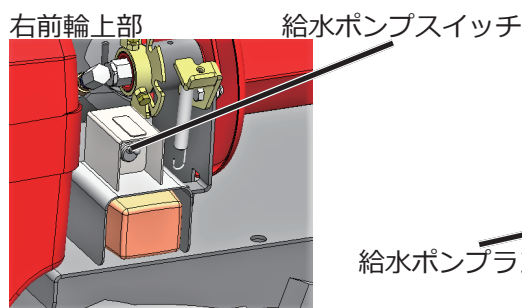
⚠ 注意



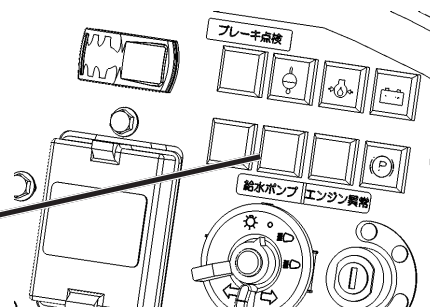
- 噴霧用ポンプスイッチを「ON」にする場合は、必ずスロットルレバーでエンジン回転速度を1500rpm 以下に調整してから行ってしてください。1500rpm 以上で作動させると、駆動用電磁クラッチの破損に至るおそれがあります。

6) 給水ポンプスイッチ

給水ポンプスイッチはスイッチを上にはげると「入」になり、下に下げると「切」になります。「入」にすると、パネルの給水ポンプランプが点灯し、給水ポンプが作動します。「切」で給水ポンプが停止します。



給水ポンプランプ



⚠ 注 意



- 給水ポンプの空運転はしないでください。
給水ポンプの故障に至るおそれがあります。
- 給水ポンプスイッチを「入」にする場合は、必ずスロットルレバーでエンジン回転速度を1000~1500rpm 程度に調整してから行ってください。
電磁クラッチの破損に至るおそれがあります。

お願い

- 長期保管後などは給水ポンプのインペラが固着して、給水ポンプが回らないことがあります。給水ポンプ上部に取り付けられている給水ホースを外し、給水ポンプ内に少量の水を入れてから、給水ポンプスイッチを「入」にしてください。

7)2WS-4WS 切換スイッチ

⚠ 注 意



- 2WS-4WS 切換スイッチの操作は、下記内容を守ってください。
守らないと衝突や転落、転倒に至るおそれがあります。
- スイッチ操作は、平坦地でタイヤを直進状態にし、車両を停止させて行ってください。
 - タイヤが直進状態以外でスイッチ操作を行うと 2WS ⇄ 4WS 切換の間はランプが点滅し、ブザーが鳴ります。その間は走行しないで、タイヤを直進状態にしてランプが点灯、ブザーが止まることを確認してください。
 - 副変速レバーが「低速」時は 2WS,4WS 両方走行可能ですが、「高速」時は 2WS 状態のみ走行可能です。
 - 移動走行時は、2WS を使用してください。
 - 4WS に切換えた場合は、2WS の感覚でハンドル操作を行うと、予想以上に大きな姿勢変化を起こし危険です。発進・走行前にどちらの操舵状態を選択しているか確認してください。

ランプ点灯中は、選択されている操舵状態を示しています。切換スイッチを反対方向に操作すると、操舵状態が切り替わります。
タイヤが直進状態以外でスイッチ操作を行うとランプが点滅し、同時にブザーが鳴ります。

2WS：高速移動時などに安定した走行が可能です。車両の幅寄せも容易になります。

4WS：後輪も操舵するので小回りがききます。



2WS-4WS 切換スイッチ

7)レバー

① スロットルレバー

スロットルレバーを下げる（高速）とエンジン回転速度が上がり、上げる（低速）とエンジン回転速度が下がります。

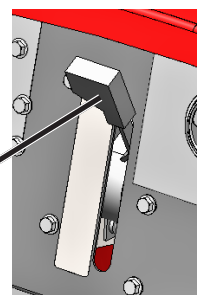
② 主変速レバー

主変速レバーを「停止」の位置から前方に倒すと前進、後方に倒すと後進します。レバーの倒れを大きくするほど車速が速くなります。

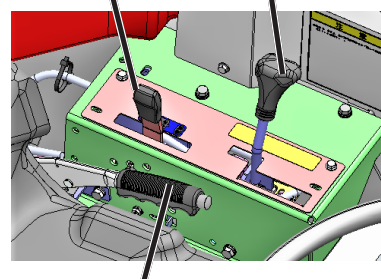
③ 副変速レバー

移動（高速）・散布（低速）の2段変速です。エンジンを始動するときには、副変速レバーを「中立・始動」の位置にしてください。

スロットルレバー



副変速レバー 主変速レバー



駐車ブレーキレバー

⚠ 注 意



- 副変速レバーの操作が重く変速できない場合は、無理にレバーを操作しないでください。一度主変速レバーを前方に倒し、その後「停止」の位置に戻してから再操作してください
- 主変速レバーの急な操作はしないでください。
急な操作を行うと、HST が破損に至るおそれがあります。

④ 駐車ブレーキレバー

駐車ブレーキレバーを引き上げるとブレーキ警告灯が点灯し、駐車ブレーキがかかります。駐車ブレーキ解除は、駐車ブレーキレバーを若干手前に引きながら、駐車ブレーキレバー先端のボタンを押し、そのまま手で保持しながら、下方へ静かに下ろします。

※ 駐車ブレーキレバーが下に下がっている時、ブレーキ警告灯が消灯していることを確認してください。

⚠ 注 意



- 本製品から離れる場合は、必ず駐車ブレーキをかけてください。
本製品が動き出し、事故に至るおそれがあります。

⑤ ハンドルチルトレバー

⚠ 警 告

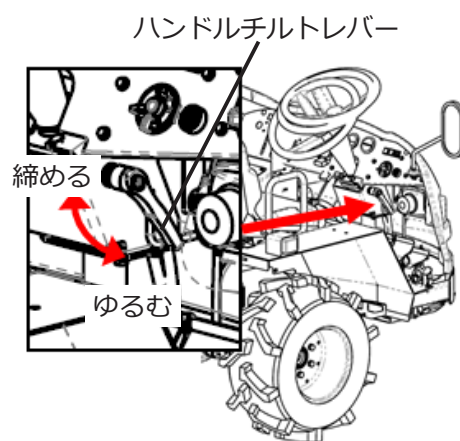
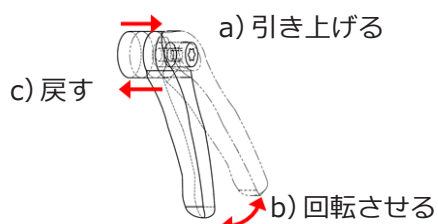


- 運転中にハンドルチルトレバーを操作しないでください。
運転中にハンドルが上下に動き、事故に至るおそれがあります。

ハンドルチルトレバーをゆるめて、運転しやすい角度にハンドルを調整し、ハンドルチルトレバーを締めてください。

※ ハンドルチルトレバーが操作しづらい位置にある場合は、ハンドルチルトレバーの固定位置を変更することができます。

- a) ハンドルチルトレバーを横方向に引き上げてください。
- b) ハンドルチルトレバーを引き上げたまま、任意の方向に回転させてください。
- c) ハンドルチルトレバーを戻してください。



⚠ 警 告



- ハンドルチルトレバーを操作した後は、ハンドルチルトレバーを確実に締めてください。
運転中にハンドルが上下に動き、事故に至るおそれがあります。

⑥ 送風機クラッチレバー

送風機クラッチレバーをストッパから外し、「入」の位置へ操作すると送風機が回転します。送風機を停止させる場合は、送風機クラッチレバーを「切」の位置に操作し、ストッパにかけてください。

ストッパ

送風機クラッチ
レバー



お願い

- エンジンを始動する時は、送風機クラッチレバーを「切」にしてください。

⚠ 注 意



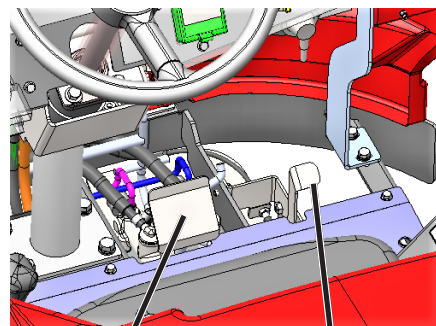
- 送風機クラッチレバーを「入」にする場合は、必ずスロットルレバーでエンジン回転速度を1500rpm 程度に調整してからゆっくり行ってください。
「入」にする際にゆっくり行わないと、送風機クラッチが破損に至るおそれがあります。

8) ペダル

① アクセルペダル

踏み込むとエンジン回転速度が上がり、離すとアイドリング状態となります。

移動走行時は必ずアクセルペダルを使用してください。



ブレーキペダル アクセルペダル

⚠ 注 意



- 移動走行ではスロットルレバーを使用しないでください。
スロットルレバーを使用して移動走行すると、事故に至るおそれがあります。

② ブレーキペダル

ブレーキペダルを踏むと減速・停止することができます。また、ブレーキペダルを踏まないとエンジンは始動しません。

お願い

- エンジンを始動する時は、ブレーキペダルを踏んでください。

お願い

- 走行時は主変速レバーで走行・停止を行ってください。

⚠ 注 意



- ブレーキペダルを踏んだ後、主変速レバーが停止の位置にない状態でブレーキペダルを戻さないでください。
車体が急発進するおそれがあります。

9) 散布装置

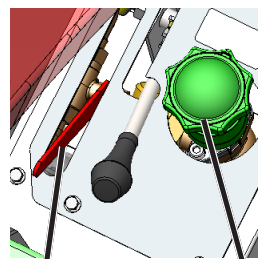
① 噴霧メインコック

全てのノズルからの噴霧・停止を一度に操作できます。

② 調圧ダイヤル

噴霧用ポンプの吐出圧力を調整できます。

噴霧メインコックを「噴霧」にし、圧力計を見ながら握りを回し、所要の圧力に合わせてください。



噴霧メインコック 調圧ダイヤル

⚠ 警 告



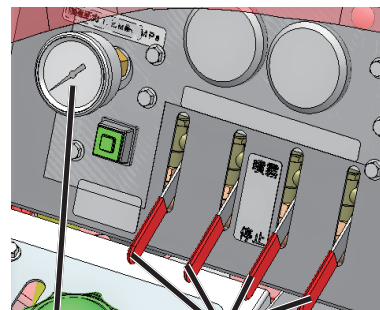
- 調圧ダイヤルの上部にあるキャップを外し、ネジを調整しないでください。
規定圧力以上となり本製品が破損し、事故や重傷に至るおそれがあります。

③ 噴霧コック

4 個の噴霧コックは、左・左中・右中・右の噴霧箇所の選択ができます。

④ 圧力計

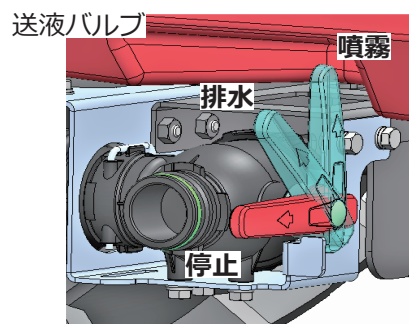
噴霧中の圧力が表示されます。



圧力計 噴霧コック

⑤ 送液バルブ

- 噴霧用ポンプを運転する場合は、送液バルブを必ず「噴霧」にしてください。
- 薬剤タンク内の残液を排出する場合は、送液バルブを「排水」にしてください。
- 吸水ストレーナを清掃する場合は、送液バルブを「停止」にしてください。



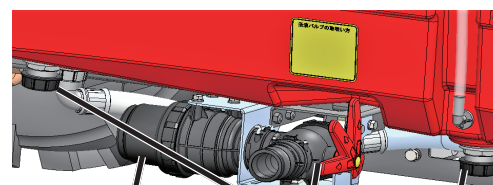
送液バルブ

⑥ 排水ドレン

排水ドレンのキャップを外すと排水のスピードが早くなります。排水後は必ずキャップを締めてください。また、外した排水キャップは座席右横の箱に格納してください。

⑦ 吸水ストレーナ

吸水時にゴミなどをろ過します。作業後に必ずストレーナのキャップを外し、中のフィルターを取り出して清掃を行ってください。



吸水ストレーナ 送液バルブ 排水ドレン

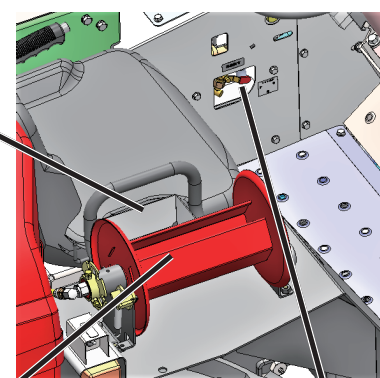
⑧ 補助散布コック

ホース巻取機の噴霧・停止が出来ます。

キャップ置き場

⑨ ホース巻取機

8.5mm の噴霧機用ホースが 30m 巻ける巻取機です。手散布にご利用ください。ノズル及び上記ホースは付属しませんので、別にお買い求めください。



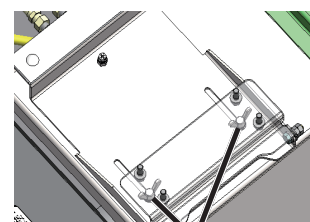
ホース巻取機

補助散布コック

10) 座席

座席の前後の位置は、座席下のチョウボルトをゆるめることにより調整できます。

運転しやすい位置に調整してください。調節後はチョウボルトをしっかりと締めてください。

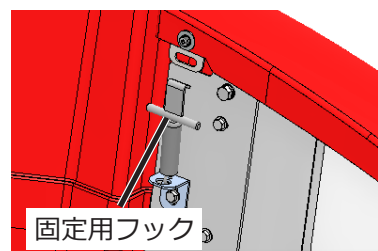


チョウボルト

11) フロントパネル

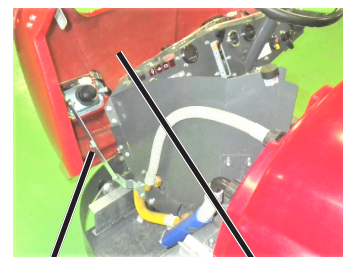
■ フロントパネルの開け方

- ① フロントパネルの固定用フックを外し、フロントパネルを前方に開けてください。
- ② ステア中央のストッパを下方に押し、フロントパネルが倒れてこないことを確認します。



■ フロントパネルの閉め方

- ① フロントパネルを支えながら、ステア中央のストッパを上方に軽く持ち上げ、ゆっくりとフロントパネルを閉じてください。
- ② 固定用フックを確実にかけてください。



⚠ 注 意



- 強風下でのフロントパネルの開閉は行わないでください。
フロントパネルが倒れ、けがに至るおそれがあります。

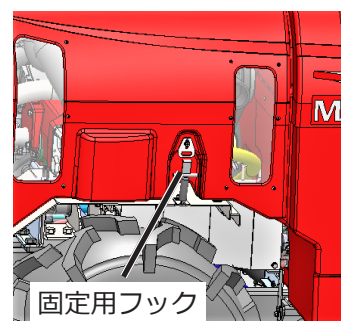


- フロントパネルを閉じる際は、手を挟まないように注意してください。
けがに至るおそれがあります。
- フロントパネルを閉じた後は、固定用フックを確実にかけてください。
運転中または輸送中にフロントパネルが開き、事故に至るおそれがあります。

12) ボンネット

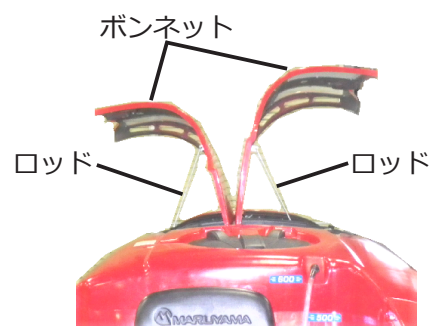
■ ボンネットの開け方

- ① ボンネット下段の固定用フックを外し、ボンネットを上方へ開けてください。
- ② ボンネットステアに収納されているロッドで、固定してください。



■ ボンネットの閉め方

- ① ボンネットを支えながらロッドを外してください。
- ② ロッドをボンネットステアに収納し、ゆっくりとボンネットを閉じてください。
- ③ 固定用フックを確実にかけてください。



⚠ 警 告

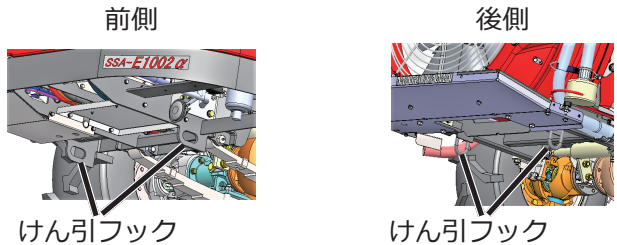


- ボンネットの開閉は、必ずエンジンを停止して行ってください。
回転物に巻き込まれ、事故や重傷に至るおそれがあります。

⚠ 注 意	
	■ 強風下でのボンネットの開閉は行わないでください。 ボンネットが倒れ、けがに至るおそれがあります。
	■ ボンネットを閉じる際は、手を挟まないように注意してください。 けがに至るおそれがあります。 ■ ボンネットを閉じた後は、固定用フックを確実にかけてください。 運転中または輸送中にボンネットが開き、事故に至るおそれがあります。

13) けん引フック

前方に2箇所、後方に2箇所あります。
 本製品をトラックに積み込んだ際に、けん引フックにロープをかけて固定してください。
 また、本製品がぬかるみで動けなくなった場合、このフックを利用して前方または後方に引いてください。

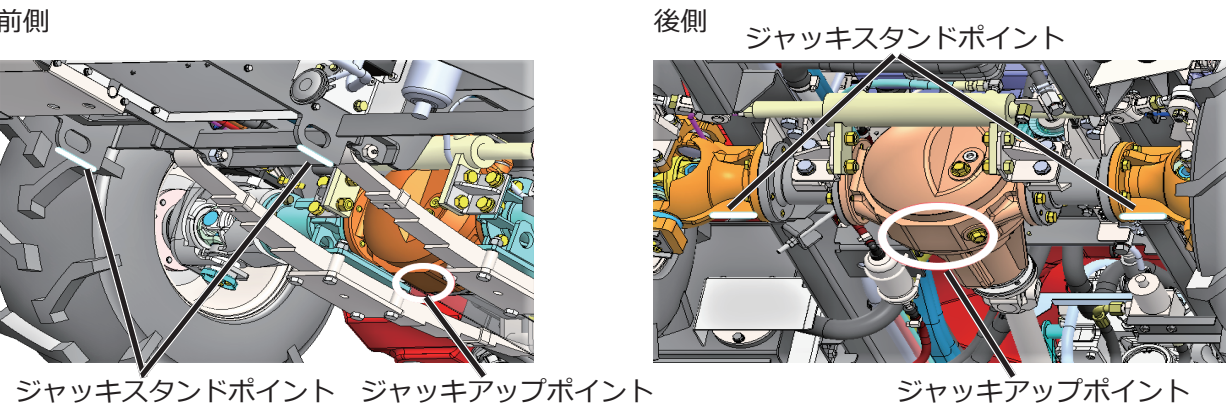


⚠ 注 意	
	■ 横方向へのけん引は行わないでください。 本製品が転倒し、事故に至るおそれがあります。また、けん引フックが曲がるおそれもあります。

14) ジャッキアップポイント

⚠ 警 告	
	■ 薬剤タンクが満水のときは、ジャッキアップを行わないでください。 バランスを崩した際に下敷きになり、死亡または重傷に至るおそれがあります。

ジャッキアップする場合は、下図の「ジャッキアップポイント」にジャッキをかけ、「ジャッキスタンドポイント」にジャッキスタンドをかけてください。



⚠ 警 告	
	■ ジャッキアップは前側を上げてから、後側を上げてください。 本製品が転倒し、事故や重傷に至るおそれがあります。 ■ やむを得ず後側からジャッキアップする場合は、フロントアクスルの揺動を抑えるストッパを使用してください。 ストッパを使用せずに行うと、本製品が転倒し、事故や重傷に至るおそれがあります。

2. 運転前の準備

(1) 初めてお使いになる場合

■ 公道走行について

本製品は、小型特殊自動車として保安基準に適合しています。保安基準に適合することで、公道を走行することができます。

本製品は道路交通法では普通自動車に該当します。公道を走行する際には、普通自動車の運転免許が必要です。必ず運転免許証を携帯してください。

■ 標識(ナンバープレート)について

本製品は、道路運送車両法の小型特殊自動車(車体の形状：農業用薬剤散布車)に該当します。小型特殊自動車に該当するため、必ず標識(ナンバープレート)の交付を受ける必要があります。また、本製品は保管場所の確保義務がありますので、保管場所を決めて適切に保管してください。

お願い

- 標識の交付の手続きに関しては、お住いの市町村役場にご相談ください。
- 標識は、本製品後部の防塵網の取付位置に取り付けてください。

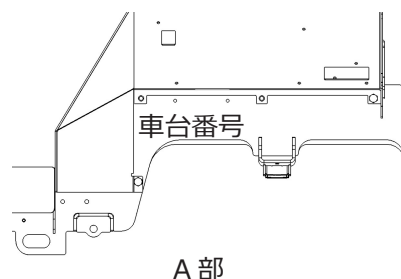
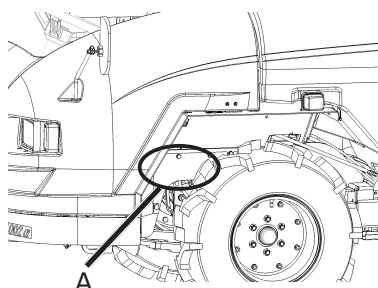
■ 損害賠償保険について

万一の事故に備え、任意保険などに加入することを推奨します。

■ 車台番号打刻位置について

車台番号打刻位置は下図の位置です。

小型特殊自動車	
車名	丸山
型式	EBT-SE14
車台番号	E14-****



お知らせ

- 純正ではない部品の装着や部品の取り外しを行うと、違法改造となることがあります。部品の装着や取り外しについての詳細は、ご購入の販売店に確認してください。

お願い

- 道路交通法を守り、安全に公道を走行してください。

(2) 給油

⚠ 危険



下記の項目を必ず守ってください。

守らないと火災や事故に至ります。

- ガソリンは火気により爆発の危険があります。火気厳禁で取り扱ってください。
- 燃料の給油はエンジンを停止してから行ってください。
- 燃料の給油は、屋内や換気の悪いところではしないでください。
- 燃料の給油後は、燃料キャップを確実に締めてください。
- 燃料、オイルがこぼれた場合は、きれいに拭きとってください。
- 配線およびマフラーやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着、泥やホコリの堆積などがある場合は、取り除いてください。
- 燃料は消防法令に適合した容器に入れて保管・運搬してください。

⚠ 注 意

	■ 長期保管(1年以上)したガソリンは、本製品に使用しないでください。 変質したガソリンを使用すると、エンジンの故障に至るおそれがあります。
	■ 燃料は必ず無鉛レギュラーガソリンを使用してください。 無鉛レギュラーガソリン以外の燃料を使用した場合、エンジンなどが故障に至るおそれがあります。また、排気ガス浄化基準に適合しなくなるおそれもあります。

お知らせ

■ ガソリンの購入について

令和2年2月1日から危険物の規制に関する規則の一部を改正する省令(令和元年総務省令第67号)により、ガソリンを販売するため容器に詰め替えるときは、顧客の本人確認、使用目的の確認および販売記録の作成を行うこととされました。そのため、ガソリンを購入する際は本人確認書類の提示の要求や使用目的が聞き取りされ販売業者に販売記録が作成されます。ガソリンスタンドで購入の際は本人確認書類・消防法令に適合した金属製のガソリン携行缶を用意し、ガソリン購入時に販売記録の作成に協力してください。

- 製品出荷時、運送を安全にするために燃料は少量しか入っていません。

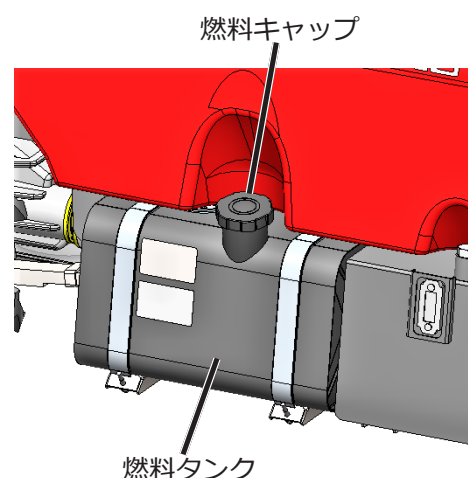
お願い

- 燃料は変質しやすいので、保管量は最小限にしてください。

1) 燃料の給油

無鉛レギュラーガソリンを給油してください(タンク容量32L)。

- ① 燃料タンクの燃料キャップを外し、燃料タンクに無鉛レギュラーガソリンを入れてください。
- ② ガソリンを入れ終わったら、燃料キャップを確実に締めてください。



お願い

- 燃料の補給は、燃料タンクが空になる前に行ってください。

2) 燃料不足時の対応

燃料が少なくなり、配管が空気を吸い込むとエンジン異常警告ランプが点灯し、エンジン回転速度が上がらなくなります。このような場合は下記手順を行ってください。

- ① エンジンを停止し、**21 ページの「1) 燃料の給油」**の通りに燃料を補給してください。
- ② エンジンを始動させ、停止してください。
- ③ 1~2 秒後にもう一度エンジンを始動させ、停止してください。これを4回繰り返してください。
- ④ もう一度エンジンを始動してください。

※ エンジン異常警告ランプが消灯し、通常状態に戻ります。

上記手順を行ってもエンジン異常警告ランプが消灯しない場合は、燃料不足以外に異常があるおそれがありますので、ご購入の販売店に修理を依頼してください。

(3) ガソリンの廃棄

ガソリンは危険物であり、廃棄物処理法の特別管理廃棄物に相当します。みだりに廃棄すると法令による処罰の対象となります。廃棄する場合はお住まいの自治体の廃棄物担当部署に、ガソリンであることを明示して相談し、指示に従ってください。または、危険物を取り扱う専門の産業廃棄物処理業者に処分を依頼してください。

3. エンジンの始動と停止

(1) エンジンの始動

⚠ 警 告	
	■ ボンネットを開けたまま、エンジンを始動しないでください。 回転物に巻き込まれ、事故や重傷に至るおそれがあります。
	■ 室内でエンジンを始動する場合は、十分に換気を行ってください。 一酸化炭素中毒に至るおそれがあります。 ■ エンジンを始動する前に、周囲を良く見渡し本製品の近くに人、特に小さな子供やペットがいないことを確認してください。 人身事故に至るおそれがあります。 ■ 暖機運転は、室外で行ってください。 一酸化炭素中毒に至るおそれがあります。

お願い

- エンジンを始動する前に、周りをよく見渡し、「これから動きますよ」と合図を送ってから、エンジンを始動させてください。

- ① 駐車ブレーキをかけてください。
- ② 噴霧用ポンプスイッチを「OFF」にしてください。
- ③ 給水ポンプスイッチを「切」にしてください。
- ④ 送風機クラッチレバーを「切」にしてください。
- ⑤ 主変速レバーを「停止」、副変速レバーを「中立・始動」の位置にしてください。
- ⑥ スロットルレバーを「エンジン始動位置」にしてください。

お知らせ

- スロットルレバーを「エンジン始動位置」以外の位置にしておくと、エンジンが始動しない場合があります

- ⑦ キースイッチにキーを差し込み、キースイッチを「入」にしてください。
※ キースイッチを「入」にすると、燃料・充電不足をチェックするために、エンジン異常警告ランプ・チャージランプが一度点灯します。

お知らせ

- 始動安全装置により副変速レバー「中立・始動」、送風機クラッチレバー「切」、噴霧ポンプスイッチ「OFF」、ブレーキペダルを踏んだ状態で、キースイッチを操作しないとエンジンは始動しません。

- ⑧ ブレーキペダルをいっばいに踏み込んでください。
- ⑨ キースイッチを「始動」にしてください。

お願い

- 冷え込んだ時などでエンジンが1回で始動しない場合は、セルモータを回す時間は15秒以内にしてください。再度行う場合はバッテリーの電圧を回復させるために、30秒ほど時間を空けてから行ってください。

- ⑩ エンジンが始動したら、キースイッチから手を放してください。

⑪ エンジンに異常がないことを各警告灯で確認してください。

※ ブレーキ警告灯以外が点灯している場合は、すぐにエンジンを停止し、適切な処置を行ってください
(46 ページの「8. 保守点検(点検整備方式)」を参照してください)。

※ エンジンから異音がする場合はエンジンを停止し、原因を調べてください。原因が分からない場合は、ご購入の販売店に連絡してください。

⑫ 5 分ほど暖機運転をしてください。

注 意



- エンジン運転中は、キースイッチを「始動」の位置にしないでください。
故障に至るおそれがあります。
- エンジン始動直後はエンジンが冷えた状態のため、エンジン回転速度を急に上げたり、高回転速度に調整したりしないでください。
故障に至るおそれがあります。

お願い

- 排気の状態に異常がないかを確認してください。通常と異なる場合は、ご購入の販売店へ相談してください。排気口より水蒸気や水滴が出ることがありますが、異常ではありません。

(2) エンジンの停止

① エンジン回転速度を低速にしてください。

② 低速のまま 5 分ほど冷却運転を行ってください。

③ キースイッチを「切」にしてください。

注 意



- 本製品のエンジンが停止直後の場合は、マフラーやマフラーカバー、エンジン本体は熱くなっています。高温部分には触らないでください。
高温部への接触により、やけどに至るおそれがあります。

(3) 慣らし運転

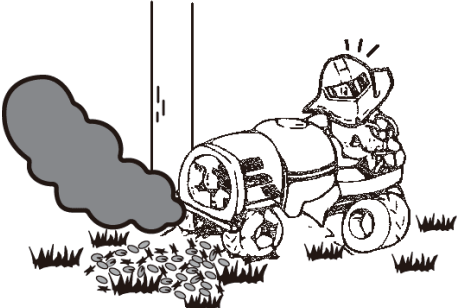
新車時(製品購入時から 50 時間)の取り扱いは、本製品の寿命や性能に影響します。この期間中は、特に下記に注意してください。

- エンジン始動後は、暖機運転を十分に行ってから作業を始めてください。
- 本製品を使い始めてから 50 時間目には、46 ページの「8. 保守点検(点検整備方式)」を参照して点検をしてください。

4. 運搬の仕方

(1) 走行運転の仕方

⚠ 危険	
	■ 枯れ葉や紙、木材、油などの可燃物の上や近くには駐停車しないでください。 マフラーや排気口、排気ガスは高温になるため着火し、火災や事故に至ります。 ■ 車両後方に木材などの可燃物があるときは、車両後端から十分に距離をとって停止させてください。 距離をとらないと排気ガスにより着火し、火災や事故に至ります。また、変色に至ることもあります。



可燃物の上や近くに駐停車しない！

⚠ 警告	
	■ 最大積載量（薬剤タンク満水と付属品搭載）以上は積まないでください。 制動距離が延び、事故に至るおそれがあります。また、本製品が破損に至るおそれがあります。
	■ 走行する前に、必ず駐車ブレーキを解除してください。 解除せずに走行するとブレーキが過熱され、ブレーキの効きが悪くなり事故に至るおそれがあります。また、動力伝達装置の故障や早期のブレーキ摩耗に至るおそれがあります。 ■ 移動走行時は、必ずアクセルペダルを使用してください。 スロットルレバーを使用するとエンジンブレーキが使用できなくなり、駆動力が大きいため障害物に衝突してもエンジンが停止せず、事故に至るおそれがあります。 ■ 坂道を走行する際は、本製品が転落しないように十分注意してください。 本製品が転落し、死亡または重傷に至るおそれがあります。

⚠ 注意	
	■ 乗車定員は1名です。運転者以外は乗車させないでください。 安全が確保できず、事故に至るおそれがあります。 ■ 走行しながら副変速レバーの操作を行わないでください。 故障に至るおそれがあります。
	■ 運転者はヘルメットを着用してください。 着用せずに事故が起きた際に、けがに至るおそれがあります。 ■ 発進する時は周囲の安全を確認してください。 安全の確認を怠ると、事故に至るおそれがあります。 ■ 狭い農地や路肩のある場所は走行速度を下げ、十分注意して走行してください。 事故に至るおそれがあります。

お願い

- 緊急時以外は急発進、急加速、急制動、急旋回、必要以上の高速運転を行わないでください。

1) 発進の仕方

- ① エンジンを始動してください。
- ② 主変速レバーを「停止」の位置にし、副変速レバーを低速又は高速の位置に確実に入れてください。
※ 副変速レバーが入りにくい時は、一度主変速レバーを前に倒して「停止」の位置に戻してから再操作してください。
- ③ 駐車ブレーキを解除してください。
- ④ 主変速レバーを任意の方向に徐々に倒し、発進させてください。

警 告



- **坂道では走行速度に注意してください。**
高速で走行すると、事故に至るおそれがあります。
- **下り坂では、エンジンブレーキを併用してください。**
ブレーキペダルを使用し続けると、ブレーキが過熱されブレーキの効きが悪くなり、事故に至るおそれがあります。

お願い

- 走行速度は主変速レバー、アクセルペダルで調整してください。
- 私道、農地であっても交通法規を守って運転してください。
- 路肩が分かるように雑草を刈り取ってください。
- 運転中にハンドルチルトレバーが邪魔になる場合は、**14 ページの「⑤ ハンドルチルトレバー」**を参照してハンドルチルトレバーの固定位置を変更してください。

■ ほ場の出入りについて

ほ場への出入りについては、副変速レバーを「低速」にし、主変速レバーを前方に少し倒した微速で行ってください。

警 告



- **ほ場への出入りの際、坂道に対して斜めに走行しないでください。**
本製品が転倒し、死亡または重傷に至るおそれがあります。

注 意



- **本製品から離れる場合は、必ず駐車ブレーキをかけエンジンを停止し、キーを抜いてください。**
本製品が動き出し、事故に至るおそれがあります。
- **坂道で駐車するときは必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキと歯止めを併用し、キーを抜いてください。**
本製品が動き出し、事故に至るおそれがあります。

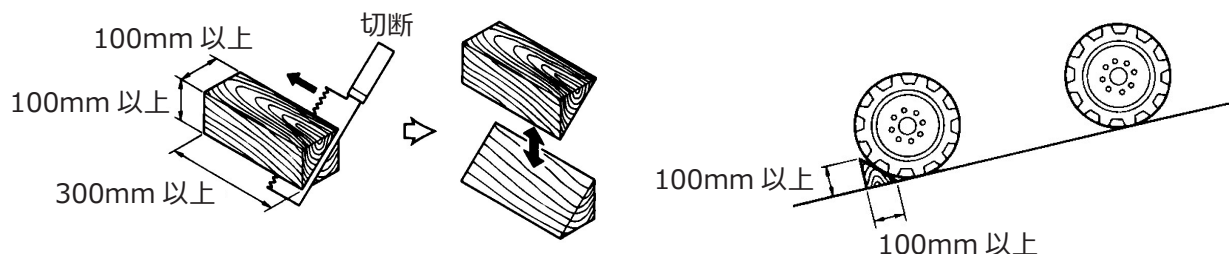
2) 停車・駐車の仕方

- ① アクセルペダルをゆるめ、エンジン回転速度を低速にしてください。
※ スロットルレバーを使用していた場合は、スロットルレバーを上にあげて、エンジン回転速度を低速にしてください。
- ② 主変速レバーを「停止」の位置へゆっくり戻し、ブレーキペダルを踏んで本製品を停止させてください。
- ③ 副変速レバーを「中立・始動」の位置にしてください。
- ④ 駐車ブレーキレバーを引き、駐車ブレーキをかけてください。
- ⑤ ブレーキペダルから足をゆっくり離してください。
- ⑥ キースイッチを「切」の位置にして、エンジンを停止しキーを抜いてください。

■ 歯止めについて

安全に本製品を駐車させるために、下記形状の歯止めを 2 個準備し、歯止めをしてください。

- 100mm 角以上、長さ 300mm 以上の木材を用意し、対角に切断してください。
- 歯止めは、傾斜が下り側の左右のタイヤに対して、下図のように行ってください。



(2) トラックへの積み込み方

トラックへの積み込み作業は、大変危険な作業です。安全に十分注意して行ってください。

⚠ 警 告	
🚫	■ 積み込み作業中は、作業に関係のない人を周囲に近づけないでください。事故や重傷に至るおそれがあります。 ■ 他の作業者に誘導をお願いする場合は、本製品の進行方向の直前、直後には立たせないでください。誤作動させた場合は、事故や重傷に至るおそれがあります。
!	■ 積み込み作業は平坦な場所で行い、他の作業者の誘導のもとに行ってください。事故に至るおそれがあります。 ■ 積み込み作業をする際は、薬剤タンクを空にしてください。薬剤が入っていると本製品が傾いた時に転落し、事故や重傷に至るおそれがあります。 ■ トラックへの積み込み時は、15 度以下の傾斜角で積み込んでください。それ以外のときは、10 度以下の領域で使用してください。本製品が転落し、死亡または重傷に至るおそれがあります。

お願い

- 道路交通法を違反しないように、本製品の寸法や重量を確認してから積み込んでください。
- 最大積載量 2000kg 以上のトラックを使用してください。

■ アユミ板の場合

⚠ 警 告	
!	■ アユミ板は十分な強度と長さ、板幅のある滑り止め付きのものを使用してください。本製品が転落し、事故に至るおそれがあります。

- ① 右記条件に合い、積み込み角度が 15 度以下になる長さのアユミ板を準備してください。
- ② トラックの変速を「1 速」または「R」に入れ、駐車ブレーキをかけた後、エンジンを停止して歯止めをしてください。

アユミ板の条件

長さ	トラックの荷台の高さの 4 倍以上
幅	30cm 以上
数量	2 枚
強度	1 枚が 1000kg 以上の重さに耐えるもの

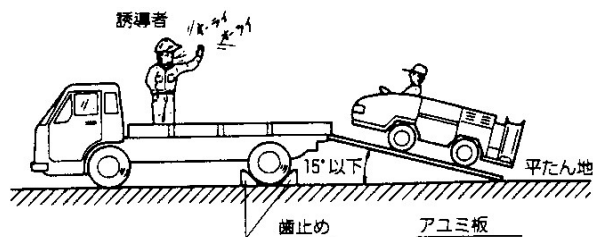
⚠ 警 告	
!	■ アユミ板は段差・ずれのないように確実にかけてください。アユミ板が外れ本製品が転落し、事故に至るおそれがあります。

③ 荷台に段差ができないように、アユミ板のフックを
かけてください。

※ ずれのないように確実にかけてください。

④ 本製品のエンジンを始動し、副変速レバーを「低速」
にしてください。

※ エンジン回転速度は低速で行ってください。



⑤ 本製品をアユミ板の手前まで移動させ、アユミ板の中央に左右前後輪の中心を合わせ、アユミ板と平
行になっているか確認し、斜面に対して直角になるように前進で荷台へゆっくり積み込んでください。

※ 万一途中でエンストした場合は、すぐにブレーキペダルを踏み込んでください。その後、徐々にブレー
キをゆるめ、下まで降ろしてください。

⑥ トラックへ積み込み終わったら駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止してください。

⑦ けん引フックにロープをかけて、本製品を必ず固定してください。

※ けん引フックについては、**19 ページの「(13)けん引フック」**を参照してください。

⚠ 注 意



■ 荷台に積み込んだ後は、けん引フックにロープをかけて、本製品を必ず固定してください。

トラックが急ブレーキをかけた時に、荷台から本製品が転落し、事故に至るおそれがあります。

■ プラットホームの場合

① トラックの荷台と同じ高さで、平坦なプラット
ホームを利用してください。

② トラックを右図のように駐車してください。

③ トラックの変速を「1 速」または「R」に入れ、
駐車ブレーキをかけた後、エンジンを停止して歯
止めをしてください。

④ 本製品のエンジンを始動し、副変速レバーを「低速」にし、主変速レバーを「停止」にしてください。

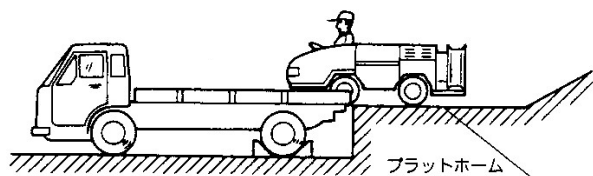
※ エンジン回転速度は低速で行ってください。

⑤ 前進で荷台へゆっくり積み込んでください。

⑥ トラックへ積み込み終わったら駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止してください。

⑦ けん引フックにロープをかけて、本製品を必ず固定してください。

※ けん引フックについては、**19 ページの「(13)けん引フック」**を参照してください。



(3)トラックからの降ろし方

トラックから降ろす作業は、大変危険な作業です。安全に十分注意して行ってください。

 警 告	
	■ 本製品を荷台から降ろす際は、作業に関係のない人を周囲に近づけないでください。 誤作動させた場合は、事故や重傷に至るおそれがあります。 ■ 他の作業者に誘導をお願いする場合は、本製品の進行方向の直前、直後には立たせないでください。 誤作動させた場合は、事故や重傷に至るおそれがあります。
	■ 本製品を荷台から降ろす際は平坦な場所で行い、他の作業者の誘導のもとに行ってください。 本製品を転落させ、事故または重傷に至るおそれがあります。 ■ トラックから降ろす際は、15 度以下の傾斜角で降ろしてください。それ以外のときは、10 度以下の傾斜角で降ろしてください。 本製品が転落し、死亡または重傷に至るおそれがあります。

■ アユミ板の場合

- ① トラックの変速を「1 速」または「R」に入れ、駐車ブレーキをかけた後、エンジンを停止して歯止めをしてください。
- ② アユミ板を準備してください。
- ③ 荷台に段差ができないように、アユミ板のフックをかけてください。
※ ずれのないように確実にかけてください。
- ④ 本製品を固定しているロープを解いてください。
- ⑤ 本製品のエンジンを始動し、副変速レバーを「低速」にし、駐車ブレーキを解除し、主変速レバーを「後進」にしてください。
※ エンジン回転速度は低速で行ってください。
- ⑥ 本製品をアユミ板の手前まで移動させ、アユミ板の中央に左右前後輪の中心を合わせ、アユミ板と平行になっているか確認し、斜面に対して直角になるように後進で荷台からゆっくり降ろしてください。

■ プラットホームの場合

- ① トラックの荷台と同じ高さで、平坦なプラットホームを利用してください。
- ② 積み込みで行ったようにトラックを駐車してください。
- ③ トラックの変速を「1 速」または「R」に入れ、駐車ブレーキをかけた後、エンジンを停止して歯止めをしてください。
- ④ 本製品を固定しているロープを解いてください。
- ⑤ 本製品のエンジンを始動し、副変速レバーを「低速」にし、主変速レバーを「後進」にしてください。
※ エンジン回転速度は低速で行ってください。
- ⑥ 駐車ブレーキを解除し、後進で荷台からゆっくり降ろしてください。

5. 始業点検（作業前点検）

その日の作業を始める前に行う点検が始業点検です。作業前に点検を行うことにより、事故や故障を未然に防止することができます。非常に大切な点検のため、必ず実施してください。もし、ご自身での点検に不安のある方や交換・修理が必要な場合は、ご購入の販売店にご相談ください。また、いつもと違う音・臭い・振動がするときは、故障しているおそれがありますのでご購入の販売店に点検を依頼してください。

⚠ 警 告



- 始業点検は 46 ページの「8. 保守点検（点検整備方式）」に基づき点検を実施し、必要な場合は処置を施してください。
必要な処置をしないと死亡または重傷に至るおそれがあります。

⚠ 注 意



- 始業点検は平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、必ずエンジンを停止して行ってください。
点検中に誤作動させ、事故やけがに至るおそれがあります。

始業点検一覧表

点 検 項 目			点 検 方 法	整備方法
制動装置	ブレーキペダル	遊び	5~10mmの間か 63 ページの「1) ブレーキペダルの点検」を参照し、確認してください。	ご購入の販売店に依頼してください。
		踏みしろ	ペダル先端のストロークが 70mm 以下か、ペダルを軽く踏み込んで確認してください。	ご購入の販売店に依頼してください。
		ブレーキの効き具合	低速で走り停止できるか確認してください。	ご購入の販売店に依頼してください。
	駐車ブレーキレバー	引きしろの余裕	通常に引き 5~8 ノッチの間かを 64 ページの「(19) 駐車ブレーキの点検」を参照してください。	ご購入の販売店に依頼してください。
		ブレーキのきき具合	低速で走り停止できるかを 64 ページの「(19) 駐車ブレーキの点検」を参照してください。	ご購入の販売店に依頼してください。
		ラチェット部の摩耗・損傷	引いた状態で固定できるかを確認してください。	ご購入の販売店に依頼してください。
走行装置	タイヤ	空気圧	基準値 ± 10kPa 以内か確認してください。	62 ページの「(16) タイヤの点検」を参照してください。
		亀裂・損傷	亀裂および損傷がないか確認してください。	62 ページの「(16) タイヤの点検」を参照してください。
		ラグの高さ・異常な摩耗	タイヤ中央ラグ高さ 5mm 以上あるか確認してください。	62 ページの「(16) タイヤの点検」を参照してください。
		異物の付着	異物が付着していないか	除去してください。
	ホイール	タイヤの状態	タイヤがホイールから外れていないか確認してください。	ご購入の販売店に依頼してください。
		リム・ホイールディスクなどの損傷	変形がないか確認してください。	ご購入の販売店に依頼してください。
	HST	油漏れ	油が漏れていないか点検してください。	ご購入の販売店に依頼してください。

点 検 項 目		点 検 方 法	整備方法
Vベルト	損傷	傷、異常摩耗がないか目視にて確認してください。	ご購入の販売店に依頼してください。
原動機	始動装置	かかり具合	始動時異常音がないか確認してください。
	充電装置	充電作用	エンジン始動時充電ランプが消えるか確認してください。
	バッテリー	液量	規定線以内か確認してください。
		ターミナル部の接続状態	手でゆるまないか確認してください。
	本体	かかり具合・異常音	正常にエンジンが始動するか確認してください。
		低速・加速の状態	異常音がしないか確認してください。
		排気の状態	異常と感じる黒煙がでていないか確認してください。
		エアクリーナエレメントの状態	ゴミの付着が少ないか目視にて確認してください。
	潤滑装置	オイルの汚れ・量	油面がゲージ内にあるか、黒くないか確認してください。
	冷却装置	水漏れ	冷却水が漏れていないか
		水量	適正な量になっているか
		ファンベルトのゆるみ・損傷	100N で 押 し た 時 の た わ み 量 が 7～9mm 以内か
		ラジエータスクリーン、オイルクーラスクリーンの汚れ	ゴミの付着が少ないか目視にて確認してください。
	マフラー	取り付けのゆるみ・損傷	ガス漏れなどがいないか
計器類	灯火装置	点灯具合・汚れ・損傷	点灯するか、汚れ、損傷がないか
	方向指示器	点灯具合・汚れ・損傷	点灯するか、汚れ、損傷がないか
	警 音 器 (ホーン)	作用	音がでるか
	反射装置(後部反射鏡)	汚れ・損傷	汚れ、損傷はないか
その他	ボンネット支柱のつまり		排水穴にゴミが詰まっていないか
	前日の作業におけるの異常箇所		修理が終わっているか
散布装置	吸水ストレーナ	ゴミ詰まり、網の損傷	ゴミ詰まり、網の損傷
	薬剤タンク水コシ網	ゴミ詰まり、網の損傷	ゴミ詰まり、網の損傷
	ノズル	ゴミ詰まり、噴板・ボディの損傷	ゴミ詰まり、噴板・ボディの損傷
	送風機	異物の付着、損傷	異物の付着、損傷

6. 作業の準備

お願い

- 事故やけがに備え救急箱や止血道具（タオルなど）を携行してください。応急処置が行えず、傷が悪化するおそれがあります。なお、最寄りの消防本部・消防署で実施している救命講習の講習会に参加して、応急手当の知識と技術を身に付けておくことを推奨いたします。
- 万一の事故に備えて緊急時に連絡できるようにしてください。また、家族などにも緊急連絡先（医療機関・消防署など）がわかるようにしてください。携帯電話などの緊急時の連絡手段の携帯を推奨いたします。
- 燃料を取り扱う前に、発火・発煙・火災にそなえ消火器具、消火器、簡易消火器具（乾燥砂、砂をかけるためのスコップなど）を準備してください。なお、緊急時にあわてないように、消火器具などの使用方法を習得しておいてください。

(1) 作業者の服装と保護具の装着

作業に適した服装をして必要な保護具を装着してください。詳細は 3 ページの「正しい服装の一例」を参照してください。

⚠ 警 告



- 体を露出ないように、防水性保護衣や保護具などを必ず装着してください。
体が露出していると薬剤が体に付着し、薬害に至るおそれがあります。

(2) 給水

⚠ 警 告



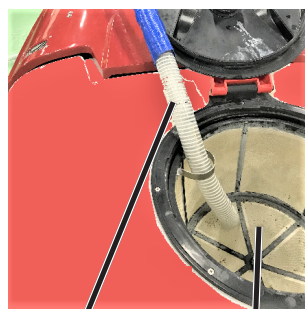
- 飲料水源および生物を飼育している湖沼からの直接給水は、絶対に行わないでください。
農薬による汚染のおそれがあります。また、飲料水源を汚染すると法律により、罰せられることがあります。

■ 給水

- ① 送液バルブを「排水」以外の位置にしてください。
- ② 給水ホース（ストレーナ付き）を送風機から外し、水源に入れてください。
- ③ 薬剤タンクの蓋を開け、送風機にある残りの給水ホースを、薬剤タンクの水コシ網にかけてください。



給水ホース（ストレーナ付き）



給水ホース 水コシ網



給水ポンプスイッチ

- ④ エンジンを始動し、給水ポンプスイッチを「入」にしてください。
- ⑤ スロットルレバーを操作し、エンジン回転速度を 2400rpm 程度に調整してください。
- ⑥ 薬剤タンク水量計を目安に、散布に必要な水量が給水されたら、スロットルレバーを「エンジン始動位置」の位置に戻してください。
- ⑦ 給水ポンプスイッチを「切」にし、エンジンを停止してください。
- ⑧ 2 つの給水ホースを格納してください。

⚠ 注 意



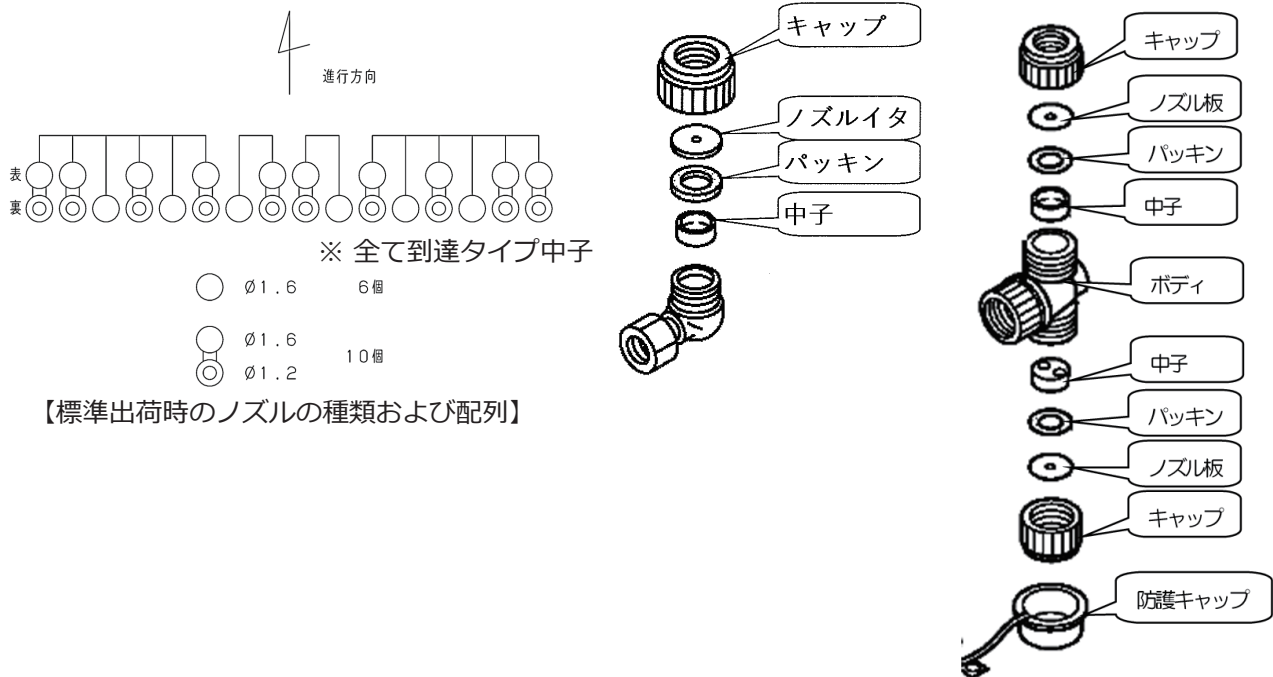
- 給水しない場合は、すぐに給水ポンプスイッチを「切」にし、点検してください。
空運転をすると、給水ポンプが破損に至るおそれがあります。

(3) ノズルの選定

本製品の標準出荷時は、下記の通りにノズルが取り付けられています。標準出荷ノズルでは、所要の 10a 当たり散布量を確保できない場合は、**35 ページ・36 ページの「ノズル個数選定表(到達タイプ中子使用)」**を参照し、ノズル板を選定して交換してください。

お願い

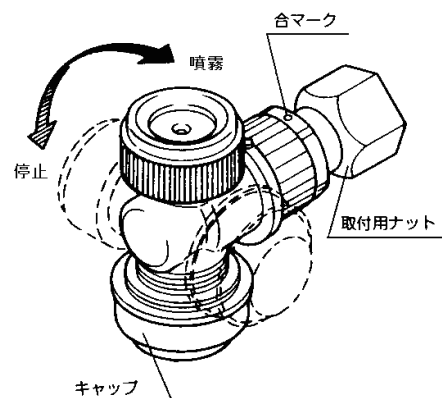
- 長期間使用するとノズル板が摩耗し、吐出量が多くなりますのでノズル板を交換してください。



ノズルは、タレットノズル(切換式) を使用しています。

右図合マークにノズルの方向を合わせると、霧が出る状態になります。90°回転させると霧は出ません。(ノズルが不要の時に、この状態にします)

ノズル下部には、キャップが取り付けられています。下方向を向いたノズル板にゴミ等が付着するのを防ぐためのものです。



■ ノズル吐出量表 (到達タイプの中子の場合)

圧力	1MPa	1.5MPa
噴口径 (Φ)	吐出量 (L/min)	
0.7	0.72	0.88
0.8	0.95	1.16
0.9	1.21	1.48
1.0	1.49	1.83
1.1	1.78	2.18
1.2	2.15	2.63
1.3	2.37	2.90
1.4	2.77	3.39
1.5	3.10	3.80
1.6	3.49	4.28
1.8	4.25	5.20
2.0	5.06	6.20
2.1	5.48	6.71

※ 実際の吐出量は、ホースの抵抗などがある為、上記数値とは異なる場合があります。

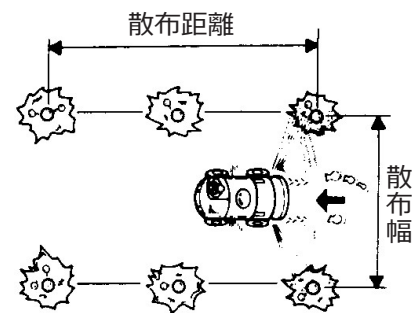
■ ノズル吐出量表 (広角タイプの中子の場合)

圧力	1MPa	1.5MPa
噴口径 (Φ)	吐出量 (L/min)	
0.7	0.66	0.81
0.8	0.78	0.96
0.9	0.96	1.18
1.0	1.08	1.32
1.1	1.23	1.51
1.2	1.37	1.68
1.3	1.48	1.81
1.4	1.66	2.03
1.5	1.76	2.15
1.6	2.01	2.46
1.8	2.32	2.84
2.0	2.62	3.21
2.1	2.75	3.36

※ 実際の吐出量は、ホースの抵抗などがある為、上記数値とは異なる場合があります。

1) ノズル個数選定表の見方

- 各散布速度 (1.5km/h, 2.0km/h, 2.5km/h) で、10a 当たり最大散布できる量を散布幅ごとに示してあります。
- 散布速度欄の分 / 10a は、各散布速度ごとの散布作業時間を示してあります。
- 散布距離は、各散布幅で走行した時の 10a 当たりの走行距離です。
- 単一のノズル板で組み合わせをする場合は、表の右端が最大使用可能個数です。



注意



- ノズル選定表左側の最大散布量を超えないように、ノズル板を選定してください。噴霧用ポンプの能力を超え、故障に至るおそれがあります。

例) 散布幅 7m、散布量 250L/10a、1.5km/h で散布したい場合は、ノズル穴径をΦ 1.4 のみとすると、14 個取り付けることになります。

ノズルは総数 16 個、残り 2 個は無穴を取り付けることになります。

※ ノズル選定表は、ホースのヘッドロスなどを考慮して、ノズル吐出量に係数 0.9 をかけてあります。

2) ノズルの組み合わせ方

標準出荷ノズルにおいて、散布速度 1.5km/h、散布幅 6m で 10a 当たり 300L 散布したい場合に組み合わせられるノズルを求めてください。

① ノズル個数選定表で、散布幅 6m の表を開いてください。

② 1.5km/h の欄よりノズル板を組み合わせてください。

③ 使用したいノズル板を選定してください。

※ ここでは、ノズル穴径Φ 1.4 で 200L/10a、その他のノズルで 100L/10a 散布するとします。

④ Φ 1.4 のノズル板で、200L/10a は 10 個となります。

⑤ ノズル総数 16 個より 10 個を差引くと、残りの使用可能個数は 6 個になります。

⑥ ④で 200L/10a のノズル個数を決めていますので、残りのノズルで 100L/10a をノズル個数が 6 個となるよう組み合わせてください。

⑦ Φ 1.3 × 6 個 (100L/10a) が選定できます。

$$\begin{array}{r}
 \Phi 1.4 \times 10 \text{ 個 (200L/10a)} \\
 +) \quad \Phi 1.3 \times 6 \text{ 個 (100L/10a)} \\
 \hline
 16 \text{ 個 (300L/10a)}
 \end{array}$$

※ 色々な組み合わせができますので、ほ場形態や作物形態に合わせて組み合わせてください。

■ その他の組み合わせ例

(2.5km/h、幅 6m、300L/10a)

$$\begin{array}{r}
 \Phi 1.8 \times 8 \text{ 個 (150L/10a)} \\
 \Phi 1.6 \times 6 \text{ 個 (100L/10a)} \\
 +) \quad \Phi 2.0 \times 2 \text{ 個 (50L/10a)} \\
 \hline
 16 \text{ 個 (300L/10a)}
 \end{array}$$

お願い

- ノズル個数選定表にない散布幅や圧力でやりたい場合は、ご購入の販売店または弊社サポートセンターにご相談ください。
- 実際のほ場では地盤の状態が様々ですので、散布速度にズレが生じます。実際にほ場内を走行し、散布量を補正することを推奨します。

ノズル個数選定表(到達タイプ中子使用)

散布幅		6. (m)	散布距離		167	(m/10a)							
散布速度	ノズル径	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600
89.5 (ℓ/分)	1.5 (km/h)	08 10	7	14									
		09 13	6	11									
		10 16	5	9	14								
1.5 (MPa)	噴霧圧力	11 20	4	8	11	15							
		12 24	3	6	10	13	16						
		13 26	3	6	9	11	14						
1.5 (km/時)	散布速度	14 31	2	5	7	10	12	15					
		15 34	2	4	7	9	11	13	15				
		16 39	2	4	6	8	10	12	14	16			
2.0 (km/時)	分/10a	18 47	2	3	5	6	8	10	11	13	14		
		20 56	1	3	4	5	7	8	9	11	12	13	
		21 60	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2.5 (km/時)	分/10a	08 10	7	14									
		09 13	6	11									
		10 16	5	9	14								
16 (個)	ノズル数	11 20	4	8	11	15							
		12 24	3	6	10	13	16						
		13 26	3	6	9	11	14						
537 (ℓ/10a)	最大散布量	14 31	2	5	7	10	12	15					
		15 34	2	4	7	9	11	13	15				
		16 39	2	4	6	8	10	12	14	16			
403 (ℓ/10a)	分/10a	18 47	2	3	5	6	8	10	11	13	14		
		20 56	1	3	4	5	7	8	9	11	12	13	
		21 60	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12
322 (ℓ/10a)	分/10a	08 10	7	14									
		09 13	6	11									
		10 16	5	9	14								
5.0	分/10a	11 20	4	8	11	15							
		12 24	3	6	10	13	16						
		13 26	3	6	9	11	14						
2.5	分/10a	14 31	2	5	7	10	12	15					
		15 34	2	4	7	9	11	13	15				
		16 39	2	4	6	8	10	12	14	16			
2.5 (km/h)	分/10a	18 47	2	3	5	6	8	10	11	13	14		
		20 56	1	3	4	5	7	8	9	11	12	13	
		21 60	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12
4.0	分/10a	08 10	7	14									
		09 13	6	11									
		10 16	5	9	14								
分/10a	分/10a	11 20	4	8	11	15							
		12 24	3	6	10	13	16						
		13 26	3	6	9	11	14						
2.5 (km/h)	分/10a	14 31	2	5	7	10	12	15					
		15 34	2	4	7	9	11	13	15				
		16 39	2	4	6	8	10	12	14	16			
89.5 (ℓ/分)	ノズル吸水	18 47	2	3	5	6	8	10	11	13	14		
		20 56	1	3	4	5	7	8	9	11	12	13	
		21 60	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1.5 (MPa)	噴霧圧力	08 10	7	14									
		09 13	6	11									
		10 16	5	9	14								
1.5 (km/時)	散布速度	11 20	4	8	11	15							
		12 24	3	6	10	13	16						
		13 26	3	6	9	11	14						
2.0 (km/時)	分/10a	14 31	2	5	7	10	12	15					
		15 34	2	4	7	9	11	13	15				
		16 39	2	4	6	8	10	12	14	16			
2.5 (km/時)	分/10a	18 47	2	3	5	6	8	10	11	13	14		
		20 56	1	3	4	5	7	8	9	11	12	13	
		21 60	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12
16 (個)	ノズル数	08 10	7	14									
		09 13	6	11									
		10 16	5	9	14								
537 (ℓ/10a)	最大散布量	11 20	4	8	11	15							
		12 24	3	6	10	13	16						
		13 26	3	6	9	11	14						
403 (ℓ/10a)	分/10a	14 31	2	5	7	10	12	15					
		15 34	2	4	7	9	11	13	15				
		16 39	2	4	6	8	10	12	14	16			
322 (ℓ/10a)	分/10a	18 47	2	3	5	6	8	10	11	13	14		
		20 56	1	3	4	5	7	8	9	11	12	13	
		21 60	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12
5.0	分/10a	08 10	7	14									
		09 13	6	11									
		10 16	5	9	14								
2.5	分/10a	11 20	4	8	11	15							
		12 24	3	6	10	13	16						
		13 26	3	6	9	11	14						
2.5 (km/h)	分/10a	14 31	2	5	7	10	12	15					
		15 34	2	4	7	9	11	13	15				
		16 39	2	4	6	8	10	12	14	16			
89.5 (ℓ/分)	ノズル吸水	18 47	2	3	5	6	8	10	11	13	14		
		20 56	1	3	4	5	7	8	9	11	12	13	
		21 60	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1.5 (MPa)	噴霧圧力	08 10	7	14									
		09 13	6	11									
		10 16	5	9	14								
1.5 (km/時)	散布速度	11 20	4	8	11	15							
		12 24	3	6	10	13	16						
		13 26	3	6	9	11	14						
2.0 (km/時)	分/10a	14 31	2	5	7	10	12	15					
		15 34	2	4	7	9	11	13	15				
		16 39	2	4	6	8	10	12	14	16			
2.5 (km/時)	分/10a	18 47	2	3	5	6	8	10	11	13	14		
		20 56	1	3	4	5	7	8	9	11	12	13	
		21 60	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12
16 (個)	ノズル数	08 10	7	14									
		09 13	6	11									
		10 16	5	9	14								
537 (ℓ/10a)	最大散布量	11 20	4	8	11	15							
		12 24	3	6	10	13	16						
		13 26	3	6	9	11	14						
403 (ℓ/10a)	分/10a	14 31	2	5	7	10	12	15					
		15 34	2	4	7	9	11	13	15				
		16 39	2	4	6	8	10	12	14	16			
322 (ℓ/10a)	分/10a	18 47	2	3	5	6	8	10	11	13	14		
		20 56	1	3	4	5	7	8	9	11	12	13	
		21 60	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12
5.0	分/10a	08 10	7	14									
		09 13	6	11									
		10 16	5	9	14								
2.5	分/10a	11 20	4	8	11	15							
		12 24	3	6	10	13	16						
		13 26	3	6	9	11	14						
2.5 (km/h)	分/10a	14 31	2	5	7	10	12	15					
		15 34	2	4	7	9	11	13	15				
		16 39	2	4	6	8	10	12	14	16			
89.5 (ℓ/分)	ノズル吸水	18 47	2	3	5	6	8	10	11	13	14		
		20 56	1	3	4	5	7	8	9	11	12	13	
		21 60	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1.5 (MPa)	噴霧圧力	08 10	7	14									
		09 13	6	11									
		10 16	5	9	14								
1.5 (km/時)	散布速度	11 20	4	8	11	15							
		12 24	3	6	10	13	16						
		13 26	3	6	9	11	14						
2.0 (km/時)	分/10a	14 31	2	5	7	10	12	15					
		15 34	2	4	7	9	11	13	15				
		16 39	2	4	6	8	10	12	14	16			
2.5 (km/時)	分/10a	18 47	2	3	5	6	8	10	11	13	14		
		20 56	1	3	4	5	7	8	9	11	12	13	
		21 60	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12
16 (個)	ノズル数	08 10	7	14									
		09 13	6	11									
		10 16	5	9	14								
537 (ℓ/10a)	最大散布量	11 20	4	8	11	15							
		12 24	3	6	10	13	16						
		13 26	3	6	9	11	14						
403 (ℓ/10a)	分/10a	14 31	2	5	7	10	12	15					
		15 34	2	4	7	9	11	13	15				
		16 39	2	4	6	8	10	12	14	16			
322 (ℓ/10a)	分/10a	18 47	2	3	5	6	8	10	11	13	14		
		20 56	1	3	4	5	7	8	9	11	12	13	
		21 60	1	2	4	5	6	7	8	9	10	11	12
5.0	分/10a	08 10	7	14									
		09 13	6	11									
		10 16	5	9	14								
2.5	分/10a	11 20	4	8	11	15							
		12 24	3	6	10	13	16						
		13 26	3	6	9	11	14						
2.5 (km/h)													

ノズル個数選定表(到達タイプ中子使用)

散布幅 8 (m)			散布距離 125 (m/10a)													
散布速度	ノズル径	ノズル量	散布量 (ℓ/10a)													
			50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600		
89.5 (ℓ/分) 1.5 (MPa) 1.5 (km/時) 2.0 (km/時) 2.5 (km/時) 16 (個)	1.5 (km/h)	08 1.0	10													
		09 1.3	8	15												
		10 1.6	6	12												
		11 2.0	5	10	15											
5.0	分/10a	12 2.4	4	8	13											
		13 2.6	4	8	11	15										
		14 3.1	3	7	10	13										
		15 3.4	3	6	9	12	15									
16 (個)	分/10a	16 3.9	3	5	8	10	13	16								
		18 4.7	2	4	6	9	11	13	15							
		20 5.6	2	4	5	7	9	11	13	14						
		21 6.0	2	3	5	7	8	10	12	13						
403 (ℓ/10a) 302 (ℓ/10a) 242 (ℓ/10a)	2.0 (km/h)	08 1.0	13													
		09 1.3	10													
		10 1.6	8													
		11 2.0	7	14												
3.8	分/10a	12 2.4	6	11												
		13 2.6	5	10	15											
		14 3.1	4	9	13											
		15 3.4	4	8	12	16										
2.5 (km/h)	分/10a	16 3.9	3	7	10	14										
		18 4.7	3	6	9	11	14									
		20 5.6	2	5	7	10	12	14								
		21 6.0	2	4	7	9	11	13								
25 (km/h)	分/10a	08 1.0	16													
		09 1.3	13													
		10 1.6	10													
		11 2.0	8													
3.0	分/10a	12 2.4	7	14												
		13 2.6	6	13												
		14 3.1	5	11												
		15 3.4	5	10	15											
16 (個)	分/10a	16 3.9	4	9	13											
		18 4.7	4	7	11	14										
		20 5.6	3	6	9	12										
		21 6.0	3	6	8	11										

散布幅 7 (m)			散布距離 143 (m/10a)													
散布速度	ノズル径	ノズル量	散布量 (ℓ/10a)													
			50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600		
89.5 (ℓ/分) 1.5 (MPa) 1.5 (km/時) 2.0 (km/時) 2.5 (km/時) 16 (個)	1.5 (km/h)	08 1.0	8													
		09 1.3	7	13												
		10 1.6	5	11	16											
		11 2.0	4	9	13											
5.7	分/10a	12 2.4	4	7	11	15										
		13 2.6	3	7	10	13										
		14 3.1	3	6	9	11	14									
		15 3.4	3	5	8	10	13	15								
16 (個)	分/10a	16 3.9	2	5	7	9	11	14	16							
		18 4.7	2	4	6	7	9	11	13	15						
		20 5.6	2	3	5	6	8	9	11	13	14					
		21 6.0	1	3	4	6	7	9	10	12	13					
460 (ℓ/10a) 345 (ℓ/10a) 276 (ℓ/10a)	2.0 (km/h)	08 1.0	11													
		09 1.3	9													
		10 1.6	7	14												
		11 2.0	6	12												
4.3	分/10a	12 2.4	5	10	15											
		13 2.6	4	9	13											
		14 3.1	4	8	11	15										
		15 3.4	3	7	10	14										
2.5 (km/h)	分/10a	16 3.9	3	6	9	12	15									
		18 4.7	2	5	7	10	12	15								
		20 5.6	2	4	6	8	10	13								
		21 6.0	2	4	6	8	10	12								
25 (km/h)	分/10a	08 1.0	14													
		09 1.3	11													
		10 1.6	9													
		11 2.0	7	15												
3.4	分/10a	12 2.4	6	12												
		13 2.6	6	11												
		14 3.1	5	10	14											
		15 3.4	4	9	13											
16 (個)	分/10a	16 3.9	4	8	11	15										
		18 4.7	3	6	9	12	16									
		20 5.6	3	5	8	10	13									
		21 6.0	2	5	7	10	12									

3) 散布ノモグラフの使い方

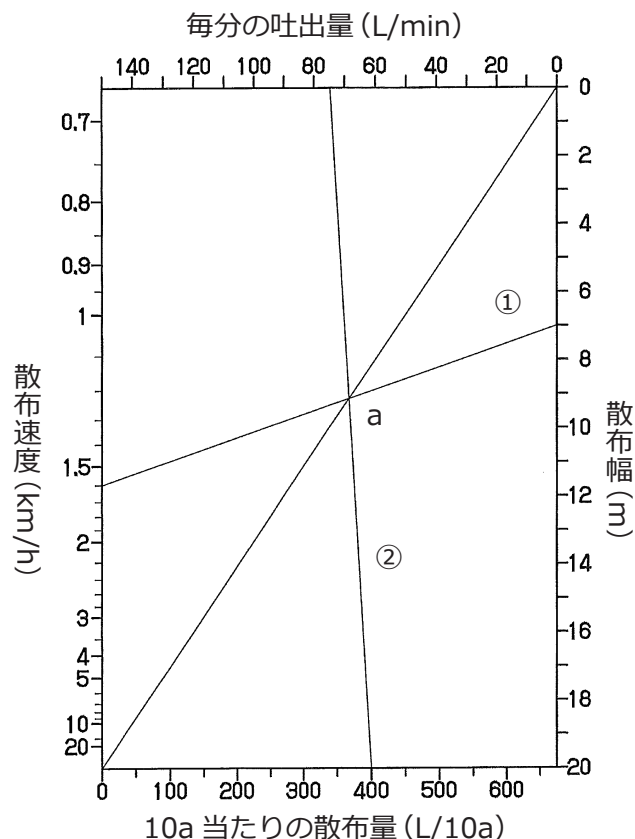
- ① グラフにおいて、所要の「散布速度」および「散布幅」を直線で結んでください。
例) 散布幅 : 7m、散布速度 : 1.6km/h
- ② この直線と対角線の交点「a」と「10a 当たりの散布量」を結んで延長してください
※ 上部横軸の交点が「毎分の吐出量」になります。
※ この例ではノズル吐出量を 75L/min とした場合は、10a 当たり 400L 散布可能ということです。

ノズル吐出量は、37 ページの「4) エンジン回転速度と走行速度、風量、噴霧用ポンプ吐出量の関係」より読み取った噴霧用ポンプ吐出量を、下記計算式に当てはめて計算してください。

最大ノズル吐出量 = (噴霧用ポンプ × 0.9)

このノズル吐出量が、噴霧用ポンプ吐出量の 91% 以上の場合は、噴霧用ポンプの能力不足ですので、散布速度を一段遅くしてください。

【散布ノモグラフ】



お願い

- 実際には、タイヤのスリップなどでズレが生じますので、散布したい速度でほ場の散布経路を走行し、実速度を測定することを推奨します。
- ノズル噴霧量が、噴霧用ポンプ吐出量の 90% 以下になるように設定してください。

4) エンジン回転速度と走行速度、風量、噴霧用ポンプ吐出量の関係

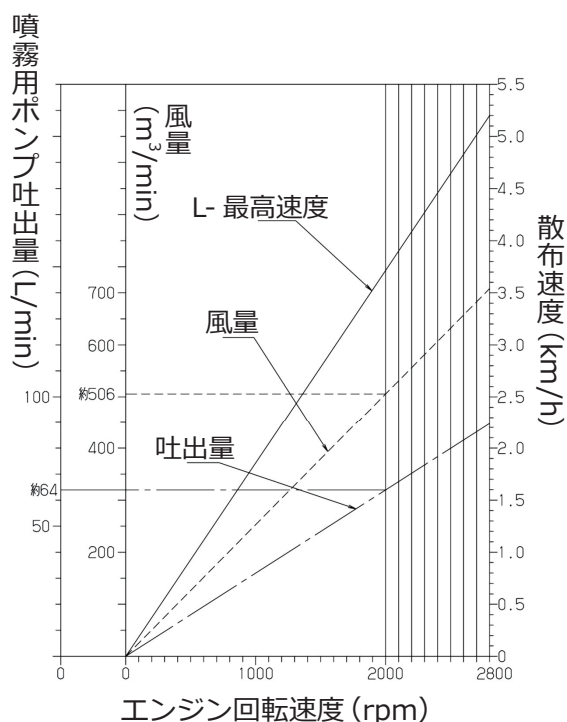
エンジン回転速度と走行速度、風量、噴霧用ポンプ吐出量の関係がグラフから読み取ることができます。

■ グラフの使い方

「エンジン回転速度」2000rpm の時は「エンジン回転速度」の縦線と吐出量及び、風量との交点部を横に読み取ります。

吐出量 : 64L/min

風量 : 506m³/min となります。



吐出量は噴霧用ポンプの全吐出量を表しているので、ノズル吐出量は 37 ページの「3) 散布ノモグラフの使い方」の最大ノズル吐出量の計算式で、噴霧用ポンプ吐出量を上記数字に入れ替えて計算してください。

(4) 噴霧確認

薬剤を調合する前に清水で運転し、異常が無いかを確認してください。また、噴霧確認が完了した後に、ほ場で試し散布をしてください(散布方法については41ページの「(1) 散布作業」を参照してください)。試し散布を行い調整が必要な場合は、再度調整してください。

警告



- 噴霧確認は薬剤を使用せず、清水で行ってください。
農薬を被曝し、薬害に至るおそれがあります。

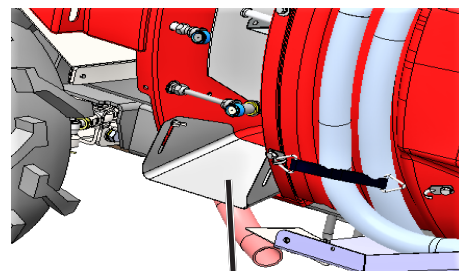
注意



- 噴霧用ポンプを30秒以上空運転しないでください。
空運転を行うと噴霧用ポンプが故障に至るおそれがあります。

1) 噴霧確認

- ① 薬剤タンクに水を入れ、エンジンを始動し、噴霧用ポンプスイッチを「ON」にしてください。
- ② 噴霧メインコックを「噴霧」にしてください。
- ③ 噴霧コックを「噴霧」にし、下記の状態を調べてください。
 - ノズルにゴミなどの詰まりがないか点検してください。
 - 各噴霧コックの開閉状態を調べてください。



角度調節板

2) 風向の確認

- ① 送風機を作動させ、風の出る方向を確認してください。
- ② 散布対象の樹形に合わせて、角度調節板で調節してください。

(5) 作業現場の整備

作業現場にある障害物は、事前に取り除いてください。

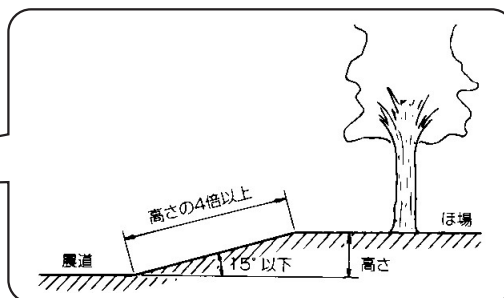
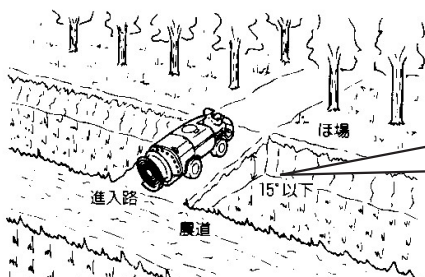
注意



- 作業現場に障害物がないことを、作業前に十分に確かめてください。
障害物の近くで作業をすると、事故に至るおそれがあります。

■ ほ場の出入口

ほ場への進入傾斜角度は、15度以下になるようにしてください。進入路が軟弱な場合は、小石やコンクリートなどで地盤を固め、進入路を整備してください。また、ほ場内や、ほ場までの移動路も整備してください。



⚠ 警 告

	■ 本製品をほ場に入れる前に、ほ場の出入口を整備してください。 整備が不十分の場合は本製品が転落し、死亡または重傷に至るおそれがあります。 ■ ほ場進入時は、15 度以下の傾斜角で使用してください。それ以外のときは、10 度以下の傾斜角で使用してください。 本製品が転落し、死亡または重傷に至るおそれがあります。 ■ 本製品をほ場に入れる前に、走行に支障のある枝は取り除いてください。 枝に挟まれ、死亡または重傷に至るおそれがあります。
---	---

■ 走行路

本製品をほ場に入れる前に、走行路を整備してください。走行路は効率の良い防除効果が得られるよう、樹形、地形などの状況を考慮して決定してください。

■ 樹形について

走行に支障のある枝は切るか、支柱を立て走行路を整備してください。

走行路の道幅は、ほ場までの移動路も含め 2m 以上にしてください。また、旋回する場所は 2.5m 以上にしてください。傾斜地の場合は、上記より 0.5m ほど幅を広くしてください。

⚠ 警 告

	■ 谷側に傾斜のついた走行路は、走行しないでください。 本製品が転落し、死亡または重傷に至るおそれがあります。
	■ 路肩は石積みやコンクリートなどで補強してください。 路肩が崩れ本製品が転落し、死亡または重傷に至るおそれがあります。 ■ 路肩が見えるように雑草は刈り取ってください。 路肩が分からず本製品が転落し、死亡または重傷に至るおそれがあります。

お願い

- 走行路にワラなどを敷かないでください。走行中にスリップしたり、送風機を動かした際に風の巻き上げで送風機に貼り付き、散布作業や走行の妨げになります。
- 走行路の整備後に、本製品で試走してください。枝や路面上に支障のあるものがあった場合は、すぐに処置してください。

■ 傾斜地での走行路の作り方

傾斜地での走行路は旋回する場所も含め、斜面に対しての傾斜は 10 度以下にしてください。横向きの傾斜は 5 度以下とし、4 輪全てが接地する路面にしてください。

お願い

- 急坂路では等高線にそって道路を作り、地盤を固めてください。



(6) 作業計画

散布作業を行う前にあらかじめ作業場所、作業手順（薬剤の準備・散布作業・散布順路・後片付けなど）、緊急時の対応などを決めた作業計画を立ててください。

(7) 薬剤の準備

薬剤を薬剤タンクに入れるときは、給水した後に行ってください。

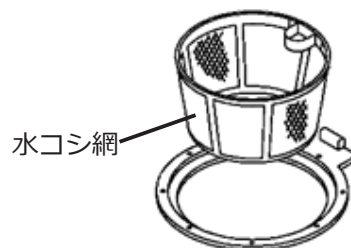
⚠ 警 告	
	■ 薬剤は飲み物や食べ物の容器、ペットボトルなどには移し替えないでください。 誤って飲み込むと薬害に至るおそれがあります。
	■ 薬剤の取り扱いに注意してください。万一目や口に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い流し、医師の診察を受けてください。 そのまま放置すると、失明や重傷に至るおそれがあります。 ■ 薬剤は安全な場所に保管し、運搬するときは容器が破損しないように気をつけてください。 薬剤が漏れ出すと薬害に至るおそれがあります。 ■ 薬剤は、幼児の手の届かないカギのかかる専用の場所に保管してください。 幼児が触ると、薬害に至るおそれがあります。

⚠ 注 意	
	■ 使用する薬剤の取扱説明書をよく読んで、用法、用量、使用上の注意を守って正しくご使用ください。特に水和剤についてはご注意ください。 濃度や散布量、薬剤の種類を間違えると、作物が薬害に至るおそれがあります。また本製品の消耗を早めます。

お願い

- 散布計画を立て、薬剤は余らないように作ってください。
- 有機溶剤を含む薬剤のご使用はお控えください。有機溶剤はパッキン、ホース類を傷めやすい薬剤です。やむを得ずご使用される場合は、使用後すぐに必ず清水で十分に洗浄してください。パッキン、ホース類が損傷します。
- 展着剤を使用する場合は、展着剤のラベルに記載されている内容に従って使用してください。
- フロアブル剤の中には、原液で使用すると、パッキン・シール部を痛め、液漏れにつながる場合があります。ご注意ください。

- ① 薬剤調合用に、バケツなどの容器を準備してください。
- ② 防水性の保護手袋と保護メガネ、保護マスクを装着してください。
- ③ 水コシ網が外れている場合は、取り付けてください。
- ④ 容器で必要なだけ薬剤を調合してください。
※ 薬剤は余らないように作ってください。水和剤を使用する際は、少量の水でよく溶いてください。
- ⑤ 噴霧コックを「停止」、送液バルブを「噴霧」の位置にしてください。
- ⑥ 噴霧用ポンプスイッチを「ON」にしてスロットルレバーを操作し、エンジン回転速度を1500~2000rpmに調整してください。
※ 薬剤タンク内がかくはんされます。



お知らせ

- 噴霧用ポンプとかくはん装置は連動しています。噴霧用ポンプを停止させると、薬剤はかくはんされません。

- ⑦ 薬剤を外部に漏らさないように薬剤タンクに入れ、十分にかくはんしてください。
※ 展着剤を使用する際は、泡立ち防止のため十分にかくはんしてから入れてください。

7. 散布作業

(1) 散布作業

散布作業をするときは、下記の注意事項を守ってください。

 警 告	
	■ ノズルをのぞきこまないでください。 目や顔などに薬剤がかかり、薬害に至るおそれがあります。 ■ エンジン運転中はノズル部に近づかないでください。 ノズルから薬剤が噴出し、薬害に至るおそれがあります。 ■ 傾斜地での後進散布は絶対に行わないでください。 本製品が転落し、死亡または重傷に至るおそれがあります。 ■ 薬剤を散布した直後の場所へ入らないでください。 散布後の薬剤の蒸気を吸い込み、薬害に至るおそれがあります。
	■ 薬剤の取り扱いに注意してください。万一目や口に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い流し、医師の診察を受けてください。 そのまま放置すると、失明や重傷に至るおそれがあります。 ■ 頭痛やめまいを感じたり、気分が悪くなったときは、すぐに作業を中止して医師の診察を受けてください。 薬害により事故や重傷に至るおそれがあります。 ■ 作業中の喫煙・飲食は控えてください。 タバコや手についた薬剤が口から入り、薬害に至るおそれがあります。 ■ 薬剤は薬剤タンクに残らないように散布してください。 残ったままで保管すると、次回使用時に薬剤が混ざって、作物が薬害に至るおそれがあります。

 注 意	
	■ 人や動物に噴霧しないでください。 薬剤がかかると薬害に至るおそれがあります。 ■ 作業に関係のない人は、散布作業の現場に近づけないでください。 薬剤がかかると薬害に至るおそれがあります。 ■ エンジン始動後は、噴霧に関するスイッチやコックなどをむやみに操作しないでください。 薬剤を撒いてしまい、作業や周りの作物が薬害に至るおそれがあります。 ■ 本製品をぶついたりしないでください。 本製品が故障に至るおそれがあります。 ■ 散布作業中に噴霧用ポンプスイッチを操作しないでください。 本製品が故障に至るおそれがあります。
	■ 取扱説明書をよく読んで、本製品の操作に慣れて正しい作業を行ってください。 正しい作業を行わないと、事故やけがに至るおそれがあります。 ■ 使用する薬剤のラベル、取扱説明書をよく読み正しい作業をしてください。 正しい作業を行わないと、事故やけがに至るおそれがあります。 ■ 散布作業は朝夕の涼しい時間帯に行ってください。 気温の高い時間帯は散布後の薬剤の蒸気を吸いこみ、薬害に至るおそれがあります。 ■ 風向きを考慮して、周辺の他の作物や畜舎、養魚池、水源地、河川、湖沼、住宅、通行人に飛散させないように散布してください。 薬剤の飛散により、薬害に至るおそれがあります。 ■ 風下から風上に向けて走行し、散布してください。 風上から散布すると薬剤を浴びて、薬害に至るおそれがあります。

⚠ 注 意



下記の項目を必ず守って、散布作業をしてください。

誤った散布作業を行うと薬剤がドリフトし、周辺作物や周辺住民などが薬害に至るおそれがあります。

- 風の弱い時に散布してください。
- 散布の位置や方向に注意してください。
- 適正なノズルを使い、適正な圧力で散布してください。
- 適正な量を散布してください。
- 園地の端部での散布作業は特に注意してください。
- 散布しようとする作物以外に、農薬がドリフトしないように細心の注意を払って散布してください。

- 薬剤タンクの残量に注意し、ノズルから霧が出なくなったら、噴霧用ポンプを停止させてください。

噴霧用ポンプを 30 秒以上空運転すると、故障に至るおそれがあります。

- 不具合を発見したときは、直ちに作業を中止し、整備・修理してください。
整備不良のまま作業を続けると薬害やけが、本製品の損傷に至るおそれがあります。

お知らせ

- 本製品が使用できる自然風速の限界は、3m/ 秒程度です。
- 断続的に散布する場合は、噴霧メインコック操作のみで作業ができます。

お願い

- 作業中は異常音、液漏れなどに注意し、もし異常があった場合は運転を中止し、対処してください。
- 取り除けない障害物などで走行が困難な場所は、手散布で補ってください。
- 風のある日は風向きとその変化に注意し、走行順路や走行速度を適宜調整し、薬剤の付着性や到達性の低下を防ぐようにしてください。

- ① エンジンを始動し、散布を始めたい位置より手前の位置に本製品を移動させ、停車してください。
- ② 副変速レバーを「低速」に入れてください。
- ③ 噴霧用ポンプスイッチを「ON」にし、調圧ダイヤルで任意の圧力に調整した後、送風機クラッチレバーを「入」にしてください。
※ 標準圧力は 1.5MPa です。
- ④ スロットルレバーを操作し、任意のエンジン回転速度に調整してください。
- ⑤ 噴霧メインコックを「停止」にして、各噴霧コックを「噴霧」にしてください。
- ⑥ 主変速レバーをゆっくり前に倒して走行を開始してください。
※ 散布速度は、1~3km/h 程度が適当です。
- ⑦ 散布を始めたい位置で、噴霧メインコックを「噴霧」にしてください。
※ 樹形や木の配置を考慮し、各噴霧コックを開閉させ散布が不要の箇所へは、散布しないようにしてください。

(2) 散布作業後

⚠ 警 告



- 清掃作業は必ず噴霧用ポンプを停止して、エンジンを停止してから行ってください。
噴霧用ポンプが動いていると薬剤が出て、薬害に至るおそれがあります。
- 損傷個所がある場合は、修理してから保管してください。
損傷個所があると、事故に至るおそれがあります。

⚠ 注 意



- エンジン、電装品、噴霧用ポンプに水をかけないでください。
水をかけると故障に至るおそれがあります。汚れたら布などで拭き取ってください。



- 作業が終わったら、全身をよく洗ってください。目をきれいな水で洗い、うがいをしてください。
身体に薬剤が付着していると、薬害に至るおそれがあります。
- 作業後は使用した保護具を十分に清掃してください。
保護具に薬剤が付いていると、次の作業時に薬害に至るおそれがあります
- 作業に使用した作業着は、他の洗濯物に薬剤が付かないよう分けて洗濯してください。
一緒に洗濯してしまうと、薬剤がほかの洗濯物に付き、薬害に至るおそれがあります。
- 散布作業終了後は、ポンプの内部をきれいな水を通して運転してください。
噴霧用ポンプ内部に薬剤が残っていると、故障に至るおそれがあります。
- 付着した薬剤はきれいに取り去ってください。
薬剤が付着していると、サビの発生や故障に至るおそれがあります。
- 本製品の内部に付着した薬剤は洗い流してください。
薬剤が残った状態や付着した状態で保管すると、次回使用時に薬剤が混ざって薬害に至るおそれがあります。また、本体やポンプ、ホース類、ノズルなどが損傷に至るおそれもあります。
- 冬季の場合は、必ずポンプや配管類、ノズル内の水抜きをしてください。
水抜きを行わずに保管すると、凍結により配管部品の破損に至るおそれがあります。

お願い

- 作業後は、散布装置や薬剤タンクなどをしっかりと洗浄してください。
- 作業後に水コシ網と吸水ストレーナの清掃を行ってください。詰まりがあると噴霧性能に影響を与えます。

1) 本製品と薬剤タンクの洗浄

- ① スロットルレバーを戻してエンジンの回転速度を下げ、送風機クラッチレバーを「切」、噴霧用ポンプスイッチを「OFF」にしてください。
- ② 噴霧メインコック・噴霧コックを「停止」にし、エンジンを停止して、キーを抜いてください。
- ③ 送液バルブを「排水」の位置にして、吸水ストレーナの下に容器を置いた後、吸水ストレーナのキャップを外して排水してください。

お願い

- 薬剤タンク内に薬剤が残った場合、1)の③同様に吸水ストレーナの下に容器を置いた後、吸水ストレーナのキャップを外して排水してください。

- ④ 水コシ網と吸水ストレーナを取り外して洗浄し、取り付け直してください。
- ⑤ 送液バルブを「噴霧」の位置にしてください。

⑥ 薬剤タンク内に 100L 以上の清水を入れ、薬剤タンク蓋を閉じてください。

お願い

- 薬剤タンク蓋を開けたまま噴霧用ポンプを駆動させないでください。跳ねたかくはん液が飛び散るおそれがあります。

⑦ キーを差してエンジンを始動し、噴霧用ポンプスイッチを「ON」にし、噴霧メインコック・噴霧コックを「噴霧」にして、ノズルから霧を出してください。

⑧ 薬剤タンクの中身が無くなるまで散布し、エンジンを停止してください。

⑨ 水コシ網と吸水ストレーナを再度取り外して洗浄し、取り付け直してください。

⑩ 本製品を清水で洗浄し、送風機の吸い込み口にゴミが付いている場合は取り除いてください。

⑪ 本製品を保管場所に入れ、キーを抜いてください。

※ 必要に応じてシートをかけてください。

2) 洗浄後

① 薬剤を保管庫に戻し、カギをかけて保管してください。また、農薬使用日誌をつけてください。

② 保護具や使用した容器を洗浄してください。

③ 衣類を脱ぎ、全身を洗ってください。

⚠ 注 意



- **エンジンルーム内の点検は、始業点検で行ってください。**

作業後のマフラーやマフラーカバー、エンジン本体は高温になっているため、接触によりやけどに至るおそれがあります。



- **使用した薬剤が残らないように、きれいに洗浄してください。**

次回、異なる薬剤を使用した場合に、作物が薬害に至るおそれがあります。

8. 保守点検（点検整備方式）

本製品を安全に使用するために、必要な定期点検は下記に基づいて行ってください。

「点検整備方式」は「始業点検」と「定期点検（使用時間ごと）」とに分かれていますが、まとめた様式で記載しています。ご自身で点検できない・点検しても判断できないものは、ご購入の販売店に点検を依頼してください。

⚠ 警 告	
	■ エンジンを運転しないとできない点検、調整、修理は絶対に行わないでください。 機械に巻き込まれ、事故に至るおそれがあります。ご購入の販売店に依頼してください。
	■ 点検を行う場合は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、キーを抜いてバッテリーからマイナスコードを外してから行ってください。 点検中に誤作動させ、事故やけがに至るおそれがあります。

お願い

- エンジンを運転して行う点検整備は、必ずご購入の販売店に依頼してください。
- オイルやクーラントを交換する場合は、中身を受ける容器を置いて、こぼれないようにしてください。

点検項目			点検時間			点検方法
			始業	初回 50 時間	時間ごと	
かじ取り装置	ハンドル	遊び・ゆるみ・がた		○	100	64 ページの「(18) ハンドルの点検」を参照
		操作具合		○	100	左右にハンドルをきる
	ロッドおよびアーム類	取り付けのゆるみ・がた・損傷			100	目視および手で触れて確認
	かじ取り車輪	ホイールアライメント			100	63 ページの「(2) ホイールアライメントの点検」を参照
		左右の回転角度			100	左右にハンドルをきる
	パワーステアリング	ホースの損傷			200	目視にて確認
		油圧作動油の量			200	目視にて確認
		取り付けのゆるみ・がた			100	目視および手で触れて確認
制動装置	ブレーキペダル	遊び	○			63 ページの「(1) ブレーキペダルの点検」を参照
		踏みしろ	○			ペダルを軽く踏み込む
		ブレーキの効き具合	○			低速で走り作動させる
	駐車ブレーキレバー	引きしろの余裕	○			64 ページの「(19) 駐車ブレーキの点検」を参照
		ブレーキのきき具合	○			
		ラチェット部の摩耗・損傷	○			目視にて確認
	ロッドおよびケーブル類	ゆるみ・がた・損傷		○	100	目視および手で触れて確認
	ブレーキディスク	ペダルの遊び及び踏みしろ		○	200	63 ページの「(1) ブレーキペダルの点検」を参照

判定基準	整備方法	実施日									備考
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	
エンジン始動時ハンドル外周で遊び 100mm 以下、上下方向が 3mm 以下か	ご購入の販売店に依頼する										
ハンドル回転時引っかかりがないか	ご購入の販売店に依頼する										
ボルトのゆるみがなく、固定は確実か	ご購入の販売店に依頼する										
トーイン 4~6mm の間か	ご購入の販売店に依頼する										
左右の回転数差 0.5 回転以内か	ご購入の販売店に依頼する										
油漏れ、傷がないか	ご購入の販売店に依頼する										
油面がゲージ内にあるか	57 ページの「(8) 油圧作動油 の点検」を参照										
ボルトのゆるみがないか	ご購入の販売店に依頼する										
5~10mm の間か	ご購入の販売店に依頼する										
ペダル先端のストローク 70mm 以下か	ご購入の販売店に依頼する										
低速で走り停止できるか	ご購入の販売店に依頼する										
通常に引き 5~8 ノッチの間か	ご購入の販売店に依頼する										
坂道で停車できるか	ご購入の販売店に依頼する										
引いた状態で固定できるか	ご購入の販売店に依頼する										
ゆるみ、がたおよび損傷がないか	ご購入の販売店に依頼する										
遊び 5 ~ 10mm ペダル先端のストローク 70mm 以下	ご購入の販売店に依頼する										

点検項目			点検時間			点検方法
			始業	初回 50 時間	時間ごと	
走行装置	タイヤ	空気圧	○			62 ページの「(16) タイヤの点検」を参照
		亀裂・損傷	○			目視にて確認
		ラグの高さ・異常な摩耗	○			62 ページの「(16) タイヤの点検」を参照
		異物の付着	○			目視にて確認
	ホイール	タイヤの状態	○			目視にて確認
		クリップボルトおよびホイールボルトのゆるみ		○	100	目視および手で触れて確認
		リム・ホイールディスクなどの損傷	○			目視にて確認
		フロント・ホイールベアリングのがた			200	ご購入の販売店に依頼
		リヤ・ホイールベアリングのがた			200	ご購入の販売店に依頼
	動力伝達装置	HST	油漏れ	○		
油圧作動油の量				○	200	目視にて確認
サブミッション		油漏れ		○	200	目視にて確認
		油量		○	300	58 ページの「(10) サブミッションオイルの交換」を参照
変速レバー		操作機構のゆるみ・がた・損傷		○	100	目視および手で触れて確認
プロペラシャフト		連結部のゆるみ		○	200	目視および手で触れて確認
		スプライン部のがた		○	200	目視および手で触れて確認
		軸受部のがた		○	200	目視および手で触れて確認
		プロペラシャフトの振れ		○	200	高速で走る
フロントデフ リヤデフ		油漏れ		○		目視にて確認
		油量			200	58 ページの「(9) デフオイルの交換」を参照
V ベルト		ベルトのゆるみ		○	200	59 ページの「(11) V ベルトの点検」を参照
		損傷	○			目視にて確認
原動機		始動装置	かかり具合	○		
	充電装置	充電作用	○			目視にて確認
	バッテリー	液量	○			61 ページの「(15) バッテリーの点検」を参照
		ターミナル部の接続状態	○			61 ページの「(15) バッテリーの点検」を参照
	電気配線	損傷、接続部のゆるみ			200	目視にて確認
	本体	かかり具合・異常音	○			エンジンを始動する
		低速・加速の状態	○			アイドルリング保持・加減速させる
		排気の状態	○			加減速させる
		エアクリーナエレメントの状態	○		100	目視にて確認
	潤滑装置	油漏れ		○	200	目視にて確認
オイルの汚れ・量		○			55 ページの「(3) エンジンオイルの点検」を参照	
燃料装置	燃料漏れ		○	100	目視にて確認	
	燃料フィルタの詰まり		○	100	57 ページの「■ 燃料フィルタの交換」を参照	

判定基準	整備方法	実施日									備考
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	
基準値 ± 10kPa 以内か	62 ページの「(16) タイヤの点検」を参照										
亀裂および損傷がないか	62 ページの「(16) タイヤの点検」を参照										
タイヤ中央ラグ高さ 5mm 以上あるか	62 ページの「(16) タイヤの点検」を参照										
異物が付着していないか	除去する										
タイヤがホイールから外れていないか	ご購入の販売店に依頼する										
増し締めできるか	ご購入の販売店に依頼する										
変形がないか	ご購入の販売店に依頼する										
異常ながたがないか	ご購入の販売店に依頼する										
異常ながたがないか	ご購入の販売店に依頼する										
油が漏れていないか	ご購入の販売店に依頼する										
油面がゲージ内にあるか	57 ページの「(8) 油圧作動油の点検」を参照										
油が漏れていないか	ご購入の販売店に依頼する										
検油口までオイルがあるか	ご購入の販売店に依頼する										
スムーズに操作できるか	ご購入の販売店に依頼する										
ゆるみがないか	ご購入の販売店に依頼する										
異常ながたがないか	ご購入の販売店に依頼する										
異常ながたがないか	ご購入の販売店に依頼する										
走行時に異常振動、異音がないか	ご購入の販売店に依頼する										
油が漏れていないか	ご購入の販売店に依頼する										
検油口までオイルがあるか	ご購入の販売店に依頼する										
たわみ量が多くないか	ご購入の販売店に依頼する										
傷、異常摩耗がないか	ご購入の販売店に依頼する										
始動時異常音がないか	ご購入の販売店に依頼する										
エンジン始動後充電ランプが消えるか	ご購入の販売店に依頼する										
規定線以内か	61 ページの「(15) バッテリの点検」を参照										
手でゆるまないか	61 ページの「(15) バッテリの点検」を参照										
皮膜がはがれていないか	ご購入の販売店に依頼する										
正常にエンジンが始動するか	ご購入の販売店に依頼する										
異常音がしないか	ご購入の販売店に依頼する										
異常と感じる黒煙がでていないか	ご購入の販売店に依頼する										
ゴミの付着が少ないか	54 ページの「(2) エアクリーナエレメントの点検」を参照										
油漏れしていないか	ご購入の販売店に依頼する										
油面がゲージ内にあるか、黒くないか	55 ページの「(3) エンジンオイルの点検」を参照										
燃料配管系統に漏れがないか	ご購入の販売店に依頼する										
燃料フィルタが汚れていないか	57 ページの「■ 燃料フィルタの交換」を参照										

点検項目			点検時間			点検方法
			始業	初回 50 時間	時間ごと	
原動機	冷却装置	水漏れ	○			目視にて確認
		水量	○			54 ページの「(1) 冷却システムの点検」を参照
		ファンベルトのゆるみ・損傷	○			56 ページの「(5) ファンベルトの点検」を参照
	マフラー	取り付けのゆるみ・損傷	○			目視にて確認
計器類	灯火装置	点灯具合・汚れ・損傷	○			目視にて確認
	方向指示器	点灯具合・汚れ・損傷	○			目視にて確認
	警音器 (ホーン)	作用	○			音の確認
	反射装置 (後部反射鏡)	汚れ・損傷	○			目視にて確認
	計器	作用		○		目視にて確認
その他	エキゾーストパイプ	取り付けのゆるみ・損傷		○	200	目視にて確認
		マフラーの機能		○	200	目視および異常音がないか確認
	車枠および車体	ゆるみ・損傷		○	200	目視および手で触れて確認
	その他	前日の作業においての異常箇所	○			—
		シャーシ部の給油状態			100	目視にて確認
散布装置	吸水ストレーナ	ゴミ詰まり、網の損傷	○			目視にて確認
	薬剤タンク水コシ網	ゴミ詰まり、網の損傷	○			目視にて確認
	ノズル	ゴミ詰まり、噴板・ボディの損傷	○			目視にて確認
	送風機	異物の付着、損傷	○			目視にて確認
	噴霧用ポンプ	オイルの汚れ・量		○	100	目視にて確認
		シリンダパイプ内部の損傷			200	締切圧 2.5MPa で運転する
		V ベルトのゆるみ		○	100	59 ページの「噴霧用ポンプ V ベルト」を参照
		V ベルトの損傷	○			目視にて確認
	給水ポンプ	V ベルトのゆるみ		○	100	59 ページの「給水ポンプ用 V ベルト」を参照
		V ベルトの損傷	○			目視にて確認

■ 定期交換部品

項目	交換時期					
	初回 50 時間	100 時間ごと	200 時間ごと	600 時間ごと	1 年ごと	2 年ごと
エンジンオイル	○	○				
エンジンオイルフィルタ	○		○			
サブミッションオイル	○			○		
油圧作動油						○
油圧作動油フィルタ						○
フロントデフオイル				○		
リヤデフオイル				○		
噴霧用ポンプオイル	○	○				
送風機減速機オイル	○			○		
燃料ホース						○
エアクリーナエレメント					○	
燃料フィルタ			○			
ラジエータホース						○
ラジエータ液						○

判定基準	整備方法	実施日									備考
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	
冷却水が漏れていないか	ご購入の販売店に依頼する										
適正な量になっているか	54 ページの「(1) 冷却 系統の点検」を参照										
たわみ量が多くないか	ご購入の販売店に依頼する										
排気漏れがないか	ご購入の販売店に依頼する										
点灯するか、汚れ、損傷がないか	ご購入の販売店に依頼する										
点灯するか、汚れ、損傷がないか	ご購入の販売店に依頼する										
音がでるか	ご購入の販売店に依頼する										
汚れ、損傷はないか	ご購入の販売店に依頼する										
作動するか、ランプが点灯するか	ご購入の販売店に依頼する										
排気ガスが漏れていないか	ご購入の販売店に依頼する										
黒煙は少ないか、異常音はないか	ご購入の販売店に依頼する										
外観上異常と感じる部分がないか	ご購入の販売店に依頼する										
修理が終わっているか	ご購入の販売店に依頼する										
適量給油されているか	ご購入の販売店に依頼する										
ゴミ詰まり、網の損傷	清掃・交換										
ゴミ詰まり、網の損傷	清掃・交換										
ゴミ詰まり、噴板・ボディの損傷	清掃・交換										
異物の付着、損傷	清掃またはご購入の販売店に依頼する										
油面がゲージ内にあるか、黒くないか	61 ページの「(14) 噴霧用ポンプの点検」を参照										
圧力が上がるか、異常音がしないか	ご購入の販売店に依頼する										
たわみ量が多くないか	ご購入の販売店に依頼する										
傷、異常摩耗がないか	ご購入の販売店に依頼する										
たわみ量が多くないか	ご購入の販売店に依頼する										
傷、異常摩耗がないか	ご購入の販売店に依頼する										

交換方法
55 ページの「(3) エンジンオイルの点検」を参照
55 ページの「(4) オイルフィルタカートリッジの交換」を参照
58 ページの「(10) サブミッションオイルの交換」を参照
57 ページの「(8) 油圧作動油の点検」を参照
57 ページの「(8) 油圧作動油の点検」を参照
58 ページの「(9) デフオイルの交換」を参照
58 ページの「(9) デフオイルの交換」を参照
61 ページの「(14) 噴霧用ポンプの点検」を参照
60 ページの「(13) 送風機減速機オイルの交換」を参照
ご購入の販売店に依頼する
54 ページの「(2) エアクリーナエレメントの点検」を参照
57 ページの「■ 燃料フィルタの交換」を参照
ご購入の販売店に依頼する
54 ページの「(1) 冷却系統の点検」を参照

9. 点検・整備

お願い

- 本製品を安全にご使用いただき、また長持ちさせるために定期的に点検を行ってください。
- 安全にご使用いただくために年に 1 回、ご購入の販売店にて点検を行ってください。
- 点検で不具合がある、不調の場合は整備を行い正常な状態になってから使用してください。
- エンジンを運転して行う点検整備は、必ずご購入の販売店に依頼してください。
- 部品を交換する場合は、必ずメーカー指定の純正部品をご使用ください。
- 整備に必要な工具などはお客様が準備をお願いします。

警告

	■ エンジンを運転しないとできない点検、調整、修理は絶対に行わないでください。 機械に巻き込まれ、事故に至るおそれがあります。ご購入の販売店に依頼してください。
	■ 点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。 冷える前に行くと、やけどに至るおそれがあります。
	■ 取扱説明書に記載されていない整備・調整は、ご購入の販売店に依頼してください。 正しい整備ができず、事故に至るおそれがあります。 ■ 点検、整備などで外したカバーは、全て正しく取り付けてください。 正しく取り付いていないと、事故に至るおそれがあります。

■ 定期点検

46 ページの「8. 保守点検(点検整備方式)」を目安に、定期的に点検を実施してください。

お願い

- ご自身での点検に不安のある方は、ご購入の販売店にご相談ください。

■ 給油一覧表

給油項目		使用油脂類	容量 (L)	初期交換時間	定期交換および注油
燃料		自動車用無鉛レギュラーガソリン	32.5	—	—
エンジンオイル		API SL 級以上 SAE10W-30	5.0 5.5(※ 1)	50 時間	100 時間
サブミッションオイル		SAE75W-80 GL-4 ※ 3	1.1		600 時間
フロントデフオイル		ギヤオイル SAE90	1.3		
リヤデフオイル			1.3		
送風機ミッション			0.4		
油圧作動油タンク (オイルタンク)		油圧作動油 ISO VG46	19	—	2 年ごと
噴霧用ポンプ クランクケース		API SH 級以上 SAE10W-30	1.15	50 時間	100 時間
噴霧用ポンプ シリンダ元部			3~5 滴	—	100 時間または 1 年ごと (※ 2)
グリス 注油	ブレーキペダル軸	シャーシグリス	適量	20 時間	20 時間
	フロント・リヤアクスル				
	攪拌				
	プロペラシャフト				
ラジエータ		ロングライフクーラント	6.3	—	2 年ごと

※ 1 オイルフィルタカートリッジ交換時

※ 2 100 時間または 1 年の早い方で注油してください。

※ 3 トラクタ用共通潤滑油 (湿式ブレーキ対応オイル)

■ 消耗部品リスト

お願い

- 部品を交換する場合は、必ずメーカー指定の純正部品をご使用ください。
- Vベルトは、規格外のサイズや種類を使用すると、早期に磨耗や破断に至る場合があります。

使用部位	名称		部品番号	規格
エンジン	オイルフィルタ		408621	クボタ 16271-32093
	エアクリーナエレメント		402683	クボタ T1270-1632
	ファンベルト		428147	クボタ 1G571-97010
	ヒューズ	ヒューズ	469147	ミニ 5A クボタ T1060-30430
		ヒューズ	469148	ミニ 10A クボタ T1060-30440
		ヒューズ	469149	ミニ 15A クボタ T1060-30450
		ヒューズ	469150	ミニ 30A クボタ T1060-30470
燃料配管	フィルタアッシ (燃料フィルタ)		168430	クボタ 12581-43012
電装品	ヒューズ ボックス	ヒューズ	641496	30A
		ヒューズ	185012	15A
		ヒューズ	641262	10A
		ヒューズ	191738	5A
	スローブローヒューズ		695275	40A
	スローブローヒューズ		695276	70A
	計器パネル (電球)	水温警告灯	595551	メータ用ウエッジ球 12V 3.4W T10
		オイルプレッシャ		
		チャージランプ		
		エンジン異常警告		
		方向指示表示灯		
		給水ポンプランプ		
		ブレーキ警告灯		
		ブレーキ点検灯		
	灯火器 (電球)	ヘッドライトバルブ	600197	12V 45/45W RP35 P30d-10.3
		方向指示器前面	408255	ウインカ用口金球 12V21/5WS25BAY15D
		方向指示器後面	407568	ウインカ用口金球 12V21WS25BA15S
		後退灯	407568	ウインカ用口金球 12V21WS25BA15S
		ストップランプ/尾灯	408255	ウインカ用口金球 12V21/5WS25BAY15D
		方向指示器側面	407569	ウインカ用ウエッジ I 球 12V18W(W16W)T15
噴霧用ポンプ	シリンダパイプ内	吸水弁	100611	
		ピストンパッキンマトメ	091259	
		吸水弁カラー	027796	
		吸水弁ストッパ	100614	
		バネ座金	015850	M7
		ナイロンナット	115598	M7
	シリンダ元金具	シールパッキン	100015	
	シリンダパイプ	シリンダパイプ	100615	
		Oリング	026969	
	シリンダ先金具	ゴウセイジュシ マルパッキン	100225	27.5X36X0.8
		吐出弁	091622	Bブロック
	Vベルト		699823	LB43 スーパー AGX
給水ポンプ	Vベルト		171990	LB53
走行用	Vベルト		699676	RCLB37
攪拌	Vベルト		546039	LA26
ブレーキ	ディスク		682193	W5833-5
薬剤タンク蓋	パッキン		172197	
吸水ストレーナ	アミ		865824	ARAG3142002.030
	Oリング		600196	ARAG 314000.050
	Oリング		696987	ARAG G11023
ノズル	パッキン		173356	
	ノズルイタ		144367	Φ 1.2
	ノズルイタ		171031	Φ 1.6
薬剤タンク保護シール	クリアシート		883644	60 × 330 × T0.1 クリア

■ 整備

下記の作業手順に従って点検を実施してください。

(1) 冷却システムの点検

⚠ 注 意	
⚠	■ エンジン運転中や停止直後は、ラジエータキャップの取り外しを絶対に行わないでください。 高温状態のラジエータに触れると、やけどに至るおそれがあります。
⚠	■ ラジエータキャップを取り外すときは、エンジンが冷えてから布などを被せて取り外してください。 熱湯が噴き出し、やけどに至るおそれがあります。

ラジエータキャップを取り外し、冷却水が入口いっぱいまで入っているか確認してください。入口まで入っていることを確認したら、冷却水がリザーブタンクの H と L の間にある事を確認してください。

■ ロングライフクーラントについて

製品出荷時、ロングライフクーラントが入っており、－20℃まで凍結しないようになっています。外気温に合わせて濃度を調節してください。

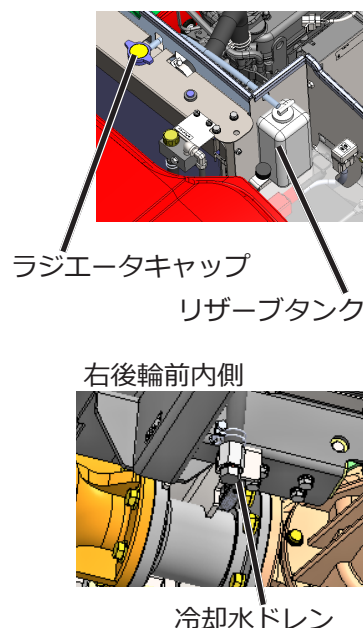
外気温	濃度
－10℃以上	30%
－10～－25℃	40%

■ 冷却水が不足している場合

冷却水の量はリザーブタンク内の量で点検します。FULL から LOW の範囲であれば正常です。冷却水が LOW 以下の場合はリザーブタンク上部のフタを外して、FULL のレベルまでロングライフクーラントを補給してください。補給後はフタを押して確実に組付けてください。

■ 冷却水の交換

- ① 冷却水ドレンを開け、冷却水を排水してください。
- ② ラジエータキャップを取り外し水道水を入れて、内部から錆が出なくなるまで洗浄してください。
※ ラジエータ内部の洗浄時は、ラジエータ洗浄剤を混合した水をラジエータに入れて、15 分間以上エンジンを運転してから交換すると効果的です。
- ③ ラジエータドレンを締めてください。
- ③ ラジエータ上部の入口から冷却水を入れてください。
※ 必ず新しいロングライフクーラントを入れてください。
- ④ ラジエータキャップを確実に締め付けてください。



(2) エアクリーナエレメントの点検

お願い

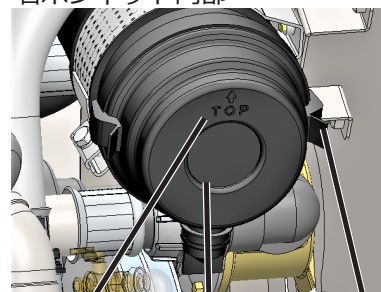
- エアクリーナエレメントは、必ず運転前に取り出して清掃してください。フィルタが詰まるとエンジン性能に影響を与えます。
- 清掃はエレメントの内側からエアーを吹きつける (0.5MPa 以下)、または軽く振ってゴミを取り除いてください。

■ エアクリーナエレメントの交換

エアクリーナエレメントは 1 年に一度交換してください。

- ① クリップを外し、カップを取り外してください。
- ② エアクリーナエレメントを取り外し、新しいものと交換してください。
- ③ カップの「TOP」部分が、上側になるように取り付けてください。

右ボンネット内部



「TOP」 エアクリーナ クリップ

(3) エンジンオイルの点検

エンジンオイルの点検は、エンジンオイルの点検はエンジン始動前、または停止後 5 分以上経過してから、平坦な場所で行ってください。

■ エンジンオイルの確認

- ① オイルゲージを抜き、きれいな布で拭いてください。
- ② オイルゲージを元に戻し、再び抜いてオイルが不足していないか確認してください。
※ オイルゲージ上の 2 点の穴の間にあるのが適量です。不足している場合は、注油口からエンジンオイルを補給してください(エンジンオイルについては、52 ページの「■ 給油一覧表」を参照してください)。

■ エンジンオイルの交換

初回 50 時間、以後 100 時間ごと、または汚れや変色の著しい場合は、新しいエンジンオイルと交換してください。

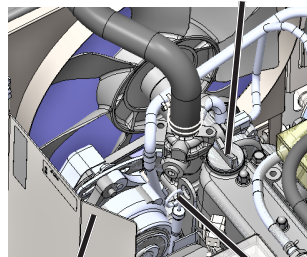
- ① エンジンオイルを受ける容器を準備し、エンジンドレンの下に置いてください。
- ② エンジンドレンを開け、エンジンオイルを完全に抜き取ってください。
※ 抜き取り時は注油口を開けてください。
- ③ 完全に抜き取れたらエンジンドレンを締め、注油口より新しいエンジンオイルを給油してください(エンジンオイルについては、52 ページの「■ 給油一覧表」を参照してください)。

「オイルの種類」 SAE10W-30 API SL 級以上

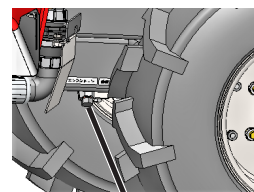
「オイル量」 5.0L
5.5L(オイルフィルタカートリッジ交換時)

「交換時期」 初回交換 50 時間
定期交換 100 時間毎

エンジン左側 注油口



導風板 オイルゲージ
右後輪内側



エンジンドレン

⚠ 注 意



- エンジンオイルを抜く際は、直接手で触れないように十分気を付けてください。
直接手で触れると、やけどに至るおそれがあります。

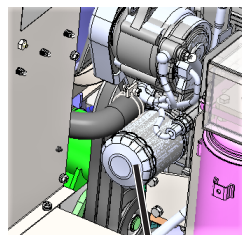
(4) オイルフィルタカートリッジの交換

お願い

- 200 時間ごと(初回は 50 時間)に、新しいオイルフィルタに交換してください。
- フィルタレンチは、市販のバンド式のものを使用してください。

- ① 55 ページの「■ エンジンオイルの交換」の要領で、エンジンオイルを抜き取ってください。
- ② オイルフィルタはカートリッジ式であるため、フィルタレンチを準備してください。
- ③ 導風板を取り外してください。
- ④ フィルタレンチでオイルフィルタカートリッジを取り外し、新品の物と交換してください。新品のオイルフィルタの O リングには薄くオイルを塗布してください。
- ⑤ エンジンオイルを給油し、エンジンを始動させ、アイドリング状態で 5 分程度運転してください。
- ⑥ 油漏れがないか点検してください。
- ⑦ エンジンを停止し、10~20 分経過した後に 55 ページの「■ エンジンオイルの確認」の要領でオイルレベルを点検してください。
※ 不足している場合は補給してください。また、入れすぎた場合はエンジンドレンよりオイルを抜いてください。
- ⑧ 外した導風板を取り付けてください。

エンジン左側



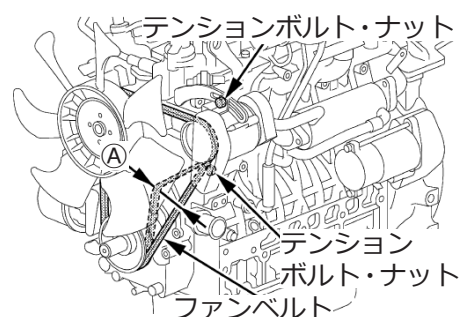
オイルフィルタカートリッジ

(5) ファンベルトの点検

ベルト中間部「A」の部分、約 100N の力で押した時のたわみ量（正常は 10mm）を点検してください。また、亀裂や剥がれがないかも点検してください。

お願い

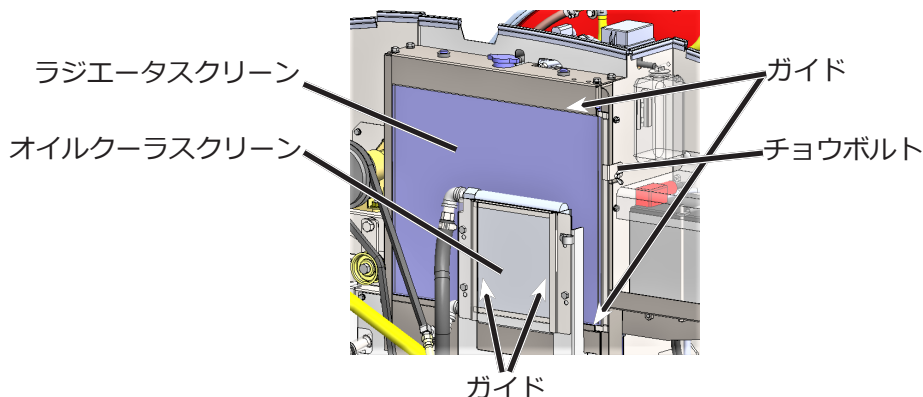
- ベルトの張りがゆるいと、オーバーヒートや充電不足に至るおそれがあります。ゆるみや亀裂、剥がれなどがあつた場合は、ご購入の販売店へ整備を依頼してください。



(6) スクリーンの清掃

ラジエータとオイルクーラへのゴミ付着防止スクリーンがそれぞれ付いていますのでエンジン始動前にスクリーンを引き出して、表面にゴミが付着していないか確認してください。

- ① チョウボルトを緩め、スクリーンを本製品から引き出してください。
※ラジエータは左から、オイルクーラは上から引き出してください。
- ② スクリーンにゴミが付着している場合は、取り除いてください。
- ③ スクリーンをラジエータの上側と下側にあるガイドに、差し込みながら取り付けてください。



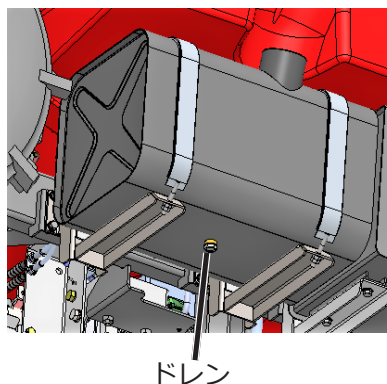
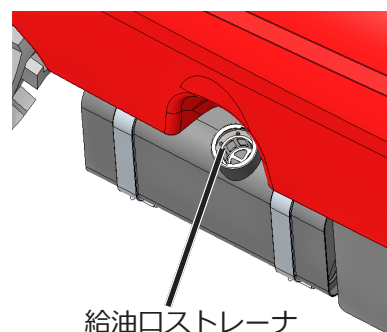
(7) 燃料系統の点検

■ 燃料タンクの清掃

お願い

- 100 時間ごとに、燃料タンク内の水やゴミを抜き取ってください。

- ① 燃料キャップを外し、給油口ストレーナに付着したゴミを取り除いてください。
- ② 燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。
- ③ 燃料タンク下部のドレンプラグを外し、燃料タンク内の水やゴミを抜き取ってください。
- ④ ドレンプラグを元に戻し、燃料を給油して燃料キャップを確実に締めてください（給油については、20 ページの「(2) 給油」を参照してください）。



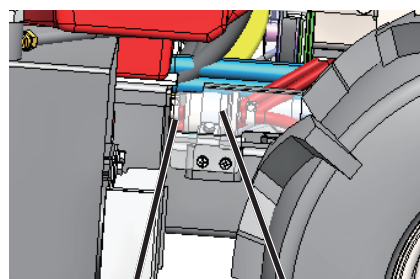
■ 燃料フィルタの交換

お願い

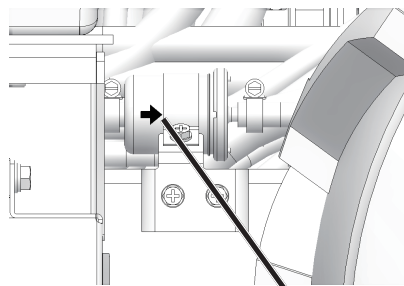
■ 200 時間ごとに、燃料フィルタの交換をしてください。

- ① 燃料キャップを外し、燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。
- ② 燃料フィルタをホースから取り外し、新品の物と交換してください。
- ③ ゴミやほこりなどが付着しないように、正しく組み付けてください。
※燃料フィルタ表面の矢印が本機後方になるように組み付けてください
- ④ 燃料を給油して燃料キャップを確実に締めてください(給油については、**20 ページの「(2) 給油」**を参照してください)。

左後輪前内側



ホース 燃料フィルタ



矢印

(8) 油圧作動油の点検

お願い

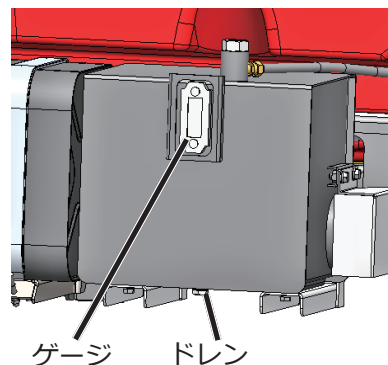
■ 2 年ごとにホース内のオイルを抜き取り、交換してください。

お願い

■ 2 年ごとに、新しいオイルフィルタに交換してください。

オイルタンク側面のゲージで、油量が H と L との間になっていることを確認してください。

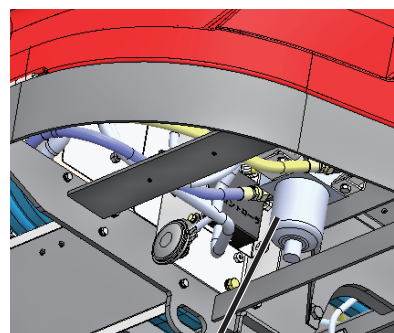
※ 不足している場合は給油してください(油圧作動油については、**52 ページの「■ 給油一覧表」**を参照してください)。また、入れすぎてしまった場合はドレンより抜いてください。



ゲージ ドレン



左前輪前



オイルフィルタ

(9) デフオイルの交換

お願い

- 600 時間ごと（初回は 50 時間）に、新しいオイルと交換してください。

- ① デフオイルを受ける容器を準備し、デフのドレンプラグの下に置いてください。
- ② 注油口とデフのドレンプラグを取り外し、デフオイルを抜き取ってください。
- ③ ドレンプラグを元に戻し、注油口より新しいデフオイルを給油してください。

「オイルの種類」 ギヤオイル SAE90

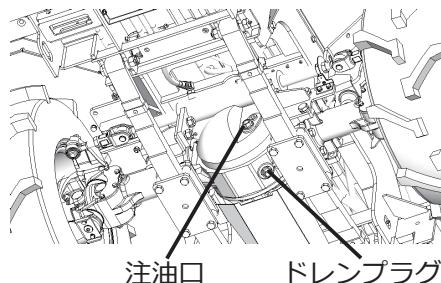
「オイル量」 1.3L

「交換時期」 初回交換 50 時間
定期交換 600 時間毎

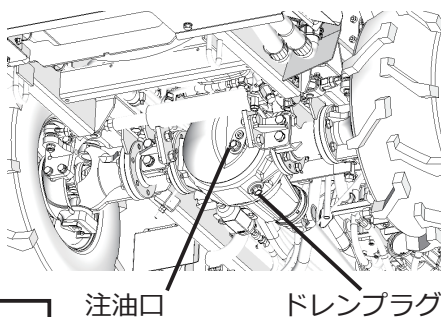
- ④ デフオイル給油後、注油口のねじ穴下面に油面があることを確認してください。

※ 不足している場合は、注油口からデフオイルがこぼれてくるまで給油してください。

【フロントデフ】



【リヤデフ】



(10) サブミッションオイルの交換

お願い

- 600 時間ごと（初回は 50 時間）に、新しいオイルに交換してください。

■ サブミッションオイルの交換

- ① ミッションオイルを受ける容器を準備し、サブミッションドレンプラグの下に置いてください。

- ② サブミッションドレンプラグを取り外し、ミッションオイルを抜き取ってください。

※ 抜き取り時は検油口を開けてください。

- ③ サブミッションドレンプラグを元に戻し、サブミッション注油口より新しいミッションオイルを給油してください。

「オイルの種類」 SAE75W-80 GL-4

「オイル量」 1.1L

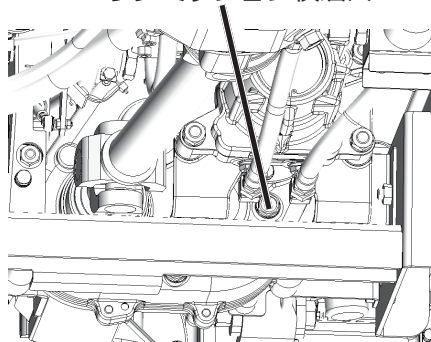
「交換時期」 初回交換 50 時間
定期交換 600 時間毎

- ④ ミッションオイル給油後、検油口のねじ穴下面に油面があることを確認してください。

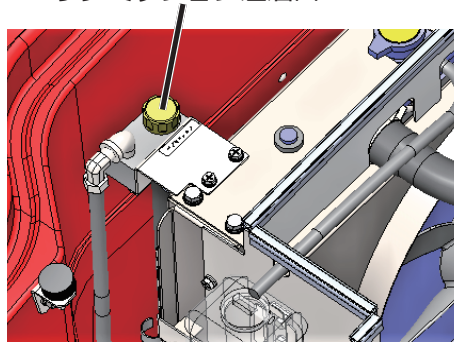
※ 不足している場合は、検油口からミッションオイルがこぼれてくるまで給油してください。

サブミッション検油口

サブミッション注油口

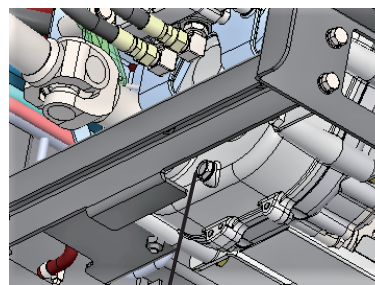


車体中央下部



ラジエタ上部

車体中央下部



サブミッションドレンプラグ

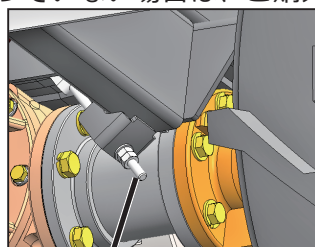
(11) Vベルトの点検

駆動部位	ベルトの種類	ベルト中央部を押す力 (N)	たわみ (mm)
エンジンファン	9.5 × 950La	100	10
走行用Vベルト	RCLB37	※下記による	-
噴霧用ポンプVベルト	LB43 スーパー AGX	15~25	5
給水ポンプ用Vベルト	LB53	15~25	7
カクハン用Vベルト	LA26	15~25	3

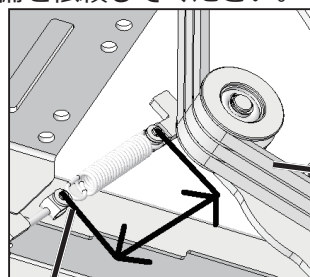
■ 走行用 V ベルトの点検

Vベルトの張力を調整する時は、走行用テンショナー調整ねじ先端の引張コイルバネの距離（バネ取付のクレビスピン間）距離が 170 mm になっている事を確認してください。

※ この範囲になっていない場合は、ご購入の販売店へ整備を依頼してください。



走行用テンショナー
調整ねじ



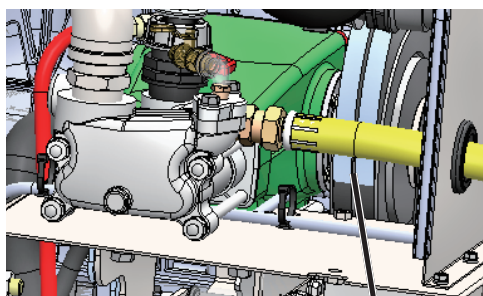
クレビスピン～クレビスピン距離

走行用 V ベルト

■ 噴霧用ポンプ V ベルトの点検

ベルト中間部を約 15~25N の力で押したときのベルトのたわみ量が、5mm になっていることを確認してください。

※ たわみ量が多い場合は、ご購入の販売店へ整備を依頼してください。



噴霧用ポンプ V ベルト



ベルトテンション
ゲージ

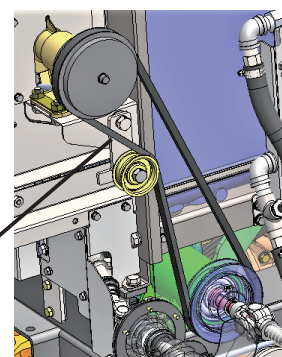
【噴霧用ポンプVベルトの点検】

■ 給水ポンプ用 V ベルトの点検

ベルト中間部を約 15~25N の力で押したときのベルトのたわみ量が、7mm になっていることを確認してください。

※ たわみ量が多い場合は、ご購入の販売店へ整備を依頼してください。

給水ポンプ用 V ベルト

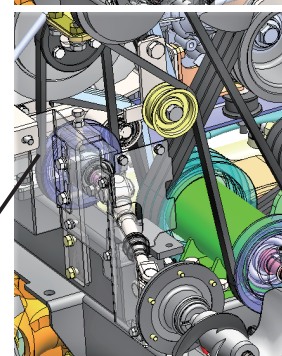


■ カクハン用 V ベルトの点検

ベルト中間部を約 15~25N の力で押したときのベルトのたわみ量が、3mm になっていることを確認してください。

※ たわみ量が多い場合は、ご購入の販売店へ整備を依頼してください。

カクハン用 V ベルト



(12) グリスアップ

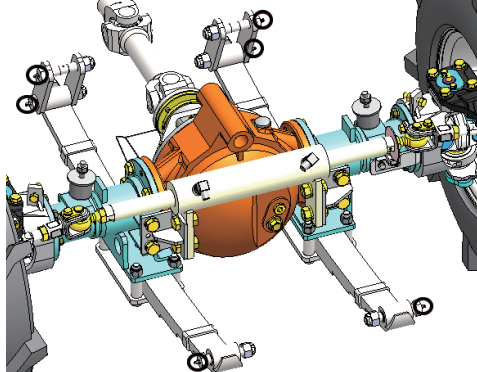
ブレーキペダル軸、攪拌、フロント・リアアクスル、プロペラシャフトにグリスアップしてください。

「オイルの種類」 シャーシグリース

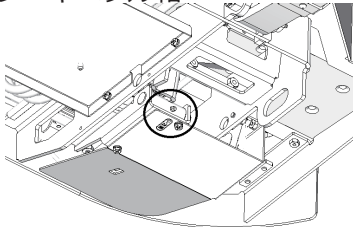
「オイルの量」 適量

「交換時期」 定期注油 20 時間毎

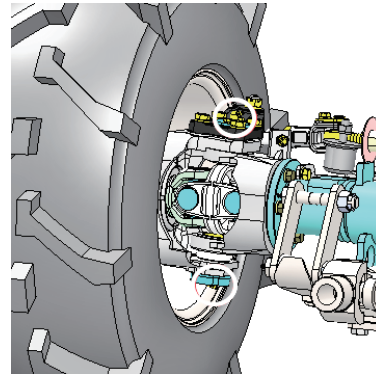
フロントアクスル シャックルピン部 6ヶ所



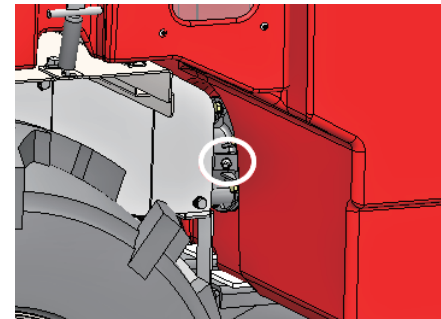
ブレーキペダル軸



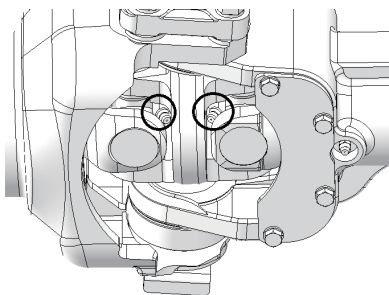
フロント・リアアクスル キングピン部 8ヶ所



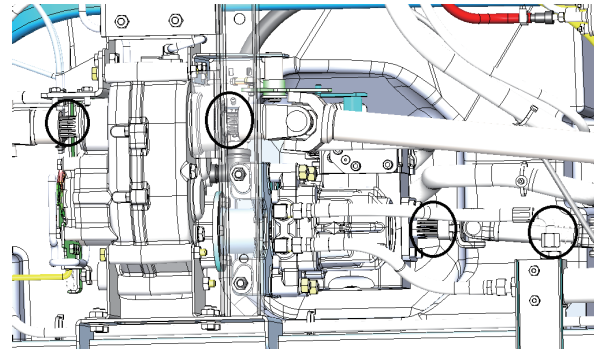
攪拌



フロント・リアアクスル ダブルカルダン部 8ヶ所



サブミッション 2ヶ所 HST2 ヶ所



(13) 送風機減速機オイルの交換

お知らせ

- 送風機減速機オイルの交換は、送風機部の分解が必要になりますので、ご購入の販売店へ整備を依頼してください。

お願い

- 600 時間ごと（初回は 50 時間）に、新しいオイルに交換してください。

- ① 送風機減速機オイルを受ける容器を準備し、検油口とドレンプラグの下に置いてください。
- ② 検油口およびドレンプラグを取り外し、送風機減速機オイルを抜いてください。
- ③ ドレンプラグを元に戻し、注油口より新しい送風機減速機オイルを給油してください。

「オイルの種類」 ギヤオイル SAE90

「オイル量」 0.4L

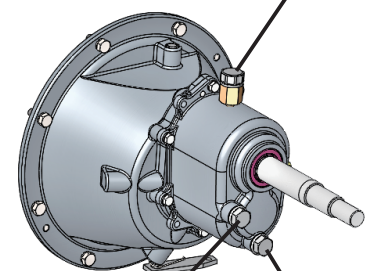
「交換時期」 初回交換 50 時間

定期交換 600 時間毎

※ 検油口からオイルが出るまで給油してください。

送風機内部

注油口



検油口

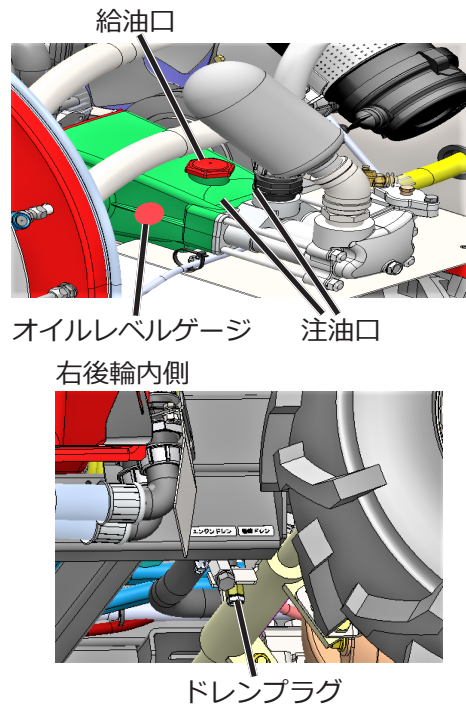
ドレンプラグ

(14) 噴霧用ポンプの点検

■ クランクケースのオイル交換

お願い

- 100 時間ごと（初回は 50 時間）に、クランクケースのオイルを交換してください。
 - ① クランクケース内のオイルを受ける容器を準備し、ドレンプラグの下に置いてください。
 - ② 給油口とドレンプラグを取り外し、オイルを抜き取ってください。
 - ③ ドレンプラグを元に戻し、給油口より新しいオイルを給油してください（噴霧ポンプ用のオイルについては、52 ページの「■ 給油一覧表」を参照してください）。
 - ④ オイルの給油後、オイルゲージの上限線と下現線の間に、油面があることを確認してください。
- ※ 範囲外の場合は、油量を調整してください。

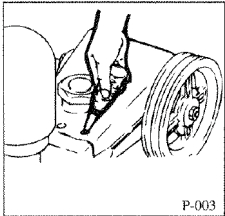


■ シリンダ元の注油口への注油

お願い

- 100 時間ごとに、シリンダ元の注油口へ注油してください。
- ※ 100 時間に満たなくても、1 年に一度は注油してください。

クランクケースのシリンダ元の給油口（3 つ穴）に、油差しでエンジンオイルを 3~5 滴注油してください。



(15) バッテリーの点検

⚠ 危 険	
⚠	■ バッテリーの電解液が、バッテリーの側面に表示されている限界 (LOWER LEVEL) 以下の状態で使用または充電をしないでください。 バッテリーの破裂（爆発）や火災に至ります。また、バッテリーの劣化を促進させます。 ■ バッテリー端子の点検時は、ショートさせないように注意してください。 バッテリーの破裂（爆発）や火災に至ります。

⚠ 注 意	
⚠	■ バッテリーコードを外す場合は、必ずマイナス側を先に外してください。 プラス側から外すとショートさせてしまい、火花の発生に至るおそれがあります。 ■ バッテリー液は腐食性が強いので、こぼさないように注意してください。手や衣類、金属部に付着した場合は、すぐに水でよく洗ってください。 そのまま放置するとやけどに至るおそれがあります。また、衣類の損傷や金属部の錆の発生に至るおそれもあります。

お知らせ

- バッテリー上部にキャップのないものは、メンテナンスフリーバッテリーです。
- バッテリー上部にキャップが付いてるのが、メンテナンスが必要な従来型のバッテリーです。

1) バッテリーの取り付け・取り外し

■ バッテリーを取り外す場合

最初にバッテリーコード(マイナス側)を取り外し、次にバッテリーコード(プラス側)を取り外してください。

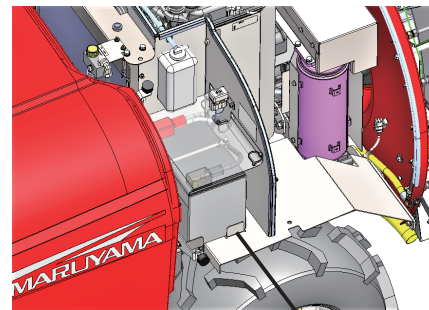
■ バッテリーを取り付ける場合

最初にバッテリーコード(プラス側)を取り付けてください。マイナス端子を取り付けた状態でプラス端子と車体の金属部に工具が触れるとショートします。バッテリーを交換する場合には、指定した型式のバッテリー(105D26R)を使用してください。

2) バッテリーの点検

■ メンテナンスフリーバッテリー

- ① 充電インジケータを垂直に見てください。
- ② 充電インジケータの色が透明または緑色のときは、軽くたたいて中の気泡を除き、もう一度確認してください。
- ③ 下記表のインジケータの色により処置してください。



バッテリー

色	充電状態	処置
緑	正常	使用可能
黒	不足	補充電が必要
透明	液が不足	始動できないときは交換

お知らせ

- メンテナンスフリーバッテリーは、蒸留水を補充する必要がありません。

■ 従来型バッテリー

① バッテリー液の点検

バッテリー液が UPPER—LOWER の間にあるか点検してください。

■ LOWER 以下の場合

- a) キャップを開け、蒸留水を UPPER まで補給してください。
- b) 補給後はキャップを確実に締め付けてください。

② バッテリー端子部の点検

バッテリー端子部を点検し、ゆるんでいる場合は、確実に締め付けてください。また、白い粉が付いている場合は、温湯で清掃し、締め付けてからグリスを少量塗布してください。

(16) タイヤの点検

⚠ 注 意



- ホイルナットがゆるんだ状態で、本製品を運転しないでください。
ゆるんだまま走行すると、事故や故障に至るおそれがあります。

1) タイヤの点検

各車輪に摩耗、亀裂、空気圧に過不足などの異常がないか点検してください。

■ 摩耗、亀裂が大きい場合

新品タイヤと交換してください。タイヤ中央のラグ高さが 5mm 以下になりましたら交換が必要です。



■ 空気圧が過不足の場合

バルブより適正空気圧に調整してください。

※ 標準空気圧：前輪 280kPa 後輪 375kPa

お願い

- タイヤの空気圧は、適正な空気圧に調整してください。タイヤの空気圧が高すぎると、タイヤが偏摩耗しやすくなります。空気圧が低すぎてもパンクを起こしやすくなり、燃費も悪くなります。



バルブ

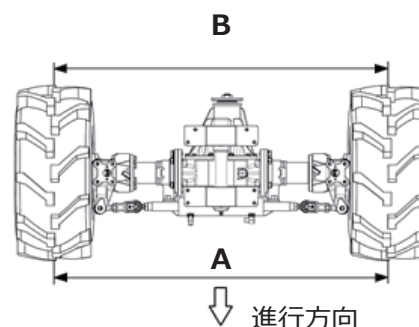
2) ホイールアライメントの点検

前輪の前幅 A と後幅 B を測り、

$$B - A = 4 \sim 6 \text{ mm}$$

になっているか点検してください。

※ 範囲外の場合は、ご購入の販売店に調整を依頼してください。



⚠ 注意



■ 範囲外の場合は調整してください。

ハンドルをとられたり、異常に振れたりして事故に至るおそれがあります。

(17) ブレーキペダルの点検

お願い

- ブレーキ、ハンドルは運転上重要な部品です。異常を感じた場合は、ご購入の販売店に整備を依頼してください。

1) ブレーキペダルの点検

ペダルの遊びは、ペダル踏板先端で 5~10mm です。

※ 範囲外の場合はご購入の販売店に調整を依頼してください。

ブレーキペダル : 5~10 mm



⚠ 注意



■ 調整不良のまま本製品を運転しないでください。

タイヤがロックぎみで走行するとブレーキの摩耗を早め、ブレーキ内部の破損に至るおそれがあります。

(18) ハンドルの点検

- ① エンジンを始動し、エンジン回転速度を低速回転にしてください。
- ② ハンドルを左右に軽く回し、タイヤが動くまでの範囲(遊び)をハンドルの円周方向の移動量で測定してください。
※ 100mm 程度が適正です。
- ③ ハンドルを回して途中で引っかかりがないかを確認してください。
※ 異常があった場合は、ご購入の販売店に連絡してください。

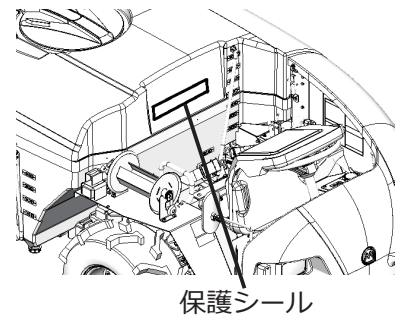
(19) 駐車ブレーキの点検

駐車ブレーキレバーは操作力 100N のとき、5~8 ノッチが標準です。ノッチが確実につめにかかっているかを確認してください。

(20) 薬剤タンク保護シールの点検

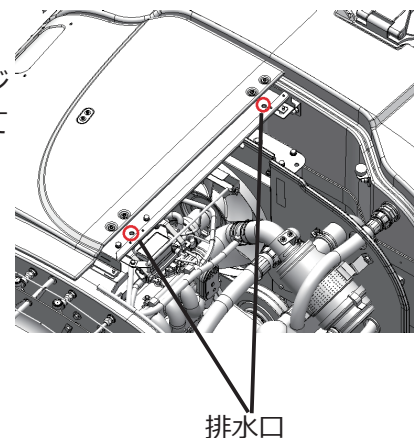
座席と薬剤タンクが接触した場合に、薬剤タンクを保護するために保護シールが貼ってあります。著しく損傷している場合は貼り変えてください。

保護シール：部品番号 883644



(21) ボンネット排水口の点検

ボンネットステーの排水口が詰まると、ボンネットステーからエンジンルーム内に水が溢れてしまいます。詰まっている場合は清掃をしてください。



10. 長期保管

■ 本製品を長期間（3 カ月以上）保管する場合は、下記の手順で整備をしてください。

本製品の汚れを落とし、46 ページの「8. 保守点検（点検整備方式）」を行ってから保管してください。なお、保守点検ができない場合は、ご購入の販売店または弊社サポートセンターにご相談ください。また、損傷箇所がある場合は、全て当社指定の純正部品を使用して、必ず修理してから保管してください。

⚠ 注 意

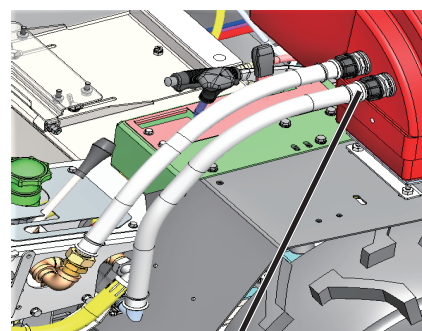


- 長期保管する場合は、必ずポンプや配管類、ノズル内の水抜きを行ってください。
水抜きを行わずに保管すると、凍結によりポンプや配管部品の破損に至るおそれがあります。

お願い

- 整備に必要な工具などはお客様が準備をお願いします。

- ① 43 ページの「(2) 散布作業後」の要領で、清掃運転と水抜きを行ってください。
- ② エンジン回転速度を 1500rpm 以下の状態で、噴霧用ポンプを空運転（運転は **30 秒以内**）させ、噴霧メインコック・噴霧コックを開閉して、ホース内の薬液を完全に排出してください。
- ③ 噴霧メインコック・噴霧コックは「噴霧」の位置にしてください。
- ④ 噴霧用ポンプを停止し、調圧ダイヤル部の配管を取り外して調圧ダイヤルとホース内の排水を行ってください。

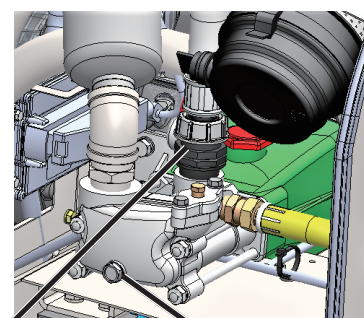


調圧ダイヤル部の配管

お願い

- 排水後は調圧ダイヤル部の配管を取り付けてください。

- ⑤ 噴霧用ポンプの水抜きドレンプラグをスパナ 19mm で外し、噴霧用ポンプの空運転を 5~10 秒程度行って、中の水を排出してください。
- ⑥ 噴霧用ポンプの吸水ホースを外し、残った水を排出してください。



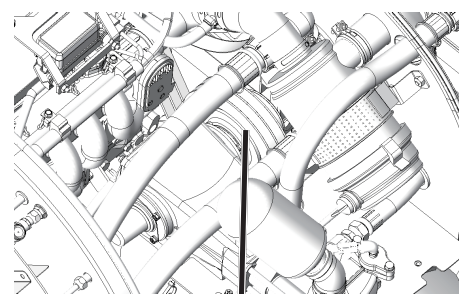
吸水ホース

ドレンプラグ

お願い

- 噴霧用ポンプ用電磁クラッチに、水がかからないように注意してください。

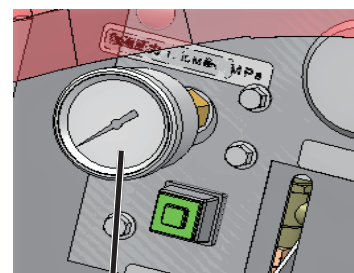
- ⑦ 送液バルブを「排水」にし、薬剤タンクと配管内に残った中身を排出してください。
- ⑧ スパナ 19mm を使用して圧力計を取り外し、配管内の水を排出してください。



噴霧用ポンプ用電磁クラッチ

お願い

- 取り外した圧力計は、凍結のおそれがない場所で保管してください。
- 圧力計を取り外した後に本製品を使用する場合は、圧力計をスパナでしっかり締め付けてください。取り付け忘れると、水が噴き出します。



圧力計

- ⑨ 各部のボルトやナットのゆるみを点検し、ゆるんでいれば増し締めしてください。
- ⑩ スロットルレバーを、必ず「エンジン始動位置」にしてください。
- ⑪ 副変速レバーを必ず「低速」にしてください。
- ⑫ 本製品の外部を清掃し、ワックスなどを塗布してください。
※ 塗装のはがれた部分は、サンドペーパーなどで錆を落とし、塗料を塗ってください。
- ⑬ 湿気のない場所を選んで、本製品を格納してください。
- ⑭ タイヤの空気圧を少し高めに調整し、直接地面と接しないように板などの上で保管してください。

お願い

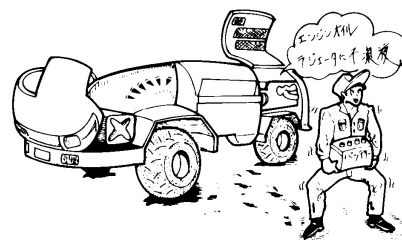
- バッテリーを取り外した後に本製品を使用する場合は、バッテリーを取り付けてから使用してください。

- ⑮ バッテリーを本製品から取り外し、湿気のない冷暗所に保管してください。

お願い

- バッテリーは1カ月に一度充電してください。

- ⑯ 1年程度の保管であれば、燃料タンクからガソリンを排出する必要はありません。
1年以上保管する場合は、燃料タンクからガソリンを排出してください。



⚠ 危険



- 本製品にシートをかけるときは、本製品が冷えてから行ってください。
マフラーや排気口は高温になるためかけたシートが発火し、火災に至ります。

⚠ 注意



- 本製品にシートをかけるときは、本製品が乾いてから行ってください。
濡れた状態のままでは腐食が発生し、故障に至るおそれがあります。

- ⑰ エンジンが冷えたら、シートなどでカバーをかけてください。



11. 故障と対策

☆印については、ご購入の販売店に調整・修理を依頼してください。

(1) エンジン関係

故障内容	故障原因	対策
キースイッチを回してもスタータが回らない	ブレーキペダルを踏み込んでいない	ブレーキペダルを踏み込んでから、キースイッチを「始動」にする。
	副変速レバーが「中立・始動」、送風機クラッチレバーが「切」、噴霧ポンプスイッチが「OFF」になっていない。	副変速レバーを「中立・始動」、送風機クラッチレバーを「切」、噴霧ポンプスイッチを「OFF」にする。
	配線端子のゆるみ、外れ。バッテリー端子のゆるみ、外れ、腐食	締め直し、接続し直し。端子部の清掃、確実に締める。グリスを塗布し防錆する。
	ヒューズ切れ	新しいヒューズと交換する。 再度切れる場合は、ご購入の販売店に相談する。 ☆
	バッテリーの電圧低下	バッテリー液の補充と充電、バッテリーを交換する。
	キースイッチの故障 セルモータの故障	ご購入の販売店に相談する。 ☆
エンジン異常警告ランプが点灯した 11 ページの「⑤ エンジン異常警告ランプ」を参照	オーバーヒート	ラジエータ前のスクリーンおよびフィンの清掃をする。 ご購入の販売店に相談する。 ☆
	エンジン制御システムの異常	ご購入の販売店に相談する。 ☆
	燃料不足	燃料を補給する。 21 ページの「(2) 燃料不足時の対応」を参照 ご購入の販売店に相談する。 ☆
スタータは回るが、エンジンが始動しない	燃料が流れない	ご購入の販売店に連絡する。 ☆
	バッテリーが上がり気味で、エンジンを回す力がない	バッテリーを充電する。 充電されない時は、新品と交換する。
エンジンの回転速度が不安定	燃料噴射ノズルの詰まり	ご購入の販売店に相談する。 ☆
	燃料フィルタの目詰まり	
エンジン出力不足	燃料不足	燃料系統の点検する。
	エアクリーナが目詰まり	エレメントを清掃する。
	圧縮不足	ご購入の販売店に相談する。 ☆
	燃料噴射状態の悪化	
	吸排気弁隙間不適切	
オーバーヒートした (水温警告灯が点灯) 10 ページの「② 水温警告灯」を参照	冷却水量の不足および水漏れ ファンベルトのゆるみ	ご購入の販売店に相談する。 ☆
	ラジエータ前面の詰まり	ラジエータ前のスクリーンおよびフィンの清掃をする。
運転中にオイルプレッシャーランプが点灯した 10 ページの「③ オイルプレッシャーランプ(油圧警告灯)」を参照	エンジンオイル量の不足	オイルを規定量まで補給する。
	エンジンオイルの粘度が低い	適正粘度のオイルと交換する。
	プレッシャスイッチの故障	ご購入の販売店に相談する。 ☆
	オイルランプの故障	
運転中にチャージランプが点灯した 11 ページの「④ チャージランプ(充電警告灯)」を参照	レギュレータの故障	ご購入の販売店に相談する。 ☆
	ファンベルトのゆるみ、破損	

(2) 動力伝達系関係

故障内容	故障原因	対策
走行できない	油圧システムの故障	ご購入の販売店に相談する。 ☆
主変速レバーが停止の位置でも停止しない	ケーブル系統の調整不良	ご購入の販売店に相談する。 ☆
ブレーキの効きが悪い	ブレーキペダルの調整不良	ご購入の販売店に相談する。 ☆
ブレーキが過熱する	ブレーキ操作不良	ブレーキに足を乗せて運転しないようにする。
	ペダルの遊びがない	ご購入の販売店に相談する。 ☆
ブレーキ点検灯が点灯した	ブレーキの摩耗	10 ページの「④ ブレーキ点検灯」を参照 ご購入の販売店に相談する。 ☆

(3) 電装関係

故障内容	故障原因	対策
灯火器が点灯しない	電球切れ	新しい電球と交換する。
	ヒューズ切れ	新しいヒューズと交換する。 再度切れる場合は、ご購入の販売店に相談する。 ☆
	配線端子のゆるみ、外れ	点検の上接続し直す、締め直す。
	スイッチの故障	ご購入の販売店に相談する。 ☆

(4) 散布装置関係

故障内容	故障原因	対策
噴霧量が少ない 圧力が上がらない	薬剤が薬剤タンクに入っていない	必要量、薬剤を入れる。
	送液バルブが「噴霧」位置になっていない	送液バルブを「噴霧」の位置にする。
	エンジン回転速度が低い	スロットルレバーを操作し、回転速度を上げる。
	調圧ダイヤルが調整されていない	調圧ダイヤルを操作し、所要の圧力に合わせる。 (常用圧力 1.5MPa)
	吸水ストレーナの目詰まり	清掃する。
	噴霧用ポンプ V ベルトのスリップ	ご購入の販売店に相談する。 ☆
	噴霧用ポンプのピストンパッキン、吐出弁、吸水弁の摩耗	
	吸水ホース・噴霧ホース接続金具のパッキン損傷、ホースの損傷	
	ノズルの摩耗	
	ノズルの目詰まり	清掃する。
	ノズルの噴霧量が多すぎる	ノズル板を適正水量に組み合わせる。
給水しない 給水に時間がかかる	給水ポンプのインペラ固着	13 ページを参照 ご購入の販売店に相談する。 ☆
	給水ホースの損傷	
	給水ポンプ V ベルトのスリップ	
	電磁クラッチの損傷	
	給水ポンプのインペラ損傷	

お願い

- 上記についてお調べの上で、故障が直らないときは、ご購入の販売店または弊社サポートセンターにご相談ください。

12. 転売・譲渡・廃棄

転売・譲渡

- 本製品を転売・譲渡する場合は、取扱説明書も同時に譲渡してください。取扱方法についてよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- 転売先や譲受者に、製品の状況を説明してください。部品が不足している場合や修理が必要な場合は、修理をするように指導してください。
- 保証書も同時に譲渡してください(保証期間内の場合)。

廃棄

本製品を廃棄するときは、下記のいずれかで行ってください。

- ① お住まいの地域の自治体の指導に従ってください。
- ② ご購入の販売店にご相談ください。
- ③ 中古の農業機械取扱店に引き取りを依頼してください。
- ④ 産業廃棄物処理業者に収集を依頼してください。

※ 製品のお引き取りに関しては有償となる場合もございます。

※ 弊社より産業廃棄物処理業者などのご紹介は行っておりません。

お願い

- 燃料やオイル、バッテリー、クーラントを廃棄する場合は、お住いの自治体の廃棄物担当部署または産業廃棄物処理業者に相談し、所定の規則に従って廃棄してください。

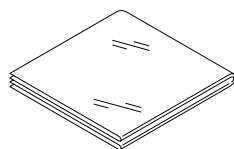
13. 主要諸元

型	式	名	SSA-E1002 α
寸法	全	長 (mm)	3790
	全	幅 (mm)	1445
	全	高 (mm)	1245
	最低	地上高 (mm)	180
	ホイールベース	(mm)	1750
	フロントオーバーハング	(mm)	950
	リヤオーバーハング	(mm)	1090
乾	燥	質 量 (kg)	1320
エンジン	名	称	クボタ WG1605-G
	形	式	水冷4サイクル 立形ガソリンエンジン
	総	排 気 量 (L)	1.537
	定	格 出 力 (kW/min ⁻¹)	25.3/2800
	最	大 出 力 (kW/min ⁻¹)	31.7/2800
	燃	料	自動車用無鉛レギュラーガソリン
走行部	型	式	自走式 4 輪駆動形
	操	作 方 法	丸ハンドル油圧式 4 輪操舵・2 輪操舵切換式
	変	速 段 数	無段変速 (HST) 副変速 2 段
	走 行 速 度	高 速 (H)	前進 : 0 ~ 20.4 後進 : 0 ~ 10.2
	(km/h)	低 速 (L)	前進 : 0 ~ 5.2 後進 : 0 ~ 2.6
	最	高 速 度 (km/h)	20.4
	機体最外側旋回半径	(m)	2.9
	登	坂 能 力 (度)	15
	主	ブ レ ー キ	湿式多板ディスク
	駐	車 ブ レ ー キ	湿式多板ディスク (主ブレーキ兼用)
	走	行 ク ラ ッ チ	油圧回路バイパス方式
	タ	イ ヤ	前輪 : 26X10.00-12 6PR 後輪 : 26X10.00-12 8PR
	バ	ッ テ リ	105D26R
燃 料 タ ン ク 容 量 (L)			32
薬 剤 タ ン ク 容 量 (L)			1000
か く は ん 方 式			プロペラ (機械式)
噴霧用ポンプ	名	称	MS800S
	型	式	往復動横型 3 連ピストン式
	常	用 回 転 速 度 (rpm)	1050
	常	用 圧 力 (MPa)	1.5
	吐	出 量 (L/min)	89.5
送風機	型	式	後置静翼軸流送風機
	常	用 回 転 速 度 (rpm)	2168
	風	量 (m ³ /min)	703
ノズル	種	類	短タレットノズル 長シングルノズル
	個	数	16(切換式 10)
	ノズル噴霧量	(L/min)	80(最大)
	噴	霧 角 度 (度)	260
給水ポンプ	型	式	回転形 MPR4010
	吐	出 量 (L/min)	230
安 全 性 検 査 合 格 番 号			NARO 22/023

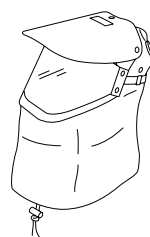
- 改良のため予告なく仕様を変更することがあります。
- 標高 1000m 程度の高地では、エンジンの出力が低下し諸元値よりも低い値となることがあります。

14. オプション(純正品一覧)

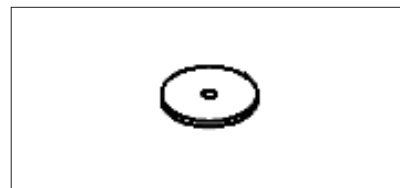
()内は部品番号です
 詳細については丸山製作所のカタログ
 を参照してください。



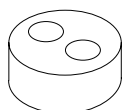
ビニールシートカバー LL
 (142008)



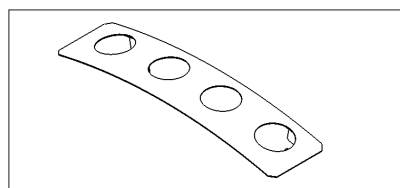
防除ヘルメット
 MAP252P-1
 (461469)



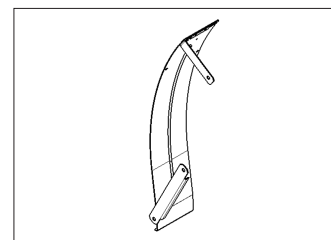
ノズル板
 穴径 0.7~2.1 無穴



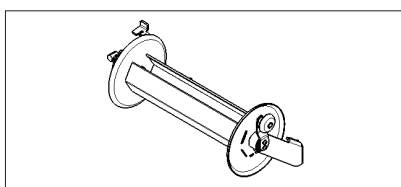
中子 広角タイプ
 (141663)



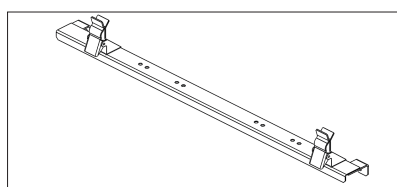
制風板 棚用
 (699985)



遮断板
 (689066)



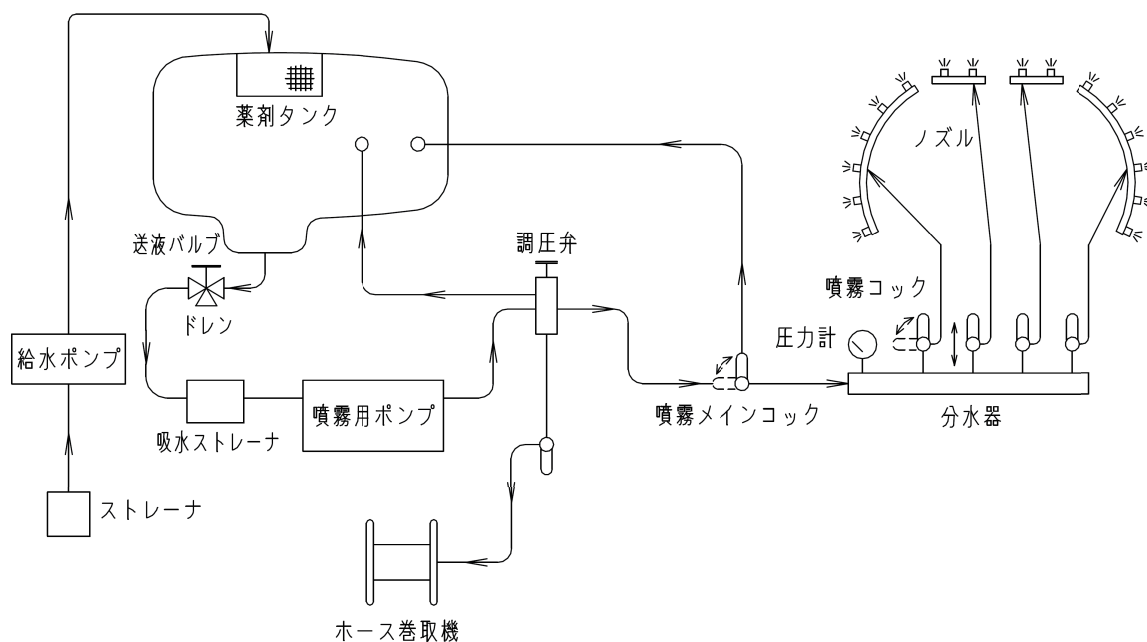
リヤマキシヤ
 (699988)



ノズルホルダー
 (685497)

オ
プ
シ
ヨ
ン
(
別
売
)

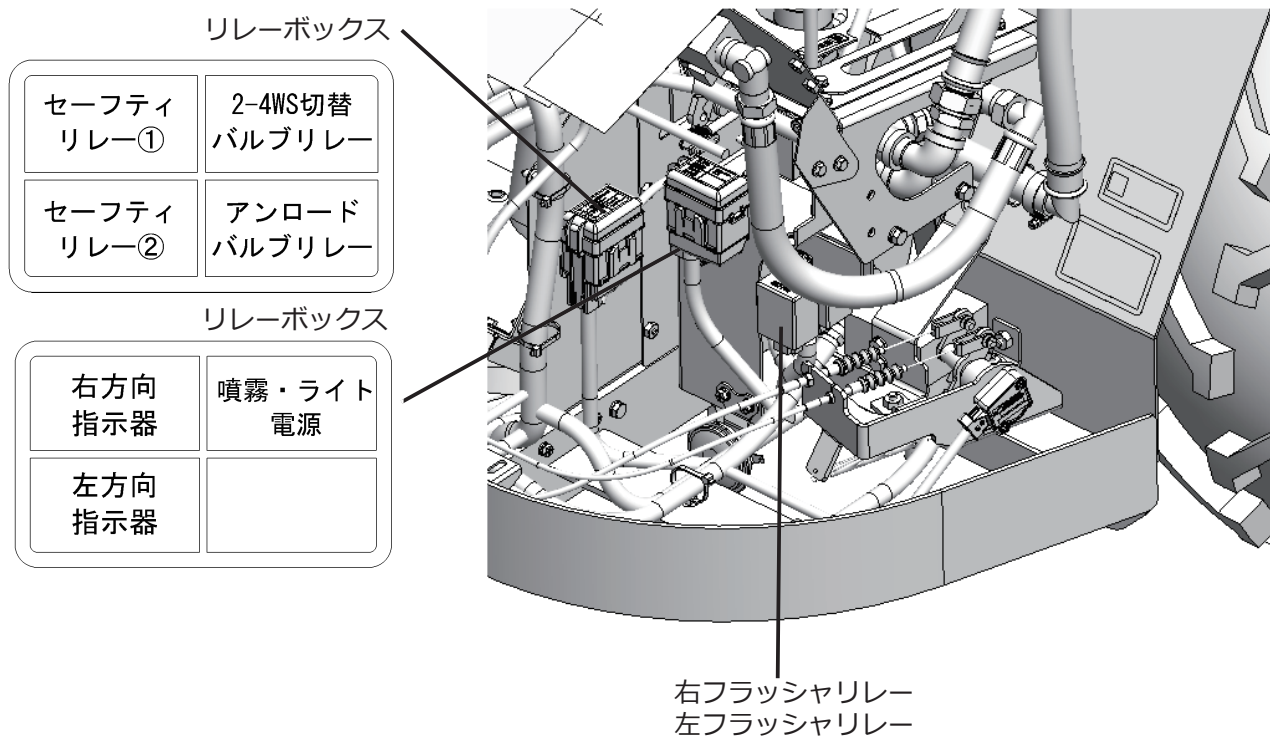
15. 配管系統図



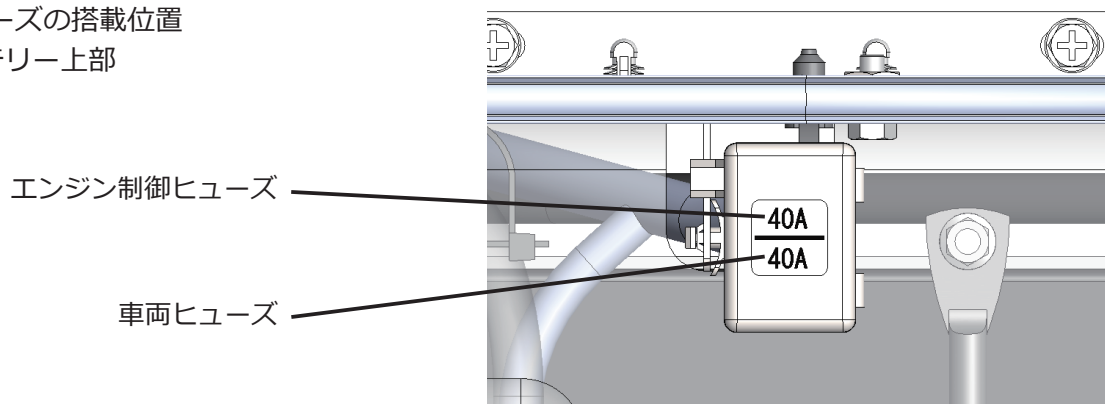
※ 配管の中の矢印は、水または薬剤の流れる方向を示しています。

16. 電装品

- リレーの搭載位置
- ・ フロントパネル内側



- ヒューズの搭載位置
- ・ バッテリー上部

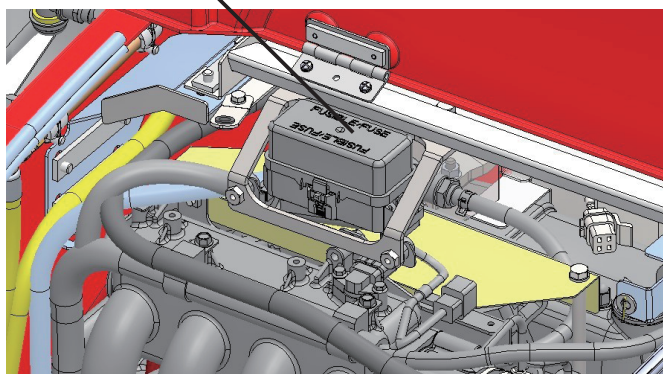


■ ヒューズの搭載位置

・エンジンヒューズ

ヒューズ・リレーボックス

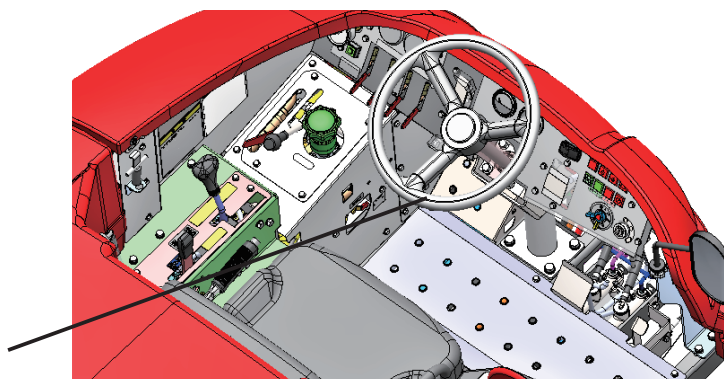
STARTER RELAY		POWER RELAY		FUEL PUMP RELAY	
F6 IGNITION 15A	F5 EMPTY	F4 FUEL PUMP 15A	F3 STARTER 30A	F2 VSW 5A	F1 ECM 10A



・計器パネル

ヒューズボックス

10A	予備	予備	ヒューズ ブザー
5A	燃料ゲージ タコメータ アワメータ パイロットランプ	30A	15A ホーン ヘッドライト
10A	バックランプ	15A	10A ウインカ
5A	ECU電源	15A	10A 操舵切替
30A	メイン1	5A	10A 噴霧用ポンプ
5A	キースタート	30A	メイン2



サービスと保証について

■ 保証書について

保証書はお客様が保証期間中に保証修理を受けるときに、ご提示いただくものです。所定事項が漏れなく記入されているか確認し、お読みになられた後は大切に保管してください。

本製品を改造した場合や取扱説明書に記載の正しい使用目的と異なる場合や、使用上の誤りは、メーカーの保証対象外になりますので、ご注意ください。

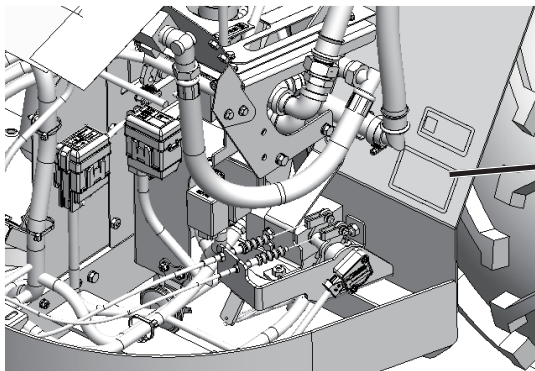
■ アフターサービスについて

○ 本製品を安全にご使用いただくには、正しい操作と定期的な整備が不可欠です。年に一度は、ご購入の販売店に点検整備を依頼してください。このときの整備は有料となります。

○ 始業点検時や使用中に不具合が発見された場合は、直ちに適切な整備をしてください。または、ご購入の販売店にご連絡ください。

○ 連絡していただく内容

- 型式名 _____
- 製造番号 _____
- 故障内容 なにが・どうしたら・どんな状態で・どうなったかを詳しくお話しください。



農業機械の種類	スピードスプレー
製品コード	315388
型式名	SSA-E1002アルファ
区分	
製造番号	*****
製造会社	 吉川精工株式会社 東京都千代田区内神田3-4-15

■ 補修部品の供給年限について

本製品の補修用部品の供給年限は、製品の製造打ち切り後9年です。

ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合があります。補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。



しっかり点検！安心・長持ち！
未永くお使いいただくためにも
定期的な点検・整備をお勧めします。
詳しくはお求めいただいた販売店までお気軽にご相談ください。



本製品に関するお問い合わせなどは、ご購入の販売店にご相談ください。または、下記の全国共通の無料通話あるいは丸山製作所ホームページでもお受けいたします。

丸山サポートセンター

無料通話 0120 - 898 - 114

丸山サポートセンターホームページ

<http://www.maruyama.co.jp/support/>



受付時間 9:00~17:00(土、日、祝日を除く)

本製品に関してお問合せいただく際は、正確にご対応させていただくため、あらかじめ、下記の事項をご準備ください。

- ① 型式名、製造番号
- ② ご購入年月日
- ③ 販売店名

※ 修理依頼、補修用部品・オプションのご注文は、ご購入の販売店または取扱店へ依頼してください。



株式会社丸山製作所

本社 / 東京都千代田区内神田 3-4-15 TEL (03)3252-2281(営・代表) 〒 101-0047